

## 学生の確保の見通し等を記載した書類 資料

### 資料目次

- 【資料1】「本学及び近隣私立大学薬学部（6年制）の入学者数等一覧」・・・P.3
- 【資料2】日本私立学校振興・共済事業団「令和2（2020）年度 私立大学・短期大学等 入学志願動向（2）博士課程及び博士後期課程」・・・P.4
- 【資料3】「近隣私立大学大学院薬学研究科（4年制）入学者数等一覧」・・・P.5
- 【資料4】一般社団法人薬学教育協議会「令和2年3月の調査結果 令和2年3月6年制学科卒業生調査結果」・・・P.6
- 【資料5】「本学薬学部卒業生の卒業後の状況について」・・・P.12
- 【資料6】「金城学院大学大学院薬学研究科医療薬学専攻（博士課程）」（仮称）設置に関するニーズ調査結果報告書【薬学部薬学科所属の学生対象】・・・P.13
- 【資料7】「金城学院大学大学院薬学研究科医療薬学専攻（博士課程）」（仮称）設置に関するニーズ調査結果報告書【現職薬剤師対象】・・・P.27
- 【資料8】金城学院大学大学院「薬学研究科医療薬学専攻（博士課程）」（仮称）の設置計画の概要・・・P.46
- 【資料9】「金城学院大学大学院薬学研究科薬学専攻（博士課程）」（仮称）設置に関するニーズ調査結果報告書【薬学部薬学科所属の在学生対象】・・・P.48
- 【資料10】「金城学院大学大学院薬学研究科薬学専攻（博士課程）」（仮称）設置に関するニーズ調査結果報告書【現職薬剤師対象】・・・P.67
- 【資料11】「近隣私立大学大学院薬学研究科の学費一覧」・・・P.85
- 【資料12】日本学術会議薬学委員会医療系薬学分科会による「社会に貢献する医療系薬学研究の推進」報告書（平成29年9月29日）・・・P.86

- 【資料 13】日本学術会議薬学委員会薬剤師職能とキャリアパス分科会による  
「提言 持続可能な医療を担う薬剤師の職能と生涯研鑽」  
(令和 2 年 9 月 4 日) . . . . . P.91
- 【資料 14】「国公立薬系大学院博士課程修了者動向（6 年制学科卒）と 6 年制学科卒業生  
就職状況の比較」 出典：一般社団法人薬学教育協議会  
「令和 2 年 3 月 調査結果」第 2 表及び第 13 表をもとに作成 . . . . . P.95
- 【資料 15】「金城学院大学大学院薬学研究科医療薬学専攻（博士課程）」（仮称）  
設置に関するニーズ調査 結果報告書【医療施設対象】 . . . . . P.96
- 【資料 16】「金城学院大学大学院薬学研究科薬学専攻（博士課程）」（仮称）  
設置に関するニーズ調査結果報告書【医療施設対象】 . . . . . P.128

本学及び近隣私立大学薬学部（6年制）の入学者数等一覧

大学名	学部名	入学定員	年度	平成27 年度	平成28 年度	平成29 年度	平成30 年度	令和元 年度	令和2 年度	定員充 足率平 均値
金城学院大学	薬学部	150	入学者数	162	152	158	160	150	141	102.6%
			定員充足率	108.0%	101.3%	105.3%	106.7%	100.0%	94.0%	
			受験者数	886	1045	1026	918	904	851	
愛知学院大学	薬学部	145	入学者数	147	169	144	143	144	144	102.4%
			定員充足率	101.4%	116.6%	99.3%	98.6%	99.3%	99.3%	
鈴鹿医療科学大学	薬学部	100	入学者数	112	98	109	108	106	90	103.8%
			定員充足率	112.0%	98.0%	109.0%	108.0%	106.0%	90.0%	
名城大学	薬学部	265	入学者数	285	269	292	274	258	289	104.8%
			定員充足率	107.5%	101.5%	110.2%	103.4%	97.4%	109.1%	
岐阜医療科学大学	薬学部	100	入学者数	/	/	/	/	/	79	/
			定員充足率	/	/	/	/	/	79.0%	

※各大学のHP等の公開情報をもとに本学で作成

## (2) 博士課程及び博士後期課程

全研究科を『今日の私学財政』の系統区分と同様に区分した（研究科系統区分については、87ページを参照）。  
なお、集計研究科数が2以下の研究科系統区分は、「その他」の区分に含めた。

区 分	年 度	集計 研究科数	入学定員 A	志願者 B	受験者 C	合格者 D	入学者 E	志願倍率 B/A	合格率 D/C	歩留率 E/D	入学定員 充足率 E/A
		研究科	人	人	人	人	人	倍	%	%	%
医学	R元	29	1,496	1,213	1,206	1,168	1,143	0.81	96.85	97.86	76.40
	R2	29	1,512	1,080	1,071	1,039	1,019	0.71	97.01	98.08	67.39
	増減	0	16	△ 133	△ 135	△ 129	△ 124	△ 0.10	0.16	0.22	△ 9.01
歯学	R元	17	358	322	319	310	302	0.90	97.18	97.42	84.36
	R2	17	358	325	324	317	306	0.91	97.84	96.53	85.47
	増減	0	0	3	5	7	4	0.01	0.66	△ 0.89	1.11
薬学	R元	51	241	258	256	253	235	1.07	98.83	92.89	97.51
	R2	52	244	257	256	251	239	1.05	98.05	95.22	97.95
	増減	1	3	△ 1	0	△ 2	4	△ 0.02	△ 0.78	2.33	0.44
保健系	R元	72	419	418	416	370	363	1.00	88.94	98.11	86.63
	R2	81	445	432	426	372	361	0.97	87.32	97.04	81.12
	増減	9	26	14	10	2	△ 2	△ 0.03	△ 1.62	△ 1.07	△ 5.51
理・工学系	R元	115	1,742	776	770	748	703	0.45	97.14	93.98	40.36
	R2	114	1,733	864	855	820	768	0.50	95.91	93.66	44.32
	増減	△ 1	△ 9	88	85	72	65	0.05	△ 1.23	△ 0.32	3.96
農学系	R元	19	197	120	120	110	105	0.61	91.67	95.45	53.30
	R2	20	200	108	107	101	96	0.54	94.39	95.05	48.00
	増減	1	3	△ 12	△ 13	△ 9	△ 9	△ 0.07	2.72	△ 0.40	△ 5.30
人文科学系	R元	129	1,302	643	616	486	472	0.49	78.90	97.12	36.25
	R2	129	1,291	583	547	402	381	0.45	73.49	94.78	29.51
	増減	0	△ 11	△ 60	△ 69	△ 84	△ 91	△ 0.04	△ 5.41	△ 2.34	△ 6.74
社会科学系	R元	247	1,526	709	683	444	412	0.46	65.01	92.79	27.00
	R2	246	1,500	695	661	428	409	0.46	64.75	95.56	27.27
	増減	△ 1	△ 26	△ 14	△ 22	△ 16	△ 3	0.00	△ 0.26	2.77	0.27
家政学	R元	16	59	26	25	21	21	0.44	84.00	100.00	35.59
	R2	16	57	29	28	27	27	0.51	96.43	100.00	47.37
	増減	0	△ 2	3	3	6	6	0.07	12.43	0.00	11.78
教育学	R元	15	101	118	111	71	68	1.17	63.96	95.77	67.33
	R2	14	98	85	83	64	61	0.87	77.11	95.31	62.24
	増減	△ 1	△ 3	△ 33	△ 28	△ 7	△ 7	△ 0.30	13.15	△ 0.46	△ 5.09
芸術系	R元	21	116	111	105	68	67	0.96	64.76	98.53	57.76
	R2	21	116	121	119	57	57	1.04	47.90	100.00	49.14
	増減	0	0	10	14	△ 11	△ 10	0.08	△ 16.86	1.47	△ 8.62
その他	R元	118	959	759	753	567	534	0.79	75.30	94.18	55.68
	R2	121	971	817	805	609	561	0.84	75.65	92.12	57.78
	増減	3	12	58	52	42	27	0.05	0.35	△ 2.06	2.10
合 計	R元	849	8,516	5,473	5,380	4,616	4,425	0.64	85.80	95.86	51.96
	R2	860	8,525	5,396	5,282	4,487	4,285	0.63	84.95	95.50	50.26
	増減	11	9	△ 77	△ 98	△ 129	△ 140	△ 0.01	△ 0.85	△ 0.36	△ 1.70

※日本私立学校振興・共済事業団「令和2（2020）年度私立大学・短期大学等入学志願動向 p.83 IX 区分ごとの動向（大学院）1. 研究科系統別の動向（大学院）（2）博士課程及び博士後期課程」



## 近隣私立大学大学院薬学研究科（4年制）入学者数等一覧

大学名	研究科名	入学定員 (下段薬 学部入学 定員)	学部の入 学定員に 対する比 率	年度	平成29 年度	平成30 年度	令和元 年度	令和2 年度	定員充足 率平均値
愛知学院大学 大学院	薬学研究科 医療薬学専攻	3	2.1%	入学者数	2	1	3	0	50.0%
		145		定員充足率	66.7%	33.3%	100.0%	0.0%	
鈴鹿医療科学 大学大学院	薬学研究科 医療薬学専攻	2	2.0%	入学者数	2	2	2	3	112.5%
		100		定員充足率	100.0%	100.0%	100.0%	150.0%	
名城大学大学院	薬学研究科 薬学専攻	4	1.5%	入学者数	7	3	7	5	137.5%
		265		定員充足率	175.0%	75.0%	175.0%	125.0%	

※各大学のHP等の公開情報をもとに本学で作成

第1表 令和2年3月 6年制学科卒業生調査結果

		男		女		計	
		人数	%	人数	%	人数	%
就職した者		3,225	80.4%	5,349	84.2%	8,574	82.7%
就職しなかった者	無給研究生	8	0.2%	6	0.1%	14	0.1%
	進学	105	2.6%	59	0.9%	164	1.6%
	非就職者	124	3.1%	134	2.1%	258	2.5%
	未定（未報告を含む）	547	13.6%	806	12.7%	1,353	13.1%
計		4,009	100.0%	6,354	100.0%	10,363	100.0%

（令和元年に卒業延期となって、令和2年3月までに卒業した学生数889名を含む）

第2表 令和2年3月 6年制学科卒業生就職状況

分類	細分類		男		女		計	
			人数	%	人数	%	人数	%
保険薬局	保険薬局		1,112	27.7%	1,901	29.9%	3,013	29.1%
	ドラッグストアの調剤部門		788	19.7%	1,013	15.9%	1,801	17.4%
医薬品販売業	一般販売業（ドラッグストア等）		47	1.2%	58	0.9%	105	1.0%
	卸売販売業		26	0.6%	38	0.6%	64	0.6%
病院・診療所	薬剤部（薬剤科）	国立大学法人附属病院・独立行政法人病院	121	3.0%	226	3.6%	347	3.3%
		公立大学法人附属病院・自治体病院・自治体診療所	121	3.0%	237	3.7%	358	3.5%
		私立大学病院附属病院・一般病院・一般診療所	393	9.8%	947	14.9%	1,340	12.9%
	臨床・検査	国立大学法人附属病院・独立行政法人病院	0	0.0%	4	0.1%	4	0.0%
		公立大学法人附属病院・自治体病院・自治体診療所	0	0.0%	1	0.0%	1	0.0%
		私立大学病院附属病院・一般病院・一般診療所	0	0.0%	1	0.0%	1	0.0%
	その他		3	0.1%	2	0.0%	5	0.0%
試験・研究機関	研究・開発・学術		6	0.1%	21	0.3%	27	0.3%
	その他		2	0.0%	2	0.0%	4	0.0%
大学	国立大学法人		0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
	公立大学法人		0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
	私立大学法人		0	0.0%	2	0.0%	2	0.0%
行政	衛生行政	国家公務員	11	0.3%	15	0.2%	26	0.3%
		地方公務員	85	2.1%	121	1.9%	206	2.0%
	その他		9	0.2%	12	0.2%	21	0.2%
企業	医薬品関連企業	開発・学術	91	2.3%	221	3.5%	312	3.0%
		医薬情報担当者	158	3.9%	141	2.2%	299	2.9%
		研究・試験・製造	76	1.9%	73	1.1%	149	1.4%
		その他の職種	27	0.7%	50	0.8%	77	0.7%
	化学系企業	開発・学術	7	0.2%	19	0.3%	26	0.3%
		営業	4	0.1%	19	0.3%	23	0.2%
		研究・試験・製造	12	0.3%	24	0.4%	36	0.3%
その他の職種		8	0.2%	15	0.2%	23	0.2%	
高校・中学の教員			0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
研究生	有給	大学・付置研究所	12	0.3%	24	0.4%	36	0.3%
		公的研究機関	0	0.0%	1	0.0%	1	0.0%
		病院	11	0.3%	37	0.6%	48	0.5%
	無給	大学・付置研究所	4	0.1%	5	0.1%	9	0.1%
		公的研究機関	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
		病院	4	0.1%	1	0.0%	5	0.0%
その他の職業			95	2.4%	124	2.0%	219	2.1%
進学			105	2.6%	59	0.9%	164	1.6%
就職せず			124	3.1%	134	2.1%	258	2.5%
未定（未報告を含む）			547	13.6%	806	12.7%	1,353	13.1%
計			4,009	100.0%	6,354	100.0%	10,363	100.0%

第7表 令和2年3月 4年制学科卒業生調査結果

		男		女		計	
		人数	%	人数	%	人数	%
就職した者		110	13.4%	157	31.2%	267	20.2%
就職しなかった者	無給研究生	3	0.4%	0	0.0%	3	0.2%
	進学	679	82.6%	330	65.6%	1,009	76.2%
	非就職者	16	1.9%	8	1.6%	24	1.8%
	未定（未報告を含む）	14	1.7%	8	1.6%	22	1.7%
計		822	100.0%	503	100.0%	1,325	100.0%

第8表 令和2年3月 4年制学科卒業生就職状況

分類	細分類		男		女		計	
			人数	%	人数	%	人数	%
保険薬局	保険薬局		1	0.1%	8	1.6%	9	0.7%
	ドラッグストアの調剤部門		0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
医薬品販売業	一般販売業（ドラッグストア等）		12	1.5%	21	4.2%	33	2.5%
	卸売販売業		5	0.6%	6	1.2%	11	0.8%
病院・診療所	薬剤部（薬剤科）	国立大学法人附属病院・独立行政法人病院	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
		公立大学法人附属病院・自治体病院・自治体診療所	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
		私立大学病院附属病院・一般病院・一般診療所	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
	臨床・検査	国立大学法人附属病院・独立行政法人病院	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
		公立大学法人附属病院・自治体病院・自治体診療所	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
		私立大学病院附属病院・一般病院・一般診療所	0	0.0%	6	1.2%	6	0.5%
	その他		8	1.0%	7	1.4%	15	1.1%
試験・研究機関	研究・開発・学術		0	0.0%	5	1.0%	5	0.4%
	その他		1	0.1%	0	0.0%	1	0.1%
大学	国立大学法人		0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
	公立大学法人		0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
	私立大学法人		0	0.0%	1	0.2%	1	0.1%
行政	衛生行政	国家公務員	1	0.1%	0	0.0%	1	0.1%
		地方公務員	3	0.4%	5	1.0%	8	0.6%
	その他		4	0.5%	2	0.4%	6	0.5%
企業	医薬品関連企業	開発・学術	6	0.7%	14	2.8%	20	1.5%
		医薬情報担当者	5	0.6%	9	1.8%	14	1.1%
		研究・試験・製造	1	0.1%	6	1.2%	7	0.5%
		その他の職種	7	0.9%	5	1.0%	12	0.9%
	化学系企業	開発・学術	1	0.1%	5	1.0%	6	0.5%
		営業	2	0.2%	0	0.0%	2	0.2%
		研究・試験・製造	0	0.0%	5	1.0%	5	0.4%
		その他の職種	4	0.5%	11	2.2%	15	1.1%
高校・中学の教員			2	0.2%	1	0.2%	3	0.2%
研究生	有給	大学・付置研究所	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
		公的研究機関	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
		病院	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
	無給	大学・付置研究所	3	0.4%	0	0.0%	3	0.2%
		公的研究機関	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
		病院	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
その他の職業			47	5.7%	40	8.0%	87	6.6%
進学			679	82.6%	330	65.6%	1,009	76.2%
就職せず			16	1.9%	8	1.6%	24	1.8%
未定（未報告を含む）			14	1.7%	8	1.6%	22	1.7%
計			822	100.0%	503	100.0%	1,325	100.0%

第13表 令和2年3月 国公立薬系大学院博士課程修了者動向（6年制学科卒）

		国公立大学			私立大学			全大学		
		博士			博士			博士		
		男	女	計	男	女	計	男	女	計
修了者総数		39	15	54	55	28	83	94	43	137
進路	① 保険薬局	1	0	1	3	0	3	4	0	4
	② 病院薬剤部（薬剤科）	8	1	9	10	3	13	18	4	22
	③ 医薬品関連企業（営業・MR）	2	0	2	0	0	0	2	0	2
	④ 医薬品関連企業（研究・開発）	5	4	9	13	7	20	18	11	29
	⑤ 医薬品関連企業（その他）	2	2	4	2	0	2	4	2	6
	⑥ 化学系企業	3	0	3	3	3	6	6	3	9
	⑦ 行政	0	1	1	0	1	1	0	2	2
	⑧ 試験・研究機関・大学	14	6	20	16	9	25	30	15	45
	⑨ その他の職業	0	0	0	3	1	4	3	1	4
	⑩ 非就職者	4	1	5	5	4	9	9	5	14

第16表 令和2年3月 国公立薬系大学院修士および博士課程修了者動向（4年制学科卒）

	国公立大学						私立大学						全大学						
	修士			博士			修士			博士			修士			博士			
	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	
修了者総数	512	237	749	105	44	149	188	124	312	12	7	19	700	361	1,061	117	51	168	
進路	① 保険薬局	0	1	1	0	1	1	0	1	1	0	0	0	0	2	2	0	1	1
	② 病院薬剤部（薬剤科）	0	0	0	4	5	9	0	1	1	2	0	2	0	1	1	6	5	11
	③ 医薬品関連企業（営業・MR）	8	2	10	0	0	0	9	6	15	0	0	0	17	8	25	0	0	0
	④ 医薬品関連企業（研究・開発）	196	96	292	45	11	56	69	47	116	2	1	3	265	143	408	47	12	59
	⑤ 医薬品関連企業（その他）	36	19	55	2	3	5	22	18	40	0	0	0	58	37	95	2	3	5
	⑥ 化学系企業	59	21	80	10	2	12	28	16	44	0	1	1	87	37	124	10	3	13
	⑦ 行政	7	7	14	5	3	8	0	2	2	1	1	2	7	9	16	6	4	10
	⑧ 試験・研究機関・大学	4	5	9	28	11	39	2	5	7	5	2	7	6	10	16	33	13	46
	⑨ その他の職業	44	21	65	3	3	6	24	5	29	0	1	1	68	26	94	3	4	7
	⑩ 進学者	132	44	176	0	0	0	28	18	46	0	0	0	160	62	222	0	0	0
	⑪ 非就職者	26	21	47	8	5	13	6	5	11	2	1	3	32	26	58	10	6	16

※一般社団法人薬学教育協議会「就職動向調査結果報告書（一部）令和2年3月の調査結果 令和2年3月6年制学科卒業生調査結果」

## 本学薬学部卒業生の卒業後の状況について

年度	卒業生数	卒業後の状況 内訳		
		大学院進学	就職者	その他
令元年度	136	0	104	32
平成30年度	204	3	141	60
平成29年度	158	0	113	45
平成28年度	142	1	94	47
平成27年度	152	2	117	33
平成26年度	72	0	44	28



---

---

金城学院大学大学院  
「薬学研究科 医療薬学専攻(博士課程)」  
(仮称)  
設置に関するニーズ調査  
結果報告書  
【薬学部薬学科所属の在学生対象】

---

---

令和3年3月  
株式会社 進研アド  
—学生確保(資料)—13—

# 薬学部薬学科所属の在学生対象 調査概要

## 1. 調査目的

2022年4月開設予定の金城学院大学大学院「薬学研究科 医療薬学専攻(博士課程)」の設置構想に関して、在学生ニーズを把握する。

## 2. 調査概要

		在学生対象調査
調査対象		金城学院大学 薬学部 薬学科に所属する在学生 (薬学部 薬学科5年生、薬学部 薬学科4年生、 薬学部 薬学科3年生、薬学部 薬学科2年生、 薬学部 薬学科1年生)
調査方法		インターネット調査
調査 対象数	学生数	752人
	回収数	603人
	回収率	80.2%
調査時期		2021年1月27日(水)～2021年2月3日(水)
調査実施機関		株式会社 進研アド

## 3. 調査項目

在学生対象調査
<ul style="list-style-type: none"><li>・ 学年</li><li>・ 金城学院大学大学院「薬学研究科 医療薬学専攻(博士課程)」設置計画に対する興味・関心度</li><li>・ 金城学院大学大学院「薬学研究科 医療薬学専攻(博士課程)」への進学希望</li></ul>

# 薬学部薬学科所属の在学生対象 調査結果まとめ



# 薬学部薬学科所属の在学生対象 調査結果まとめ

※本調査は、金城学院大学大学院「薬学研究科 医療薬学専攻(博士課程)」に対する需要を確認するための調査として設計しており、金城学院大学薬学部薬学科に所属する在学生である5年生計140名、4年生計158名、3年生計156名、2年生計154名、1年生計144名に調査を実施し、5年生計74名、4年生計123名、3年生計139名、2年生計132名、1年生計135名から回答を得た。

## 5年生の回答

- ・薬学部 薬学科5年生140名に配布、74名から回答を得た。
- ・金城学院大学大学院「薬学研究科 医療薬学専攻(博士課程)」に対する興味・関心度を聞いたところ、「興味・関心を持った」と回答したのは6.8%であり、「少し興味・関心を持った」の回答とあわせると、37.8%の学生が興味・関心を持っていた。
- ・進学希望については、2.7%(2名)が「希望したいと思う」と回答しており、本構想における入学定員数(2名)を満たす進学希望が示された結果となった。

## 4年生の回答

- ・薬学部 薬学科4年生158名に配布、123名から回答を得た。
- ・金城学院大学大学院「薬学研究科 医療薬学専攻(博士課程)」に対する興味・関心度を聞いたところ、「興味・関心を持った」と回答したのは4.9%であり、「少し興味・関心を持った」の回答とあわせると、52.8%の学生が興味・関心を持っていた。
- ・進学希望については、3.3%(4名)が「希望したいと思う」と回答しており、本構想における入学定員数(2名)の2倍が進学希望を示した結果となった。

# 薬学部薬学科所属の在学生対象 調査結果まとめ (参考)

## 3年生の回答

- ・薬学部 薬学科3年生156名に配布、139名から回答を得た。
- ・金城学院大学大学院「薬学研究科 医療薬学専攻(博士課程)」に対する興味・関心度を聞いたところ、「興味・関心を持った」と回答したのは6.5%であり、「少し興味・関心を持った」の回答とあわせると、51.8%の学生が興味・関心を持っていた。
- ・進学希望については、7.2%(10名)が「希望したいと思う」と回答しており、本構想における入学定員数(2名)を大きく上回る進学希望を示した結果となった。

## 2年生の回答

- ・薬学部 薬学科2年生154名に配布、132名から回答を得た。
- ・金城学院大学大学院「薬学研究科 医療薬学専攻(博士課程)」に対する興味・関心度を聞いたところ、「興味・関心を持った」と回答したのは3.8%であり、「少し興味・関心を持った」の回答とあわせると、47.7%の学生が興味・関心を持っていた。
- ・進学希望については、1.5%(2名)が「希望したいと思う」と回答しており、本構想における入学定員数(2名)を満たす進学希望が示された結果となった。

## 1年生の回答

- ・薬学部 薬学科1年生144名に配布、135名から回答を得た。
- ・金城学院大学大学院「薬学研究科 医療薬学専攻(博士課程)」に対する興味・関心度を聞いたところ、「興味・関心を持った」と回答したのは8.1%であり、「少し興味・関心を持った」の回答とあわせると、62.2%の学生が興味・関心を持っていた。
- ・進学希望については、8.1%(11名)が「希望したいと思う」と回答しており、本構想における入学定員数(2名)を大きく上回る進学希望を示した結果となった。

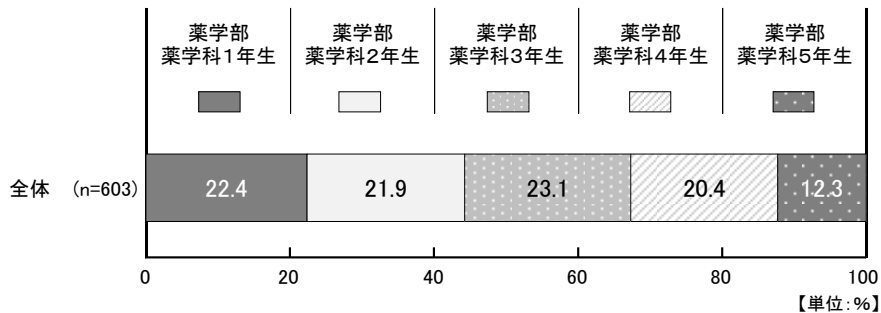
# 薬学部薬学科所属の在学生対象 調査結果



# 在学生 集計結果

## ■学年

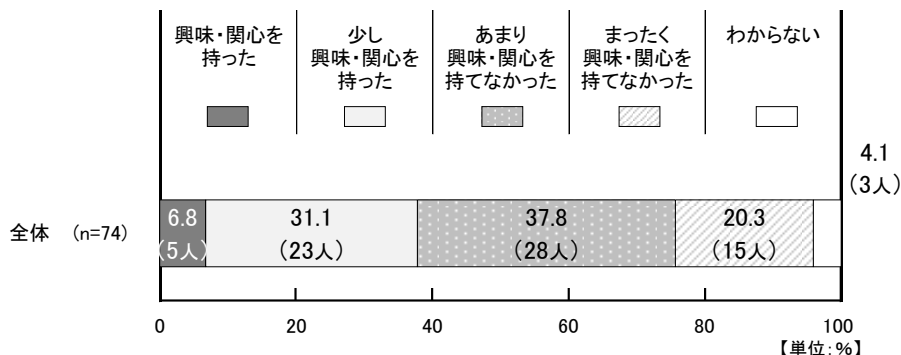
①. あなたの学年を教えてください。(選択必須)



# 金城学院大学大学院「薬学研究科 医療薬学専攻(博士課程)」 設置計画に対する興味・関心度/進学希望(5年生)

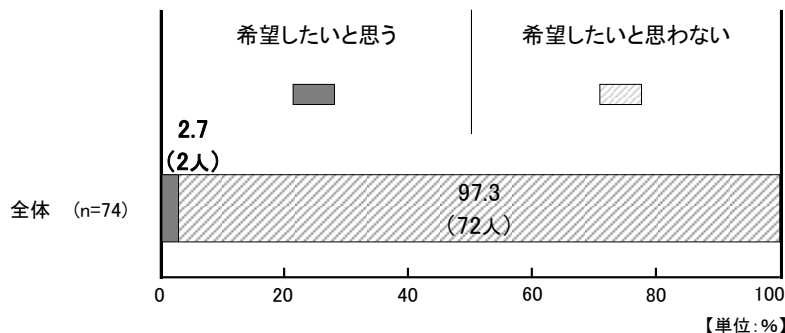
## ■金城学院大学大学院「薬学研究科 医療薬学専攻(博士課程)」 設置計画に対する興味・関心度

②. 薬学研究科医療薬学専攻(博士課程)の設置計画について、どのように感じましたか。(選択必須)



## ■金城学院大学大学院「薬学研究科 医療薬学専攻(博士課程)」への 進学希望

③. 薬学研究科医療薬学専攻(博士課程)への進学を希望されますか。(選択必須)

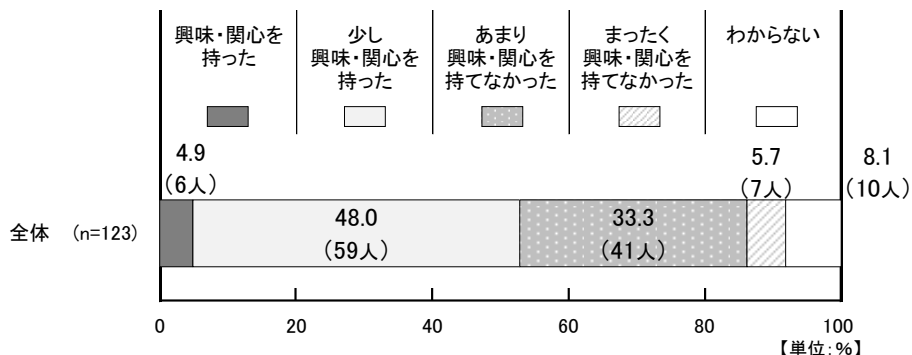




# 金城学院大学大学院「薬学研究科 医療薬学専攻(博士課程)」 設置計画に対する興味・関心度/進学希望(4年生)

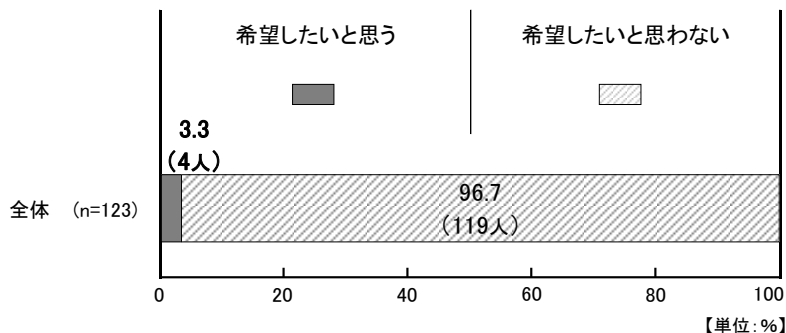
## ■金城学院大学大学院「薬学研究科 医療薬学専攻(博士課程)」 設置計画に対する興味・関心度

②. 薬学研究科医療薬学専攻(博士課程)の設置計画について、どのように感じましたか。(選択必須)



## ■金城学院大学大学院「薬学研究科 医療薬学専攻(博士課程)」への 進学希望

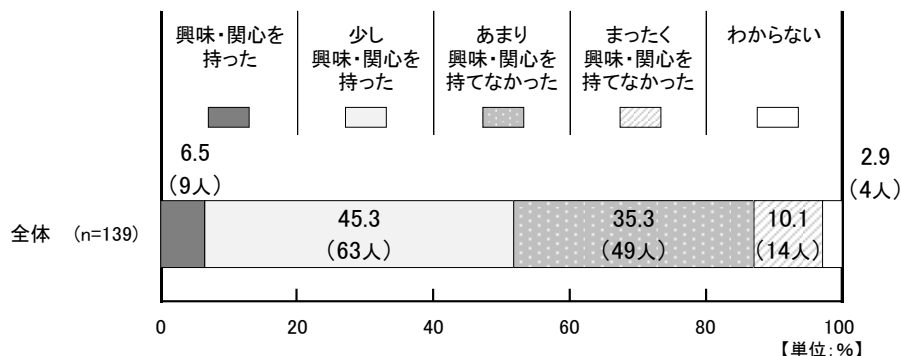
③. 薬学研究科医療薬学専攻(博士課程)への進学を希望されますか。(選択必須)



# 金城学院大学大学院「薬学研究科 医療薬学専攻(博士課程)」 設置計画に対する興味・関心度/進学希望(3年生)

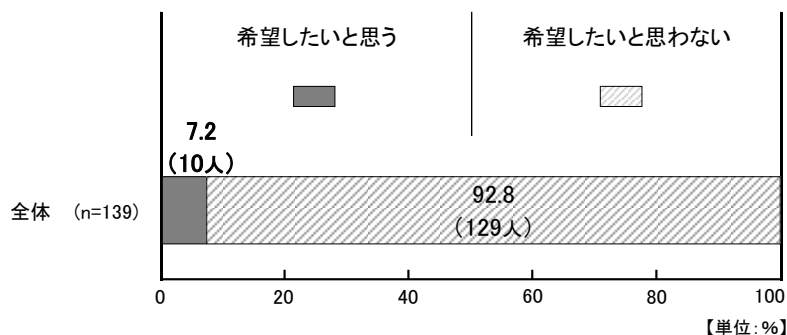
## ■金城学院大学大学院「薬学研究科 医療薬学専攻(博士課程)」 設置計画に対する興味・関心度

②. 薬学研究科医療薬学専攻(博士課程)の設置計画について、どのように感じましたか。(選択必須)



## ■金城学院大学大学院「薬学研究科 医療薬学専攻(博士課程)」への 進学希望

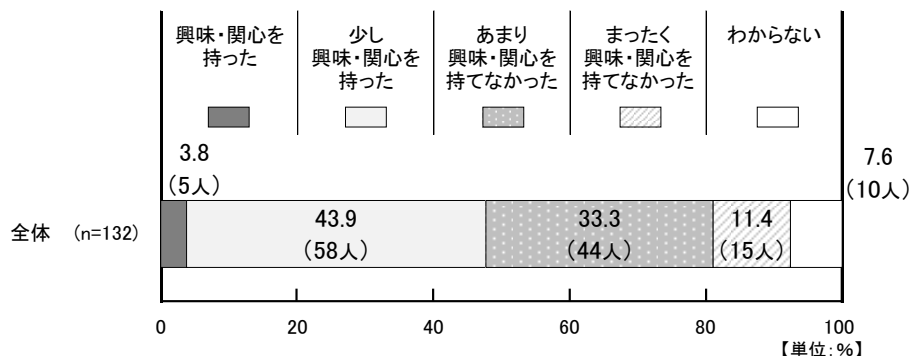
③. 薬学研究科医療薬学専攻(博士課程)への進学を希望されますか。(選択必須)



# 金城学院大学大学院「薬学研究科 医療薬学専攻(博士課程)」 設置計画に対する興味・関心度/進学希望(2年生)

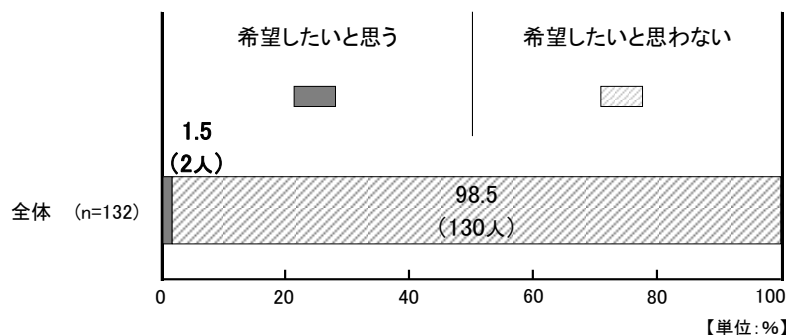
## ■金城学院大学大学院「薬学研究科 医療薬学専攻(博士課程)」 設置計画に対する興味・関心度

②. 薬学研究科医療薬学専攻(博士課程)の設置計画について、どのように感じましたか。(選択必須)



## ■金城学院大学大学院「薬学研究科 医療薬学専攻(博士課程)」への 進学希望

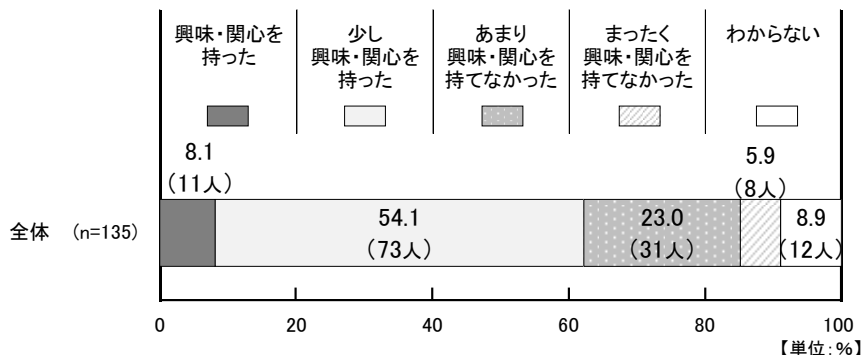
③. 薬学研究科医療薬学専攻(博士課程)への進学を希望されますか。(選択必須)



# 金城学院大学大学院「薬学研究科 医療薬学専攻(博士課程)」 設置計画に対する興味・関心度/進学希望(1年生)

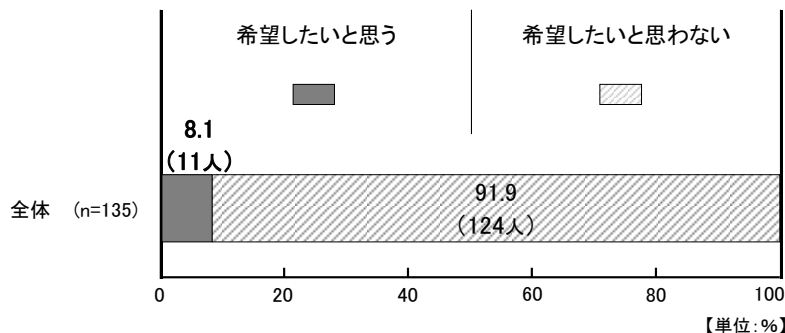
## ■金城学院大学大学院「薬学研究科 医療薬学専攻(博士課程)」 設置計画に対する興味・関心度

②. 薬学研究科医療薬学専攻(博士課程)の設置計画について、どのように感じましたか。(選択必須)



## ■金城学院大学大学院「薬学研究科 医療薬学専攻(博士課程)」への 進学希望

③. 薬学研究科医療薬学専攻(博士課程)への進学を希望されますか。(選択必須)



## 卷末資料 調查票



# 調査票

---

## 金城学院大学 薬学研究科[在學生用アンケート]調査票

①あなたの学年を教えてください。(選択必須)

1. 1年      2. 2年      3. 3年      4. 4年      5. 5年

②薬学研究科医療薬学専攻(博士課程)の設置計画について、どのように感じましたか。(選択必須)

1. 興味・関心を持った
2. 少し興味・関心を持った
3. あまり興味・関心を持てなかった
4. まったく興味・関心を持てなかった
5. わからない

③薬学研究科医療薬学専攻(博士課程)への進学を希望されますか。(選択必須)

1. 希望したいと思う
2. 希望したいと思わない

④薬学研究科医療薬学専攻(博士課程)に関するご要望があればご記入ください。

---

---

金城学院大学大学院  
「薬学研究科 医療薬学専攻(博士課程)」  
(仮称)  
設置に関するニーズ調査  
結果報告書  
【現職薬剤師対象】

---

---

令和3年3月  
株式会社 進研アド  
—学生確保(資料)—27—

# 現職薬剤師対象 調査概要

## 1. 調査目的

2022年4月開設予定の金城学院大学大学院「薬学研究科 医療薬学専攻(博士課程)」新設構想に関して、主な進学者として想定される現職の薬剤師の進学ニーズを把握する。

## 2. 調査概要

		薬剤師対象調査
調査対象		病院・薬局勤務の現職薬剤師
調査方法		病院への郵送調査
調査対象数	依頼数	1,629人
	回収数	95人
	回収率	5.8%
調査時期		2021年1月6日(水)～2021年1月26日(火)
調査実施機関		株式会社 進研アド

## 3. 調査項目

薬剤師対象調査
<ul style="list-style-type: none"><li>・性別</li><li>・年齢</li><li>・勤務地</li><li>・勤務先</li><li>・保有資格</li><li>・薬剤師の実務経験</li><li>・大学院への進学意向</li><li>・金城学院大学大学院「薬学研究科 医療薬学専攻(博士課程)」の特色に対する魅力度</li><li>・金城学院大学大学院「薬学研究科 医療薬学専攻(博士課程)」への受験意向</li><li>・金城学院大学大学院「薬学研究科 医療薬学専攻(博士課程)」への入学意向</li><li>・金城学院大学大学院「薬学研究科 医療薬学専攻(博士課程)」への希望入学時期</li></ul>



## 現職薬剤師対象 調査結果まとめ



# 現職薬剤師対象 調査結果まとめ

## 回答者の属性

※本調査は、金城学院大学大学院「薬学研究科 医療薬学専攻(博士課程)」に対する現職薬剤師からの進学ニーズを確認するための調査として設計。金城学院大学大学院の主な学生募集エリアである岐阜県、愛知県、三重県の病院・薬局の現職薬剤師に調査を実施し、95人から回答を得た。

- 回答者の性別は「女性」が100.0%である。
- 回答者の年齢は「20代」「30代」が同率で28.4%である。次いで「40代」が26.3%である。
- 回答者が勤務する病院の所在地は、金城学院大学大学院の所在地である「愛知県」が71.6%を占めている。次いで「三重県」が14.7%、「岐阜県」が11.6%である。
- 回答者の勤務先は、「病院」が98.9%を占めている。次いで「薬局」が1.1%である。
- 回答者の保有資格は「薬剤師」が100.0%である。
- 回答者の薬剤師としての実務経験年数は「1年～5年未満」が28.4%と最も高い。次いで「20年～30年未満」が18.9%、「5年～10年未満」が17.9%である。平均年数は「12.5年」であった。

## 大学院への進学意向

- 大学院へ進学してみたいかを尋ねたところ、「ぜひ進学したいと思う」と答えた回答者は1.1%、「機会があれば進学したいと思う」と答えた回答者は36.8%と、4割に近い回答者が仕事をしながらも大学院への進学を希望していることがうかがえる。

# 現職薬剤師対象 調査結果まとめ

## 金城学院大学大学院「薬学研究科 医療薬学専攻(博士課程)」 の特色に対する魅力度

- 金城学院大学大学院「薬学研究科 医療薬学専攻(博士課程)」の特色である「**A. 体系的に区分した教育課程**」(「基盤科目(必須科目)」と「専門科目(選択科目)」から構成される「特論科目」、薬学分野における最先端の研究内容を模擬的・総合的に体験し、研究の方法論とプレゼンテーションスキルを修得することができる「特別演習科目」、博士論文を作成する能力を養うことができる「課題研究」など、体系的に区分した教育課程を提供し、1年次から順次性をもって学修を進めることができます。)については、66.3%の回答者が魅力を感じると回答。

※魅力度＝「とても魅力を感じる」「ある程度魅力を感じる」と回答した人の合計値

## 金城学院大学大学院「薬学研究科 医療薬学専攻(博士課程)」 への受験意向／入学意向

- 金城学院大学大学院「薬学研究科 医療薬学専攻(博士課程)」を「受験してみたいと思う」と答えた回答者は、15.8% (15人)である。
- 金城学院大学大学院「薬学研究科 医療薬学専攻(博士課程)」を「受験してみたいと思う」と答えた15人のうち、金城学院大学大学院「薬学研究科 医療薬学専攻(博士課程)」に「入学したいと思う」と回答した人は、80.0% (12人)である。

# 現職薬剤師対象 調査結果まとめ

## 金城学院大学大学院「薬学研究科 医療薬学専攻(博士課程)」への 入学意向者数

※ここからは、金城学院大学大学院「薬学研究科 医療薬学専攻(博士課程)」に対して、「受験してみたいと思う」かつ「入学したいと思う」と回答した人を入学意向者と定義し、分析を行う。

- 回答者全体における入学意向は、12.6%(95人中、**12人**)。入学意向者数は予定している入学定員数2名を大きく上回っている。

<属性別>

### ◇勤務地別

- 勤務地が「愛知県」である回答者の入学意向は13.2%(68人中、**9人**)と、予定している入学定員数を4倍以上上回る入学意向者がみられた。勤務地が「三重県」である回答者の入学意向は14.3%(14人中、**2人**)と、予定している入学定員数を満たす入学意向者がみられた。

### ◇勤務先別

- 勤務先が「病院」である回答者の入学意向は、11.7%(94人中、**11人**)と、予定している入学定員数を大きく上回る入学意向者がみられた。

### ◇保有資格別

- 「薬剤師」の資格を保有している回答者の入学意向は、12.6%(95人中、**12人**)と、予定している入学定員数を大きく上回る入学意向者がみられた。

### ◇薬剤師の実務経験別

- 薬剤師としての実務経験年数が「1年未満」から「20年～30年未満」までの回答者について、一定の入学意向がみられた。

# 現職薬剤師対象 調査結果まとめ

## 金城学院大学大学院「薬学研究科 医療薬学専攻(博士課程)」への入学希望時期

- 金城学院大学大学院「薬学研究科 医療薬学専攻(博士課程)」を「受験してみたいと思う」と答えた15人のうち、「入学したいと思う」と答えた12人に、入学希望時期を聞いたところ、「2022年4月の入学を希望する」と回答した人は、41.7% (12人中、5人)である。また、「2024年4月以降の入学を希望する」と回答した人は、58.3% (12人中、7人)である。

## 現職薬剤師対象 調査結果

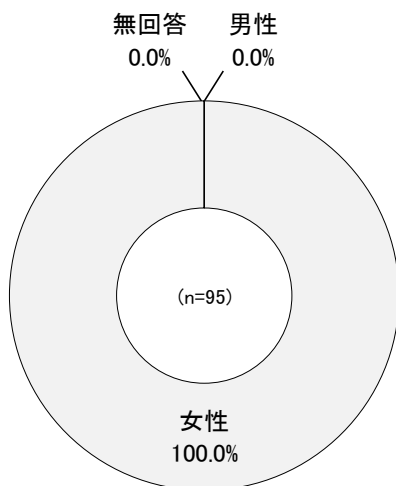


# 回答者の属性(性別/年齢/勤務地)

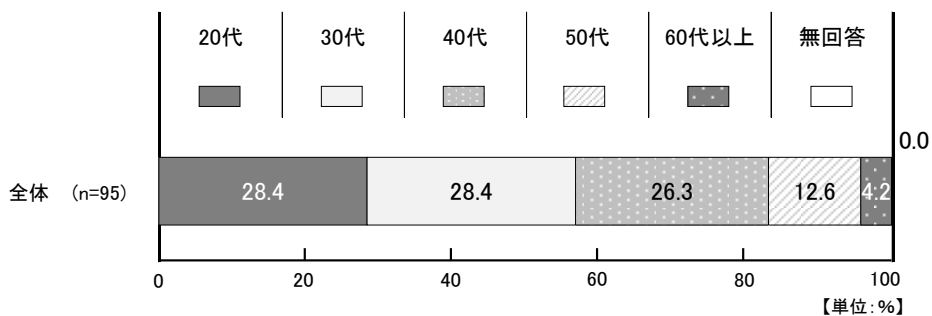
## ■回答者の属性

Q1. あなたご自身について教えてください。

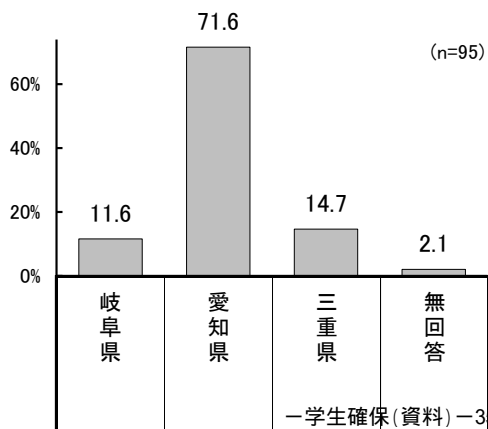
### ◆性別



### ◆年齢



### ◆勤務地

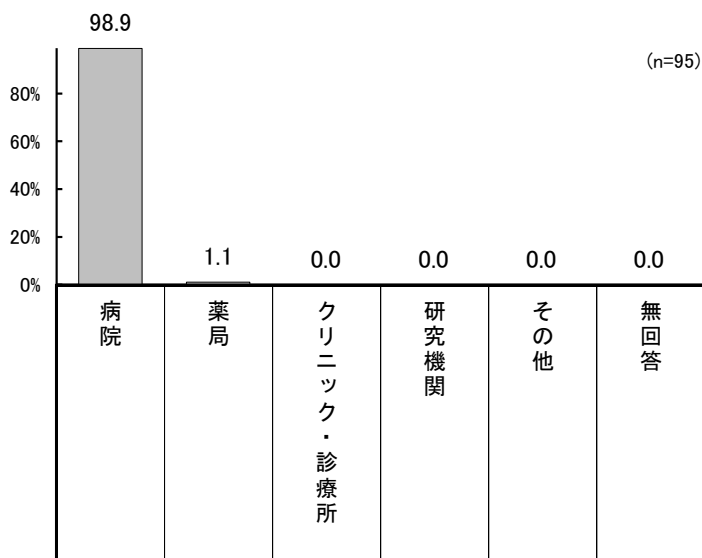


# 回答者の属性(勤務先/保有資格)

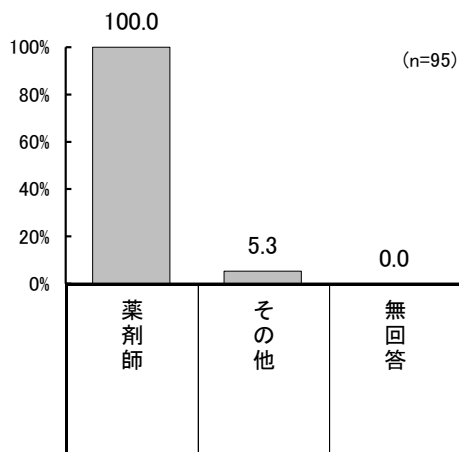
## ■回答者の属性

Q1. あなたご自身についてお教えてください。

### ◆勤務先



### ◆保有資格(複数回答)



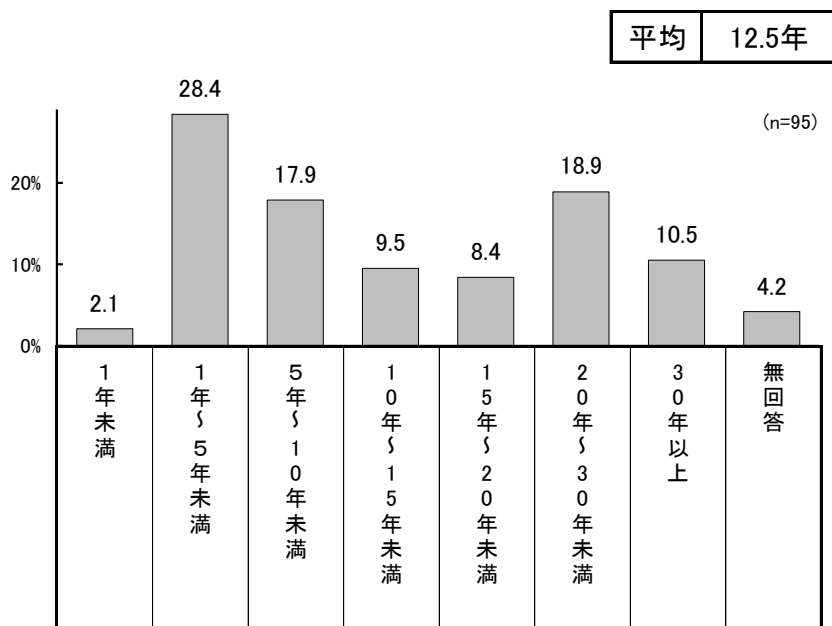


# 回答者の属性(薬剤師の実務経験)

## ■回答者の属性

Q1. あなたご自身についてお教えてください。

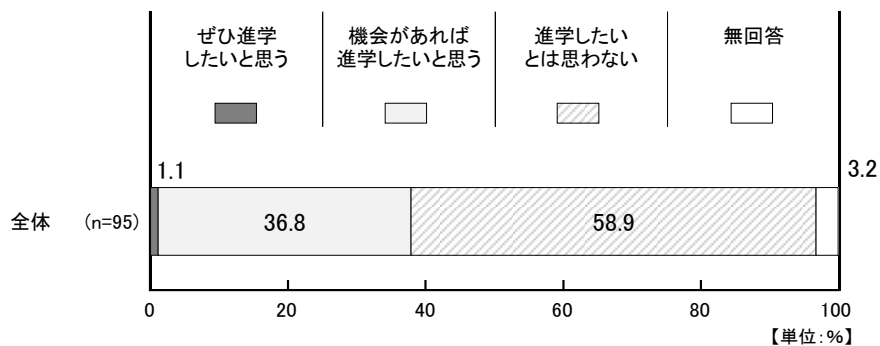
### ◆薬剤師の実務経験



# 大学院への進学意向

## ■大学院への進学意向

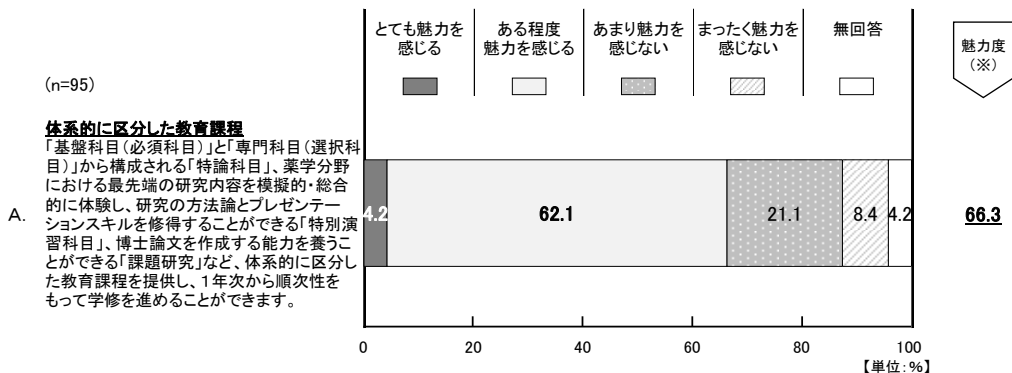
Q2. あなたは、大学院に進学したいと思いますか。現在のあなたのお気持ちに一番近いもの1つに○をつけてください。  
(1つだけ)



# 金城学院大学大学院「薬学研究科 医療薬学専攻（博士課程）」の特色に対する魅力度

## ■金城学院大学大学院「薬学研究科 医療薬学専攻（博士課程）」の特色に対する魅力度

Q3. 金城学院大学大学院「薬学研究科 医療薬学専攻（博士課程）」（仮称、設置構想中）には、以下のような特色があります。このような特色について、あなたはどの程度魅力を感じますか。あてはまる番号1つに○をつけてください。（1つだけ）（大学院への進学を希望されていない方も進学を希望する場合を想像してお答えください。）



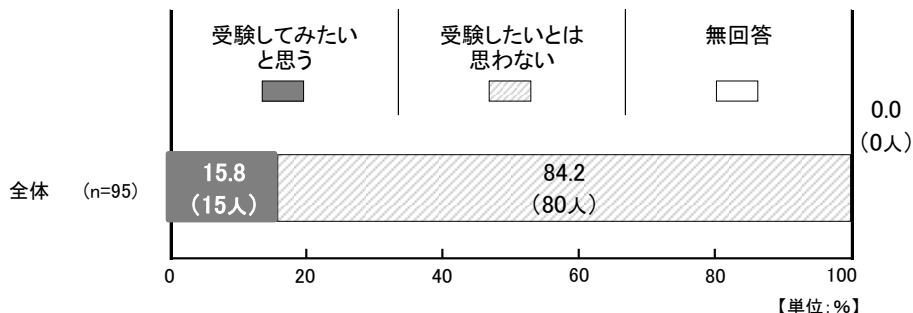
※魅力度＝「とても魅力を感じる」「ある程度魅力を感じる」と回答した人の合計値

※魅力度は、人数をもとに%を算出し、小数点第二位を四捨五入しているため、「とても魅力を感じる」と「ある程度魅力を感じる」の合計値と必ずしも一致しない

# 金城学院大学大学院「薬学研究科 医療薬学専攻 (博士課程)」への受験意向／入学意向

## ■金城学院大学大学院「薬学研究科 医療薬学専攻(博士課程)」への受験意向

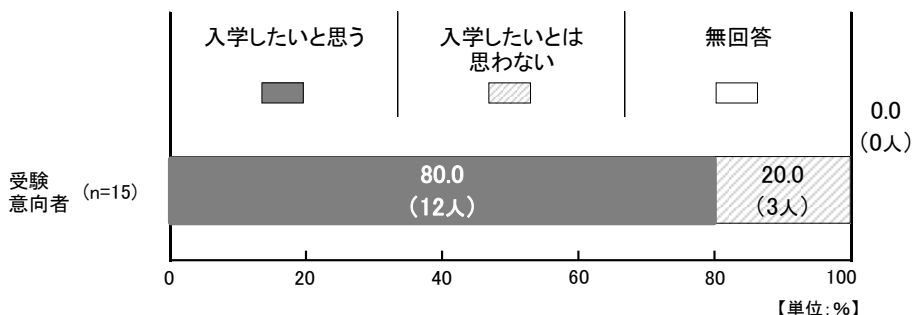
Q4. あなたは、Q3のような特色をもつ金城学院大学大学院「薬学研究科 医療薬学専攻(博士課程)」(仮称、設置構想中)を受験してみたいと思いますか。あなたのお気持ちに近い方の番号1つに○をつけてください。(1つだけ)



「受験してみたいと思う」と答えた15人のみ抽出

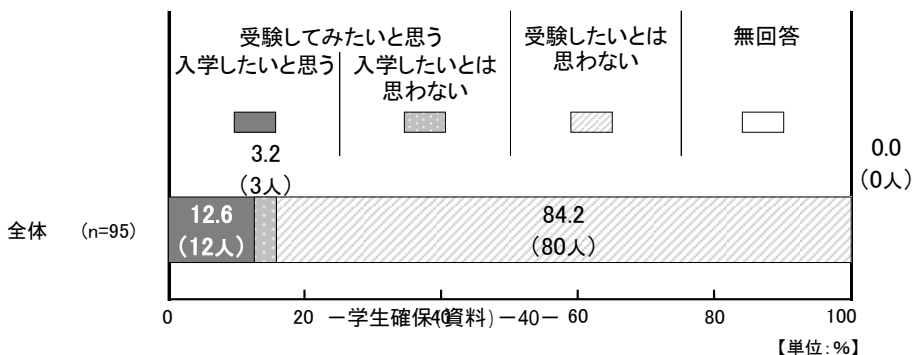
## ■金城学院大学大学院「薬学研究科 医療薬学専攻(博士課程)」への入学意向

Q5. あなたが、もし金城学院大学大学院「薬学研究科 医療薬学専攻(博士課程)」(仮称、設置構想中)を受験して合格したら、入学したいと思いますか。あなたのお気持ちに近い方の番号1つに○をつけてください。(1つだけ)



「受験意向(Q4)」と「入学意向(Q5)」を  
かけあわせて集計(母数は全回答者)

## ■金城学院大学大学院「薬学研究科 医療薬学専攻(博士課程)」への 受験意向別入学意向



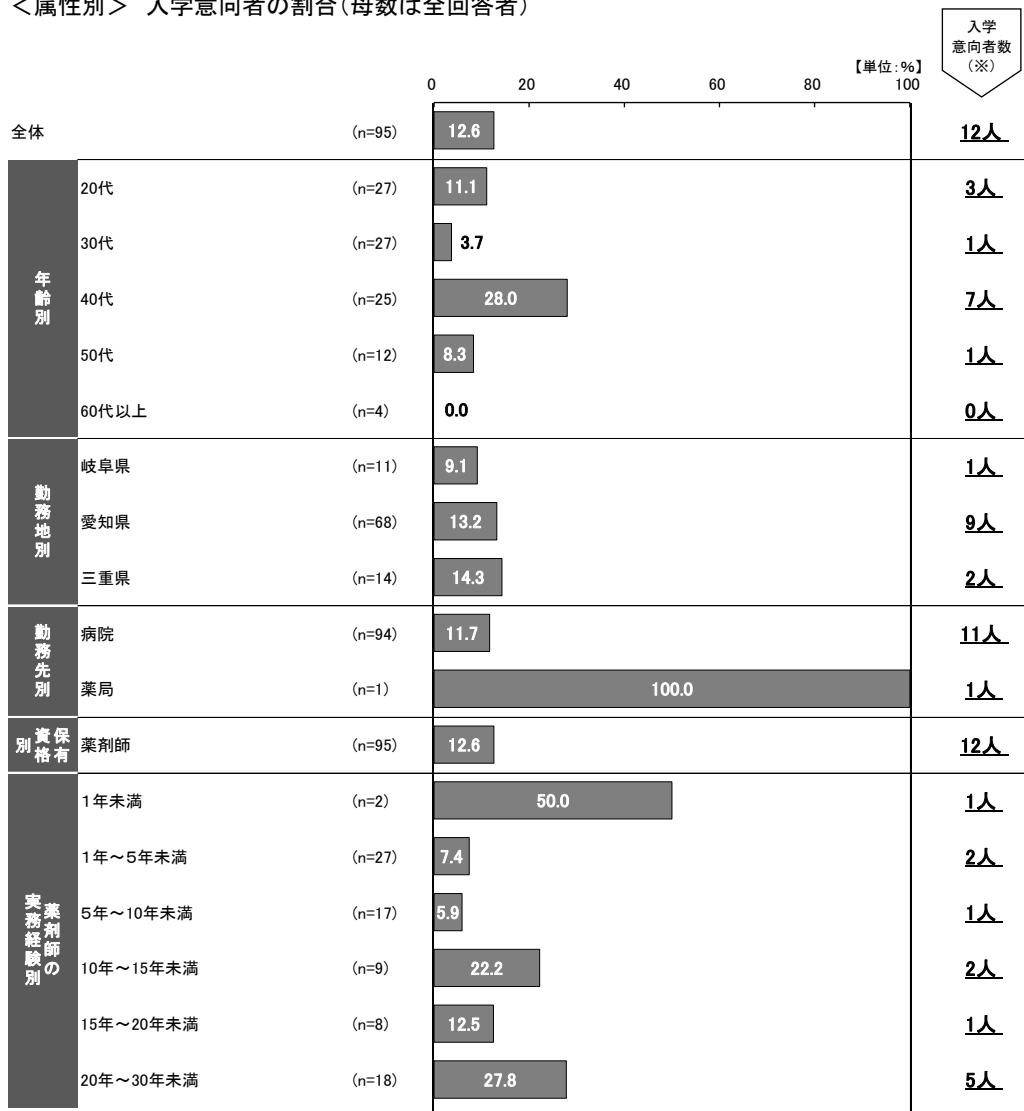
# 金城学院大学大学院「薬学研究科 医療薬学専攻 (博士課程)」への受験意向別入学意向<属性別>

## ■金城学院大学大学院「薬学研究科 医療薬学専攻(博士課程)」への受験意向別入学意向<属性別>

Q5. あなたが、もし金城学院大学大学院「薬学研究科 医療薬学専攻(博士課程)」(仮称、設置構想中)を受験して合格したら、入学したいと思いますか。あなたのお気持ちに近い方の番号1つに○をつけてください。(1つだけ)

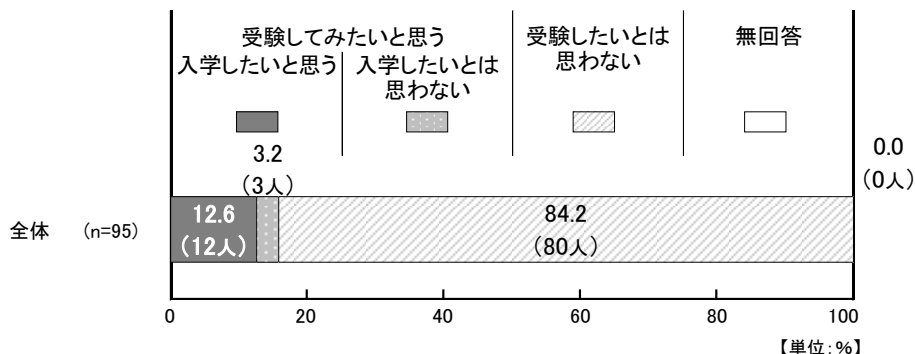
※金城学院大学大学院「薬学研究科 医療薬学専攻(博士課程)」に対して「受験してみたいと思う」かつ「入学したいと思う」と回答した人を入学意向者と定義する。

<属性別> 入学意向者の割合(母数は全回答者)



# 金城学院大学大学院「薬学研究科 医療薬学専攻 (博士課程)」への入学希望時期

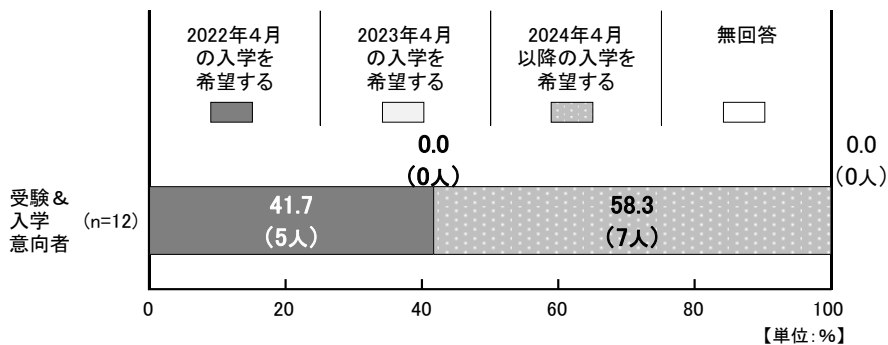
## ■(再掲)金城学院大学大学院「薬学研究科 医療薬学専攻(博士課程)」への受験意向別入学意向



「受験してみたいと思う」かつ「入学したいと思う」と答えた12人のみ抽出

## ■金城学院大学大学院「薬学研究科 医療薬学専攻(博士課程)」への入学希望時期

Q6. Q5で、金城学院大学「薬学研究科 医療薬学専攻(博士課程)」(仮称、設置構想中)に「入学したいと思う」と回答した方にお聞きします。あなたは、金城学院大学大学院「薬学研究科 医療薬学専攻(博士課程)」(仮称、設置構想中)に入学するとしたら、いつごろの入学を希望しますか。あなたのお気持ちに一番近い番号1つに○をつけてください。(1つだけ)



## 卷末資料 調查票









金城学院大学大学院「薬学研究科医療薬学専攻（博士課程）」（仮称）の設置計画の概要
--

1. 名称 薬学研究科医療薬学専攻（博士課程） 【仮称、設置構想中】

2. 開設予定時期 2022（令和4）年4月

3. 設置の理念、養成する人材像

年々高度化し複雑化する創薬と医療の現場では、問題点を正確に抽出し解決していく力がこれまで以上に必要とされます。本研究科は、薬学分野において高度な専門知識や研究能力を有し、問題の抽出と解決を以て、医療に貢献できる薬学研究者や適切なエビデンスに基づく薬物治療に貢献できる医療従事者を養成することを目的としています。

4. 修了後に想定される主な進路

- ① 専門家として社会に貢献、教育者として後進を指導するアカデミアにおける薬学研究者
- ② 創薬、食品、化粧品研究等を通して社会に貢献するインダストリアにおける薬学研究者
- ③ 臨床試験や調査研究などの臨床研究を通して医療発展に貢献する医療機関における薬学研究者
- ④ 高度医療に特化した医療機関の医療従事者
- ⑤ 国民の生命を守るための衛生行政や福祉向上に貢献する公務員

5. 開設予定の教育課程

教育課程を、「特論科目（基盤科目と専門科目）」、「特別演習科目」、「課題研究」に体系的に区分し、1年次から順次性をもって学修を進めることができるように編成します。また、社会人学生に柔軟に対応した授業を実施します。

① 特論科目

すべての大学院生が履修する「基盤科目（必須科目）」と目的に応じて専門性の高度化を図ることのできる「専門科目（選択科目）」の2つの科目群から構成されます。

開講予定科目：【基盤科目】「基礎薬学特論」「臨床薬学特論」「研究実践法特論」「研究倫理特論」  
 【専門科目】「創薬化学特論」、「生体機能分子解析学特論」、「応用生物学特論」、  
 「薬理学特論」、「臨床医療特論」

② 特別演習科目

特別演習科目では、薬学分野の最先端の研究内容を模擬的・総合的に体験し、研究の方法論とプレゼンテーションのスキルを修得します。

開講予定科目：「薬学総合特別演習（必須）」「モデリング・シミュレーション特別演習（選択）」  
 「高度分析機器特別演習（選択）」、「医療情報統計学特別演習（選択）」、「処方解析学特別演習（選択）」

③ 課題研究

研究能力の向上を目指し、研究室を中心にして研究指導を受けます。博士論文の作成につながるものです。創薬化学系、生体機能分子解析学系、応用生物学系、薬理学系、臨床医療系などの研究領域から約20件の課題研究で構成されます。

例：「薬剤耐性に関与する抗菌薬抵抗分子の構造・機能解析に関する研究」「生体におけるマスト細胞の生理的意義とその役割に関する研究」「がん化学療法に関わる臨床研究」「医薬品副作用の予測・予防に役立つ情報の構築」

6. 学位の名称 博士（薬学）
7. 設置場所 金城学院大学 〒463-8521 名古屋市守山区大森二丁目 1723 番地  
Tel: 052-798-0180(代表)
8. 入学定員 2人（収容定員8人）
9. 学生納付金 入学金 200,000円 授業料（年額）900,000円
10. 競合する大学・研究科・専攻等の名称  
名城大学 大学院薬学研究科薬学専攻（博士課程）  
愛知学院大学 大学院薬学研究科医療薬学専攻（博士課程）  
鈴鹿医療科学大学 大学院薬学研究科医療薬学専攻（博士課程）

（注）上記の概要は現在計画中の予定であり、変更される場合があります。

---

---

金城学院大学大学院  
「薬学研究科 薬学専攻(博士課程)」  
(仮称)  
設置に関するニーズ調査  
結果報告書  
【薬学部薬学科所属の在学生対象調査】

---

---

令和3年6月  
株式会社 進研アド  
—学生確保(資料)—48—

# 薬学部薬学科所属の在学生対象 調査概要

## 1. 調査目的

2022年4月開設予定の金城学院大学大学院「薬学研究科 薬学専攻(博士課程)」の設置構想に関して、在学生ニーズを把握する。

## 2. 調査概要

		在学生対象調査
調査対象		金城学院大学 薬学部 薬学科に所属する在学生 (薬学部 薬学科6年生、薬学部 薬学科5年生、 薬学部 薬学科4年生、薬学部 薬学科3年生、 薬学部 薬学科2年生、薬学部 薬学科1年生)
調査方法		インターネット調査
調査対象数	学生数	858人
	回収数	754人
	回収率	87.9%
調査時期		2021年6月7日(月)～2021年6月9日(水)
調査実施機関		株式会社 進研アド

## 3. 調査項目

在学生対象調査
<ul style="list-style-type: none"><li>・ 学年</li><li>・ 金城学院大学大学院「薬学研究科 薬学専攻(博士課程)」設置計画に対する興味・関心度</li><li>・ 金城学院大学大学院「薬学研究科 薬学専攻(博士課程)」への進学希望</li></ul>

# 薬学部薬学科所属の在学生対象 調査結果まとめ



# 薬学部薬学科所属の在学生対象 調査結果まとめ

※本調査は、金城学院大学大学院「薬学研究科 薬学専攻(博士課程)」に対する需要を確認するための調査として設計しており、金城学院大学薬学部 薬学科に所属する在学生である6年生計139名、5年生計154名、4年生計153名、3年生計151名、2年生計147名、1年生計114名に調査を実施し、6年生計117名、5年生計107名、4年生計147名、3年生計144名、2年生計128名、1年生計111名から回答を得た。

## 6年生の回答

- ・薬学部 薬学科6年生139名に配付し、117名から回答を得た。
- ・金城学院大学大学院「薬学研究科 薬学専攻(博士課程)」に対する興味・関心度を聞いたところ、「とても興味・関心を持った」と回答したのは0.9%であり、「少し興味・関心を持った」の回答とあわせると、40.2%の学生が興味・関心を持っていた。
- ・進学希望については、「大学卒業後すぐに進学したいと思う」との回答は0.0%(0名)で、本構想における入学定員数(2名)を満たす進学希望は、当該学年の学生からは得られなかった。

## 5年生の回答

- ・薬学部 薬学科5年生154名に配付し、107名から回答を得た。
- ・金城学院大学大学院「薬学研究科 薬学専攻(博士課程)」に対する興味・関心度を聞いたところ、「とても興味・関心を持った」と回答したのは0.9%であり、「少し興味・関心を持った」の回答とあわせると、49.5%の学生が興味・関心を持っていた。
- ・進学希望については、3.7%(4名)が「大学卒業後すぐに進学したいと思う」と回答しており、本構想における入学定員数(2名)の2倍が進学希望を示した結果となった。

# 薬学部薬学科所属の在学生対象 調査結果まとめ

## 4年生の回答

- ・薬学部 薬学科4年生153名に配付し、147名から回答を得た。
- ・金城学院大学大学院「薬学研究科 薬学専攻(博士課程)」に対する興味・関心を聞いたところ、「とても興味・関心を持った」と回答したのは2.7%であり、「少し興味・関心を持った」の回答とあわせると、39.5%の学生が興味・関心を持っていた。
- ・進学希望については、2.0%(3名)が「大学卒業後すぐに進学したいと思う」と回答しており、本構想における入学定員数(2名)を上回る進学希望を示した結果となった。

## 3年生の回答

- ・薬学部 薬学科3年生151名に配付し、144名から回答を得た。
- ・金城学院大学大学院「薬学研究科 薬学専攻(博士課程)」に対する興味・関心を聞いたところ、「とても興味・関心を持った」と回答したのは2.1%であり、「少し興味・関心を持った」の回答とあわせると、43.1%の学生が興味・関心を持っていた。
- ・進学希望については、2.8%(4名)が「大学卒業後すぐに進学したいと思う」と回答しており、本構想における入学定員数(2名)の2倍が進学希望を示した結果となった。



# 薬学部薬学科所属の在学生対象 調査結果まとめ

## 2年生の回答

- ・薬学部 薬学科2年生147名に配付し、128名から回答を得た。
- ・金城学院大学大学院「薬学研究科 薬学専攻(博士課程)」に対する興味・関心を聞いたところ、「とても興味・関心を持った」と回答したのは1.6%であり、「少し興味・関心を持った」の回答とあわせると、42.2%の学生が興味・関心を持っていた。
- ・進学希望については、3.1%(4名)が「大学卒業後すぐに進学したいと思う」と回答しており、本構想における入学定員数(2名)の2倍が進学希望を示した結果となった。

## 1年生の回答

- ・薬学部 薬学科1年生114名に配付し、111名から回答を得た。
- ・金城学院大学大学院「薬学研究科 薬学専攻(博士課程)」に対する興味・関心を聞いたところ、「とても興味・関心を持った」と回答したのは18.9%であり、「少し興味・関心を持った」の回答とあわせると、78.4%の学生が興味・関心を持っていた。
- ・進学希望については、7.2%(8名)が「大学卒業後すぐに進学したいと思う」と回答しており、本構想における入学定員数(2名)の4倍が進学希望を示した結果となった。

# 薬学部薬学科所属の在学生対象 調査結果



# 在学生 集計結果

## ■学年

	標本数	単位	薬学部	薬学部	薬学部	薬学部	薬学部	薬学部
			薬学科 1年生	薬学科 2年生	薬学科 3年生	薬学科 4年生	薬学科 5年生	薬学科 6年生
全体	754	%	14.7	17.0	19.1	19.5	14.2	15.5
		人	111	128	144	147	107	117

# 金城学院大学大学院「薬学研究科 薬学専攻(博士課程)」 設置計画に対する興味・関心度/進学希望(6年生)

## ■金城学院大学大学院「薬学研究科 薬学専攻(博士課程)」 設置計画に対する興味・関心度

① 金城学院大学大学院「薬学研究科薬学専攻(博士課程)」(仮称)の設置計画について、  
どのように感じましたか。(選択必須)

	標本数	単位	持っても興味・関心を	持った少し興味・関心を	あまり興味・関心を	持たなく興味・関心を	わからない	興味・関心を	持たなく興味・関心を
全体	117	%	0.9	39.3	31.6	16.2	12.0	40.2	47.9
		人	1	46	37	19	14	47	56

## ■金城学院大学大学院「薬学研究科 薬学専攻(博士課程)」への 進学希望

② 金城学院大学大学院「薬学研究科薬学専攻(博士課程)」(仮称)への進学を希望されますか。(選択必須)

	標本数	単位	大学卒業後に進学したいと思う	実務経験を積んだ後に進学したいと思う	進学したいと思わない
全体	117	%	0.0	10.3	89.7
		人	0	12	105

# 金城学院大学大学院「薬学研究科 薬学専攻(博士課程)」 設置計画に対する興味・関心度/進学希望(5年生)

## ■金城学院大学大学院「薬学研究科 薬学専攻(博士課程)」 設置計画に対する興味・関心度

① 金城学院大学大学院「薬学研究科薬学専攻(博士課程)」(仮称)の設置計画について、  
どのように感じましたか。(選択必須)

	標本数	単位	持とても興味・関心を 持った	少し興味・関心を 持った	あまり興味・関心を 持てなかった	まったく興味・関心を 持てなかった	わからない	興味・関心を 持った・計	興味・関心を 持てなかった・計
全体	107	%	0.9	48.6	34.6	6.5	9.3	49.5	41.1
		人	1	52	37	7	10	53	44

## ■金城学院大学大学院「薬学研究科 薬学専攻(博士課程)」への 進学希望

② 金城学院大学大学院「薬学研究科薬学専攻(博士課程)」(仮称)への進学を希望されますか。(選択必須)

	標本数	単位	大学卒業後 すぐに進学したいと思う	実務経験を積んだ後に 進学したいと思う	進学したいと思わない
全体	107	%	3.7	5.6	90.7
		人	4	6	97

# 金城学院大学大学院「薬学研究科 薬学専攻(博士課程)」 設置計画に対する興味・関心度/進学希望(4年生)

## ■金城学院大学大学院「薬学研究科 薬学専攻(博士課程)」 設置計画に対する興味・関心度

① 金城学院大学大学院「薬学研究科薬学専攻(博士課程)」(仮称)の設置計画について、  
どのように感じましたか。(選択必須)

	標本数	単位	持っても興味・関心を	持った少し興味・関心を	持たあまり興味・関心を	持たまったく興味・関心を	わからない	興味・関心を	持た興味・関心を
全体	147	%	2.7	36.7	42.2	12.2	6.1	39.5	54.4
		人	4	54	62	18	9	58	80

## ■金城学院大学大学院「薬学研究科 薬学専攻(博士課程)」への 進学希望

② 金城学院大学大学院「薬学研究科薬学専攻(博士課程)」(仮称)への進学を希望されますか。(選択必須)

	標本数	単位	大学卒業後進学したいと思う	実務経験を積んだ後に進学したいと思う	進学したいと思わない
全体	147	%	2.0	9.5	88.4
		人	3	14	130

# 金城学院大学大学院「薬学研究科 薬学専攻(博士課程)」 設置計画に対する興味・関心度/進学希望(3年生)

## ■金城学院大学大学院「薬学研究科 薬学専攻(博士課程)」 設置計画に対する興味・関心度

① 金城学院大学大学院「薬学研究科薬学専攻(博士課程)」(仮称)の設置計画について、  
どのように感じましたか。(選択必須)

	標本数	単位	持っても興味・関心を	持った少し興味・関心を	持たあまり興味・関心を	持たなく興味・関心を	わからない	興味・関心を	興味・関心を
全体	144	%	2.1	41.0	45.8	8.3	2.8	43.1	54.2
		人	3	59	66	12	4	62	78

## ■金城学院大学大学院「薬学研究科 薬学専攻(博士課程)」への 進学希望

② 金城学院大学大学院「薬学研究科薬学専攻(博士課程)」(仮称)への進学を希望されますか。(選択必須)

	標本数	単位	大学卒業後に進学したいと思う	実務経験を積んだ後に進学したいと思う	進学したいと思わない
全体	144	%	2.8	7.6	89.6
		人	4	11	129

# 金城学院大学大学院「薬学研究科 薬学専攻(博士課程)」 設置計画に対する興味・関心度/進学希望(2年生)

## ■金城学院大学大学院「薬学研究科 薬学専攻(博士課程)」 設置計画に対する興味・関心度

① 金城学院大学大学院「薬学研究科薬学専攻(博士課程)」(仮称)の設置計画について、  
どのように感じましたか。(選択必須)

	標本数	単位	持っても興味・関心を 持った	少し興味・関心を 持った	あまり興味・関心を 持てなかつた	まったく興味・関心を 持てなかつた	わからない	興味・関心を 持った・計	興味・関心を 持てなかつた・計
全体	128	%	1.6	40.6	35.2	12.5	10.2	42.2	47.7
		人	2	52	45	16	13	54	61

## ■金城学院大学大学院「薬学研究科 薬学専攻(博士課程)」への 進学希望

② 金城学院大学大学院「薬学研究科薬学専攻(博士課程)」(仮称)への進学を希望されますか。(選択必須)

	標本数	単位	大学卒業後 進学したいと思う	実務経験を積んだ後に 進学したいと思う	進学したいと思わない
全体	128	%	3.1	9.4	87.5
		人	4	12	112



# 金城学院大学大学院「薬学研究科 薬学専攻(博士課程)」 設置計画に対する興味・関心度/進学希望(1年生)

## ■金城学院大学大学院「薬学研究科 薬学専攻(博士課程)」 設置計画に対する興味・関心度

① 金城学院大学大学院「薬学研究科薬学専攻(博士課程)」(仮称)の設置計画について、  
どのように感じましたか。(選択必須)

	標本数	単位	持っても興味・関心を	持った少し興味・関心を	あまり興味・関心を	持たなく興味・関心を	わからない	興味・関心を	持たなく興味・関心を
全体	111	%	18.9	59.5	15.3	1.8	4.5	78.4	17.1
		人	21	66	17	2	5	87	19

## ■金城学院大学大学院「薬学研究科 薬学専攻(博士課程)」への 進学希望

② 金城学院大学大学院「薬学研究科薬学専攻(博士課程)」(仮称)への進学を希望されますか。(選択必須)

	標本数	単位	大学卒業後に進学したいと思う	実務経験を積んだ後に進学したいと思う	進学したいと思わない
全体	111	%	7.2	20.7	72.1
		人	8	23	80

## 卷末資料 調查票



# 調査票

---

## 金城学院大学 薬学研究科[在学生用アンケート]調査票

① 金城学院大学大学院「薬学研究科薬学専攻(博士課程)」(仮称)の設置計画について、どのように感じましたか。  
(選択必須)

1. とても興味・関心を持った
2. 少し興味・関心を持った
3. あまり興味・関心を持てなかった
4. まったく興味・関心を持てなかった
5. わからない

② 金城学院大学大学院「薬学研究科薬学専攻(博士課程)」(仮称)への進学を希望されますか。(選択必須)

1. 大学卒業後すぐに進学したいと思う
2. 実務経験を積んだ後に進学したいと思う
3. 進学したいと思わない

③ 金城学院大学「薬学研究科薬学専攻(博士課程)」(仮称)に関するご要望があればご記入ください。

## 卷末資料 設置構想概要資料



# 設置構想概要資料

金城学院大学大学院「薬学研究科薬学専攻（博士課程）」（仮称）の設置計画の概要

1. 名称 薬学研究科薬学専攻（博士課程） 【仮称、設置認可申請中】

2. 開設予定時期 2022（令和4）年4月

3. 設置の理念、養成する人材像

現代医療において、高度な専門性や研究遂行能力を駆使して問題を解決する力が一層強く求められるようになってきています。このために、薬学領域に関する高度な専門知識を主体的に蓄積し理解を深め、専門知識と医療との関わりについて考察し、論点を整理して課題を設定するとともに、設定した課題に最先端かつ高度な薬学的知識を駆使して取り組み、解決し、その成果を発信する力を養成することが求められています。このような背景のもと、薬学研究科は薬学専攻の単一専攻科とし、高い倫理観、及び薬学領域に関する高度な専門知識と研究能力を通じて課題を設定し問題を解決する能力を有し、薬学研究に貢献できる研究者・医療従事者を養成することを目的とします。

4. 修了後に想定される主な進路

- ① 学術界における薬学研究者（薬学の専門家・教育者として後進を指導し社会に貢献）
- ② 産業界における薬学研究者（創薬、食品、化粧品研究等を通して社会に貢献）
- ③ 公務員（国立研究機関、公設試験研究機関での研究等を通して社会に貢献）
- ④ 医療機関における薬学研究者（臨床試験や調査研究などの臨床研究等を通して医療の発展に貢献）
- ⑤ 医療機関で高度な専門性を発揮できる医療従事者（医薬品情報担当者、専門医療機関連携薬局担当者等として医療に貢献）

5. 開設予定の教育課程

教育課程を、「特論科目」、「演習科目」、「課題研究」に体系的に区分し、1年次から順次性をもって学修を進めることができるように編成します。また、社会人学生に柔軟に対応した授業を実施します。

① 特論科目

特論科目では、すべての大学院生が履修する必修科目と目的に応じて専門性の高度化を図ることのできる選択必修科目を履修します。

【必修科目】「基礎薬学特論」「医療薬学特論」「研究実践法特論」「研究・医療倫理特論」

【選択必修科目】「天然医薬品資源学特論」、「創薬化学特論」、「生体機能解析学特論」、「薬剤学特論」、「病態薬効解析学特論」、「免疫・アレルギー学特論」、「生化学特論」、「オミクス特論」、「薬物治療研究学特論」

② 演習科目

演習科目では、薬学分野の最先端の研究内容を模擬的・総合的に体験し、研究の方法論とプレゼンテーションのスキルを修得します。

【必修科目】「薬学総合特別演習Ⅰ」、「薬学総合特別演習Ⅱ」

【選択必修科目】「分子モデリング・シミュレーション特別演習」、「化学系高度分析機器特別演習」、「生物系高度分析機器特別演習」、「医療情報解析学特別演習」、「実践医療薬学特別演習」

③ 課題研究

課題研究では、研究能力の向上を目指し、研究室を中心にして研究指導を受けます。博士論文の作成につながるものです。医薬品化学分野、物理・薬剤学分野、応用生物学分野、薬物学分野、実践医療薬学分野などの研究領域から約20件の課題研究で構成されます。

例：「薬剤耐性に関与する抗菌薬抵抗分子の構造・機能解析に関する研究」「生体におけるマスト細胞の生理的意義とその役割に関する研究」「がん化学療法に関わる臨床研究」「医薬品副作用の予測・予防に役立つ情報の構築」

# 設置構想概要資料

---

6. 学位の名称 博士（薬学）
7. 設置場所 金城学院大学 〒463-8521 名古屋市守山区大森二丁目 1723 番地  
Tel: 052-798-0180(代表)
8. 入学定員 2人（収容定員8人）
9. 学生納付金 入学金 200,000円 授業料（年額） 900,000円
10. 競合する大学・研究科・専攻等の名称  
名城大学 大学院薬学研究科薬学専攻（博士課程）  
愛知学院大学 大学院薬学研究科医療薬学専攻（博士課程）  
鈴鹿医療科学大学 大学院薬学研究科医療薬学専攻（博士課程）

（注）上記の概要は現在計画中の予定であり、変更される場合があります。

---

---

金城学院大学大学院  
「薬学研究科 薬学専攻(博士課程)」  
(仮称)  
設置に関するニーズ調査  
結果報告書  
【現職薬剤師対象】

---

---

# 現職薬剤師対象 調査概要

## 1. 調査目的

2022年4月開設予定の金城学院大学大学院「薬学研究科 薬学専攻(博士課程)」新設構想に関して、主な進学者として想定される現職の薬剤師の進学ニーズを把握する。

## 2. 調査概要

		薬剤師対象調査
調査対象		医療施設の現職薬剤師
調査エリア		愛知県、三重県
調査方法		郵送調査
調査対象数	依頼数	462人想定(154施設) ※1施設あたり、3枚の調査票を送付
	回収数(回収率)	21人(4.5%)
調査時期		2021年6月7日(月)～2021年6月14日(月)
調査実施機関		株式会社 進研アド

## 3. 調査項目

薬剤師対象調査
・性別
・年齢
・勤務地
・最終学歴
・保有資格
・薬剤師の実務経験
・「学びなおし」への関心の有無
・金城学院大学大学院「薬学研究科 薬学専攻(博士課程)」の特色に対する魅力度
・金城学院大学大学院「薬学研究科 薬学専攻(博士課程)」への受験意向
・金城学院大学大学院「薬学研究科 薬学専攻(博士課程)」への入学意向
・金城学院大学大学院「薬学研究科 薬学専攻(博士課程)」への希望入学時期



## 現職薬剤師対象 調査結果まとめ



# 現職薬剤師対象 調査結果まとめ

## 回答者の属性

※本調査は、金城学院大学大学院「薬学研究科 薬学専攻(博士課程)」に対する現職薬剤師からの進学ニーズを確認するための調査として設計。金城学院大学大学院の主な学生募集エリアである愛知県・三重県の医療施設の現職薬剤師に調査を実施し、21人から回答を得た。

- 回答者の性別は「女性」が100.0%である。
- 回答者の年齢は「20代」が47.6%を占めている。次いで「30代」が33.3%、「40代」が14.3%である。
- 回答者が勤務する施設の所在地は、金城学院大学大学院の所在地である「愛知県」が71.4%を占め、最も多い。次いで「三重県」が28.6%である。
- 回答者の最終学歴は、「大学卒」が90.5%を占めている。次いで「大学院卒(博士課程、博士前期課程、専門職学位課程)」が9.5%である。
- 回答者の保有資格は「薬剤師」が100.0%である。
- 回答者の薬剤師としての実務経験年数は「5年～10年未満」が33.3%と最も高い。次いで「1年～5年未満」が28.6%、「1年未満」「20年～30年未満」が同率で14.3%である。平均年数は「8.6年」であった。

## 「学びなおし」への関心の有無

- 「学びなおし」に関心があるかを尋ねたところ、「関心がある」と答えた回答者は47.6%と、5割近い回答者が学びなおしへの関心を示した。

# 現職薬剤師対象 調査結果まとめ

## 金城学院大学大学院「薬学研究科 薬学専攻(博士課程)」 の特色に対する魅力度

- 金城学院大学大学院「薬学研究科 薬学専攻(博士課程)」の特色である「A. **体系的に区分した教育課程**『必修科目』と目的に応じて専門性の高度化を図ることのできる『選択必修科目』から構成される【特論科目】、薬学分野における最先端の研究内容を模擬的・総合的に体験し、研究の方法論とプレゼンテーションスキルを修得することができる【演習科目】、博士論文を作成する能力を養うことができる【課題研究】など、体系的に区分した教育課程を提供し、1年次から順次性をもって学修を進めることができます。」については、71.4%の回答者が魅力を感じると回答。

※魅力度＝「とても魅力を感じる」「ある程度魅力を感じる」と回答した人の合計値

## 金城学院大学大学院「薬学研究科 薬学専攻(博士課程)」 への受験意向／入学意向

- 金城学院大学大学院「薬学研究科 薬学専攻(博士課程)」を「受験したいと思う」と答えた回答者は、14.3% (3人)である。
- 金城学院大学大学院「薬学研究科 薬学専攻(博士課程)」を「受験したいと思う」と答えた3人のうち、金城学院大学大学院「薬学研究科 薬学専攻(博士課程)」に「入学したいと思う」と回答した人は、100.0% (3人)である。

## 金城学院大学大学院「薬学研究科 薬学専攻(博士課程)」 への入学希望時期

- 金城学院大学大学院「薬学研究科 薬学専攻(博士課程)」を「受験したいと思う」かつ「入学したいと思う」と答えた3人に、入学希望時期を尋ねたところ、「2022年4月の入学を希望する」と回答した人は、100.0% (3人中、3人)である。

## 現職薬剤師対象 調査結果



# 回答者の属性(性別/年齢/勤務地)

## ■回答者の属性

Q1. あなたご自身について教えてください。

### ◆性別

	標本数	単位	男性	女性	無回答
全体	21	%	0.0	100.0	0.0
		人	0	21	0

### ◆年齢

	標本数	単位	20代	30代	40代	50代	60代以上	無回答
全体	21	%	47.6	33.3	14.3	0.0	4.8	0.0
		人	10	7	3	0	1	0

### ◆勤務地

	標本数	単位	愛知県	三重県	無回答
全体	21	%	71.4	28.6	0.0
		人	15	6	0

# 回答者の属性(最終学歴/保有資格/薬剤師の実務経験)

## ■回答者の属性

Q1. あなたご自身についてお教えてください。

### ◆最終学歴

	標本数	単位	高等学校卒	専修・各種学校卒	高等専門学校卒	短期大学卒	大学卒	大学前期課程、専門職学位課程)	大学院卒(修士課程、博士課程など)	大学院卒(博士後期課程、5年一貫の博士課程)	その他	無回答
全体	21	%	0.0	0.0	0.0	0.0	90.5	9.5	0.0	0.0	0.0	0.0
		人	0	0	0	0	19	2	0	0	0	0

### ◆保有資格

	標本数	単位	薬剤師	その他	無回答
全体	21	%	100.0	0.0	0.0
		人	21	0	0

### ◆薬剤師の実務経験

	標本数	単位	1年未満	1年～5年未満	5年～10年未満	10年～15年未満	15年～20年未満	20年～30年未満	30年以上	無回答	平均【年】
全体	21	%	14.3	28.6	33.3	4.8	0.0	14.3	4.8	0.0	8.6
		人	3	6	7	1	0	3	1	0	

※自由記述で聴取した人数をカテゴリー分けして集計

# 「学びなおし」への関心の有無

## ■「学びなおし」への関心の有無

Q2. あなたは、専門知識の修得やスキルアップのために、大学院に入学し、「学びなおし」することに関心がありますか。  
あなたのお気持ちに近い方の番号1つに○をつけてください。(1つだけ)

	標 本 数	単 位	関 心 が あ る	関 心 が な い	無 回 答
全体	21	%	47.6	52.4	0.0
		人	10	11	0

# 金城学院大学大学院「薬学研究科 薬学専攻（博士課程）」の特色に対する魅力度

## ■金城学院大学大学院「薬学研究科 薬学専攻（博士課程）」の特色に対する魅力度

Q3. 金城学院大学大学院「薬学研究科 薬学専攻（博士課程）」(仮称、設置認可申請中)には、以下のような特色があります。このような特色について、あなたはどの程度魅力を感じますか。あてはまる番号1つに○をつけてください。(1つだけ)(大学院への進学を希望されていない方も進学を希望する場合を想像してお答えください。)

### A. 体系的に区分した教育課程

「必修科目」と目的に応じて専門性の高度化を図ることのできる「選択必修科目」から構成される【特論科目】、薬学分野における最先端の研究内容を模擬的・総合的に体験し、研究の方法論とプレゼンテーションスキルを修得することができる【演習科目】、博士論文を作成する能力を養うことができる【課題研究】など、体系的に区分した教育課程を提供し、1年次から順次性をもって学修を進めることができます。

	標本数	単位	とても魅力を感じる	ある程度魅力を感じる	あまり魅力を感じない	まったく魅力を感じない	無回答	魅力度
全体	21	%	4.8	66.7	28.6	0.0	0.0	71.4
		人	1	14	6	0	0	15

※魅力度＝「とても魅力を感じる」「ある程度魅力を感じる」と回答した人の合計値

※魅力度は、人数をもとに%を算出し、小数点第二位を四捨五入しているため、「とても魅力を感じる」と「ある程度魅力を感じる」の合計値と必ずしも一致しない



# 金城学院大学大学院「薬学研究科 薬学専攻 (博士課程)」への受験意向／入学意向

## ■金城学院大学大学院「薬学研究科 薬学専攻(博士課程)」への受験意向

Q4. あなたは、Q3のような特色をもつ金城学院大学大学院「薬学研究科 薬学専攻(博士課程)」(仮称、設置認可申請中)を受験してみたいと思いますか。あなたのお気持ちに近い方の番号1つに○をつけてください。(1つだけ)

	標本数	単位	受験したいと思う	受験したいとは思わない	無回答
全体	21	%	14.3	85.7	0.0
		人	3	18	0



「受験したいと思う」と答えた3人のみ抽出

## ■金城学院大学大学院「薬学研究科 薬学専攻(博士課程)」への入学意向

Q5. あなたが、もし金城学院大学大学院「薬学研究科 薬学専攻(博士課程)」(仮称、設置認可申請中)を受験して合格したら、入学したいと思いますか。あなたのお気持ちに近い方の番号1つに○をつけてください。(1つだけ)

	標本数	単位	入学したいと思う	入学したいとは思わない	無回答
受験意向者	3	%	100.0	0.0	0.0
		人	3	0	0



「受験意向(Q4)」と「入学意向(Q5)」を  
かけあわせて集計(母数は全回答者)

## ■金城学院大学大学院「薬学研究科 薬学専攻(博士課程)」への 受験意向別入学意向

	標本数	単位	受験したいと思う & 入学したいと思う	受験したいとは思わ & ない	受験したいと思わ & ない	無回答
全体	21	%	14.3	0.0	85.7	0.0
		人	3	0	18	0

学生確保(資料)-77-

# 金城学院大学大学院「薬学研究科 薬学専攻 (博士課程)」への入学希望時期

## ■(再掲)金城学院大学大学院「薬学研究科 薬学専攻(博士課程)」への受験意向別入学意向

	標本数	単位	受験したいと思う & 入学したいと思う	受験したいと思う & 入学しない	受験したいとは思わない	無回答
全体	21	%	14.3	0.0	85.7	0.0
		人	3	0	18	0



「受験したいと思う」かつ「入学したいと思う」と答えた3人のみ抽出

## ■金城学院大学大学院「薬学研究科 薬学専攻(博士課程)」への入学希望時期

Q6. Q5で、金城学院大学大学院「薬学研究科 薬学専攻(博士課程)」(仮称、設置認可申請中)に「入学したいと思う」と回答した方にお聞きます。あなたは、金城学院大学大学院「薬学研究科 薬学専攻(博士課程)」(仮称、設置認可申請中)に入学するとしたら、いつごろの入学を希望しますか。あなたのお気持ちに一番近い番号1つに○をつけてください。(1つだけ)

	標本数	単位	入学を希望する 2022年4月の	入学を希望する 2023年4月の	入学を希望する 2024年4月以降の	無回答
受験 & 入学意向者	3	%	100.0	0.0	0.0	0.0
		人	3	0	0	0

## 卷末資料 調查票



# 現職薬剤師対象 調査票

ご勤務なさっている薬剤師の方

金城学院大学大学院  
「薬学研究科 薬学専攻(博士課程)」(仮称、設置認可申請中)  
入学に関するアンケート調査

令和3年6月 金城学院大学

金城学院大学では、2022年(令和4年)4月に大学院「薬学研究科 薬学専攻(博士課程)」(仮称)の開設を計画しております。

つきましては、薬剤師として現場で働く皆様へ、大学院での学び直しやキャリアアップについて調査させていただき、構想中の「薬学研究科 薬学専攻(博士課程)」(仮称)の内容をより充実したものにするための参考とさせていただきたいと考えております。

なお、この調査は無記名で行い、皆様の個人情報を守ることをお約束いたします。

ぜひ、皆様の忌憚のないご意見をお聞かせくださいますよう、アンケートへのご協力をよろしくお願いいたします。

この調査についてご不明な点、ご質問などありましたらお手数ですが  
金城学院大学 総務部 置田・磯部(TEL052-798-0180)までご連絡ください。

※このアンケートや別紙に記載されている内容は予定であり、変更になる可能性があります。

このアンケート用紙の裏面に直接回答をご記入のうえ、  
【2021年6月13日(日)までにFAXでご返信ください】

ご返信先:FAX【052-798-4462】

※FAXにてご返信頂く際には裏面の回答ページのみをご送信頂きますよう、  
よろしくお願い申し上げます。

金城学院大学では、2022年(令和4年)4月に、  
新しく大学院「薬学研究科 薬学専攻(博士課程)」(仮称)  
を設置することを構想しています。

※別紙「金城学院大学大学院「薬学研究科 薬学専攻(博士課程)」  
設置計画の概要」をご覧いただいた上、裏面の質問にお答えください ※

(裏面)回答ページへ



## 卷末資料 設置構想概要資料



# 設置構想概要資料

金城学院大学大学院「薬学研究科薬学専攻（博士課程）」（仮称）の設置計画の概要

1. 名称 薬学研究科薬学専攻（博士課程） 【仮称、設置認可申請中】

2. 開設予定時期 2022（令和4）年4月

3. 設置の理念、養成する人材像

現代医療において、高度な専門性や研究遂行能力を駆使して問題を解決する力が一層強く求められるようになってきています。このために、薬学領域に関する高度な専門知識を主体的に蓄積し理解を深め、専門知識と医療との関わりについて考察し、論点を整理して課題を設定するとともに、設定した課題に最先端かつ高度な薬学的知識を駆使して取り組み、解決し、その成果を発信する力を養成することが求められています。このような背景のもと、薬学研究科は薬学専攻の単一専攻科とし、高い倫理観、及び薬学領域に関する高度な専門知識と研究能力を通じて課題を設定し問題を解決する能力を有し、薬学研究に貢献できる研究者・医療従事者を養成することを目的とします。

4. 修了後に想定される主な進路

- ① 学術界における薬学研究者（薬学の専門家・教育者として後進を指導し社会に貢献）
- ② 産業界における薬学研究者（創薬、食品、化粧品研究等を通して社会に貢献）
- ③ 公務員（国立研究機関、公設試験研究機関での研究等を通して社会に貢献）
- ④ 医療機関における薬学研究者（臨床試験や調査研究などの臨床研究等を通して医療の発展に貢献）
- ⑤ 医療機関で高度な専門性を発揮できる医療従事者（医薬品情報担当者、専門医療機関連携薬局担当者等として医療に貢献）

5. 開設予定の教育課程

教育課程を、「特論科目」、「演習科目」、「課題研究」に体系的に区分し、1年次から順次性をもって学修を進めることができるように編成します。また、社会人学生に柔軟に対応した授業を実施します。

① 特論科目

特論科目では、すべての大学院生が履修する必修科目と目的に応じて専門性の高度化を図ることのできる選択必修科目を履修します。

【必修科目】「基礎薬学特論」「医療薬学特論」「研究実践法特論」「研究・医療倫理特論」

【選択必修科目】「天然医薬品資源学特論」、「創薬化学特論」、「生体機能解析学特論」、「薬剤学特論」、「病態薬効解析学特論」、「免疫・アレルギー学特論」、「生化学特論」、「オミクス特論」、「薬物治療研究学特論」

② 演習科目

演習科目では、薬学分野の最先端の研究内容を模擬的・総合的に体験し、研究の方法論とプレゼンテーションのスキルを修得します。

【必修科目】「薬学総合特別演習Ⅰ」、「薬学総合特別演習Ⅱ」

【選択必修科目】「分子モデリング・シミュレーション特別演習」、「化学系高度分析機器特別演習」、「生物系高度分析機器特別演習」、「医療情報解析学特別演習」、「実践医療薬学特別演習」

③ 課題研究

課題研究では、研究能力の向上を目指し、研究室を中心にして研究指導を受けます。博士論文の作成につながるものです。医薬品化学分野、物理・薬剤学分野、応用生物学分野、薬物学分野、実践医療薬学分野などの研究領域から約20件の課題研究で構成されます。

例：「薬剤耐性に関与する抗菌薬抵抗分子の構造・機能解析に関する研究」「生体におけるマスト細胞の生理的意義とその役割に関する研究」「がん化学療法に関わる臨床研究」「医薬品副作用の予測・予防に役立つ情報の構築」

# 設置構想概要資料

---

6. 学位の名称 博士（薬学）
7. 設置場所 金城学院大学 〒463-8521 名古屋市守山区大森二丁目 1723 番地  
Tel: 052-798-0180(代表)
8. 入学定員 2人（収容定員8人）
9. 学生納付金 入学金 200,000円 授業料（年額） 900,000円
10. 競合する大学・研究科・専攻等の名称  
名城大学 大学院薬学研究科薬学専攻（博士課程）  
愛知学院大学 大学院薬学研究科医療薬学専攻（博士課程）  
鈴鹿医療科学大学 大学院薬学研究科医療薬学専攻（博士課程）

（注）上記の概要は現在計画中の予定であり、変更される場合があります。



## 近隣私立大学大学院薬学研究科の学費一覧

単位：円

大学名	研究科名	入学金	授業料	施設設備費	諸費用	合計
愛知学院大学 大学院	薬学研究科 医療薬学専攻	200,000	750,000	200,000	23,000	1,173,000
鈴鹿医療科学大学 大学院	薬学研究科 医療薬学専攻	200,000	680,000	授業料に含む	授業料に含む	880,000
名城大学 大学院	薬学研究科 薬学専攻	130,000	640,000	100,000	120,000	990,000
金城学院大学 大学院	薬学研究科 薬学専攻	200,000	850,000	50,000	13,370	1,113,370

※各大学のHP等の公開情報をもとに本学で作成

## 6 医療系薬学領域の研究の発展のために

## (1) 異分野研究領域との共同研究の推進 【他学部との共同研究の推進】

図1に異分野との有機的な連携による医療系薬学研究の推進について示す。

医療系薬学領域の研究は薬物治療の最適化から創薬科学研究など広範に及び、異なる研究領域との有機的連携体制に基づく共同研究は重要である。医療系薬学研究室は他学部には無い研究領域という特色を生かし、研究・技術基盤の更なる充実化を図るとともに、医療系薬学研究の質的向上のための人材育成などの一層の取組が必須である。そのためには薬学部・薬学研究科内の有機系、生物系、物理系の基礎薬学研究室などとの共同研究を通じた研究基盤の充実化を推し進める必要がある。

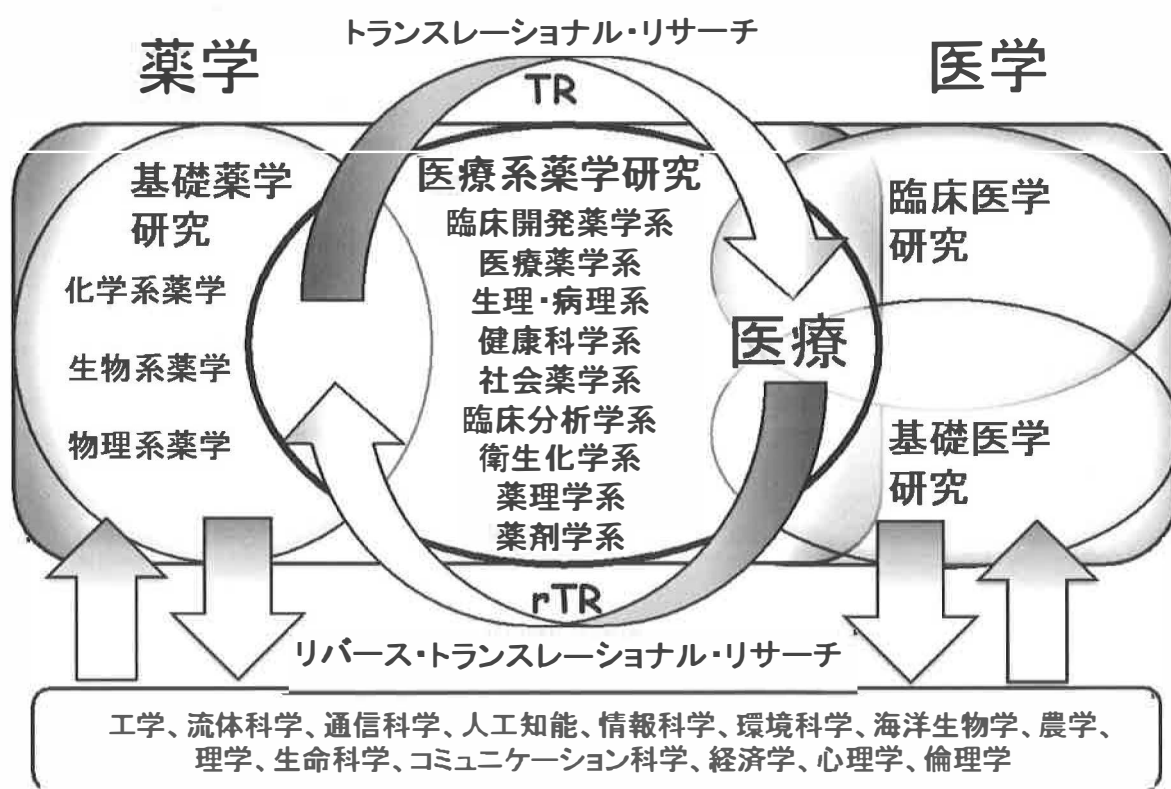


図1 有機的異分野連携による医療系薬学研究の推進

ドラッグデリバリーシステム<sup>17</sup>の研究領域では、医療系薬学領域の研究者は医学や工学との共同研究において一定の成果を生みつつある。一方、近年、急速に注目を集めている医療ビッグデータを活用した質の高い臨床研究において、薬の専門家として医療系薬学研究者らが果たすべき役割は大きく、バイオ・インフォマティクス、医療統計科

<sup>17</sup> ドラッグデリバリーシステム (Drug Delivery System (DDS)、薬物送達システム)： 必要な部位に必要な薬物量を必要時間だけ作用させるような最適化を目的に設計させた投与システム。代表的な DDS として、薬物の剤形からの放出を制御することで適切な薬物濃度が保たれるように設計された徐放性製剤や、副作用の軽減や吸収改善などを目的として、薬物の構造を変え、体内で薬物に変換されるようにしたプロドラッグなどがある。(出典：公益社団法人 日本薬学会公式ホームページ「薬学用語解説」)

学者などの情報科学領域の研究者を含む医学・工学領域の研究者との共同研究に積極的に参加することで大きな貢献が期待される。システムバイオロジーにおける医療系薬学研究者の果たす役割は重要である。数理モデル解析科学、プロテオーム<sup>18</sup>、メタボローム<sup>19</sup>などの研究者との共同研究によって、薬効や毒性の定量的予測や副作用の発現を最小限に抑えた新薬開発戦略の構築など医療系薬学研究への応用の可能性は大きい。modeling and simulation を活用した創薬研究において成果が挙げられているが、予測の信頼性を高めるためには細胞機能の実体を担うタンパク質の定量的アトラスの構築は重要であり、異分野領域の研究者との共同研究による新たな展開が期待される。質量分析装置の性能が飛躍的に向上したにもかかわらず、バイオマーカー探索研究は期待した程度の成果が得られていない。複数種類のタンパク質の質的量的変動や複合体効果など、質量分析科学の専門家との共同研究を通じて再現性と定量性に優れた高感度の手法を導入し、治療効果や副作用の指標となる予後マーカーの探索、発症前バイオマーカー探索、疾患発生リスク因子の探索などにおいて先導的な役割を果たすことが期待される。

iPS・ES 細胞研究に代表されるように基礎医学の研究成果の臨床応用への展開スピードは目覚ましく、再生医療は臨床現場に大きな変革を起こしつつある。細胞の大量培養技術の開発と用いる細胞の品質管理は実用化における重要な課題であり、医療薬学研究者は基礎医学、ロボット工学などの専門家との共同研究に積極的に参加することで課題の解決において役割を果たす必要がある。医薬品開発におけるグローバル化は定着しており、世界の臨床現場の最新のニーズにリアルタイムで取り組むには国際共同研究の推進は重要な課題である。国際的な研究者コミュニティにおいて牽引的役割を果たすには、独自の基盤技術開発を含めた我が国の医療系薬学研究が一層の質的向上を目指す必要がある。

近年、研究者の成果が比較的短期間で評価されることから、原理原則に立ち戻った成果の見通しの立てにくいリスクの高い研究に取り組むことが困難になりつつある。近未来に成果を求めることは重要であるが、コミュニケーション科学、心理学、倫理学、経済学などの人文社会系や環境科学、流体科学、通信科学、人工知能、海洋生物学など共同研究があまり盛んでなかった領域との共同研究を行うことで研究基盤を広げ、将来の医療系薬学研究の発展を見据えた取組について検討する必要がある。

## (2) 臨床現場との共同研究

近年、臨床研究に薬剤師が参加する機会が増している。臨床現場において薬剤師が主体的に進める臨床研究では、解析手法や研究設備・研究体制の制限などもあり施設内(あるいは臨床現場のみ)で完結しないものも多い。しかし、このような研究の中には、薬

<sup>18</sup> プロテオーム (proteome) : タンパク質 (protein) と集団を意味する接尾語 (-ome) を結びつけた造語で、ゲノムにコードされたタンパク質の全体を表す。1995年にオーストラリアのM. Willkins博士によって提唱された。プロテオーム研究は、ゲノムに刻まれた生命情報の最終産物であり、生命が織りなすあらゆる現象を演出するタンパク質のダイナミックスを解析する。(出典：公益社団法人 日本薬学会公式ホームページ「薬学用語解説」より一部改変)

<sup>19</sup> メタボローム (Metabolome) : 代謝物 (Metabolite) と集団を意味する接尾語 (-ome) を組み合わせた造語であり、生体内に含まれる代謝物の全体を表す。

剤師による臨床研究（ドライ研究が主体）と薬学部・薬学研究科が行う基礎薬学研究（ウェット研究が主体）との融合により成し得る rTR として発展可能なものがある。臨床現場で生じた問題を研究により解決し、その成果を社会に還元するために、rTR の展開が重要である。

rTR の原点は、臨床現場においてクリニカルクエスチョンを抽出し、臨床発のリサーチクエスチョン<sup>20</sup>を提示することにある。薬剤師の病棟薬剤業務の普及や在宅医療への参画により、薬剤師が臨床上の未知の問題に遭遇する機会は増加しつつあるが、問題の本質を見極め、的確なリサーチクエスチョンを提示するためには、疾患を知悉する医師との緊密な連携に加え、看護師や臨床検査技師などの医療スタッフ、さらには、患者やその家族とのコミュニケーションが重要である。そして、質の高いリサーチクエスチョンを継続的に提示し、rTR を体系的・組織的に展開していくためには、全国規模のデータセンターの整備や、患者の血液などの生体試料を疾患・診療情報と関連づけて保存管理し共同利用できるバンク制度の整備など、疾患情報や副作用情報等を効率的に収集整理する仕組みが重要である。患者の診療情報を取り扱う上での守秘義務や利益相反の手続きなど、研究者が遵守すべき社会的規範についても十二分の注意を払わなければならない。加えて、リサーチクエスチョンを探索するための保険診療を越えた検査や投薬が行える医療機関の指定や経費をカバーできる資金制度の整備が必要である。それには、臨床研究中核病院が中心となり関連医療機関を先導することも考えられる。

臨床現場と薬学部・薬学研究科が協働し rTR を進めるにあたっては、両者の状況を知る人材をそれぞれに配置する必要がある。臨床現場においては、クリニカルクエスチョンを抽出しリサーチクエスチョンを提示できる高い倫理性と使命感を持つ薬剤師の養成・配置に加え、基礎研究者への橋渡しを担うコーディネーターの養成・配置が必要である。薬学部・薬学研究科においては常に臨床現場との接点を持ちながら研究指導に当たっている臨床系教員が窓口となり、抽出された問題の解決に向けて薬学部・薬学研究科にある多くの研究領域との協働を図ることが必要である。また、薬学部・薬学研究科での基礎研究の段階においても、疾患を知悉する各診療科の医師との緊密な連携は重要である。rTR を体系的・組織的かつ継続的に進めるに当たり、臨床現場から提示されるリサーチクエスチョンは、その解決が緊急性を有すること、また、あらかじめどのようなリサーチクエスチョンが提示されるかは予測困難であることから、申請時の研究課題に基づいて研究を遂行する文部科学省及び独立行政法人 日本学術振興会による科学研究費などの研究支援制度や、目標達成型・課題解決型である JST や AMED による研究支援制度の研究資金は、rTR に関わる基礎研究を行う研究経費として必ずしも適当であるとは言えない。研究の開始時期や期間、さらには、研究課題に関して柔軟に対応できる資

<sup>20</sup> リサーチクエスチョン (research question) : クリニカルクエスチョンを出発点として、臨床上の課題を臨床研究や基礎研究で解明するため、解決すべき研究上の問題 (疑問) として明確化したもの。リサーチクエスチョンはクリニカルクエスチョンを出発点として、臨床上の課題を臨床研究で解明する形に変えたもの。

金制度の整備が必要である。

6年制薬学部を基礎とする4年制大学院の修了生が輩出されるようになり、研究マインドと臨床上のリサーチクエストを見出し解決する能力のいずれをも有する薬剤師や研究者、教員を養成する基盤が強化された。「大学院4年制博士課程の現状把握及び分析委員会」の報告（公益社団法人 日本薬学会、文部科学省平成28年度「大学における医療人養成の在り方に関する調査研究委託事業」）によると、一般選抜入学の4年制博士課程修了者のうち医療系が約60%と最も多く、一方、社会人選抜に限るとおよそ90%が医療系である。研究種別をみると、臨床研究・TRが合わせて約15%であり、社会人選抜ではおよそ60%となっている。また、学外医療施設との共同研究を行っている学生数も931人中229人（2＋3年制では1,016人中46人）と多く（平成27年度調査結果）、臨床現場と薬学部・薬学研究科との共同研究を進展させる基盤が整いつつある。

### (3) 医療系薬学領域の研究費及び若手育成研究支援体制

現在、我が国では国（文部科学省、厚生労働省、経済産業省など）を始め地方自治体・民間財団など種々の支援体制がある。代表的なものに文部科学省及び独立行政法人 日本学術振興会による研究費支援の科学研究費（科研費）と若手研究者育成のための特別研究員制度があり、両者ともに研究者及び大学院生自らが申請するいわゆるボトムアップ型支援体制である。医療系薬学は分科薬学に属し、独立した細目になったのは2003年の改正からである。適正な相互評価を行うために、審査細目は申請件数が一定の枠を超えないように配慮されており、申請件数が多くなると細目が更に分割される。2013度から医療系薬学の基盤研究（C）（一般）の申請が二つに分割された（分割1は薬物動態学などのウェット研究、分割2は社会薬学などのドライ研究）。このことは医療系薬学の申請件数が大きく伸び、医療系薬学研究者人口の増加を示している。採択件数は細目ごとの採択率がほぼ同じとなるよう審査されており、他の基盤研究（S）、（A）、（B）での医療系薬学研究の採択状況などの推移から医療系薬学研究の裾野は広がっているものと推測される。

医療系薬学研究に関する他の支援体制に国立研究開発法人科学技術振興機構（JST）、国立研究開発法人日本医療研究開発機構（AMED）、新エネルギー・産業技術総合開発機構（NEDO）などがある。JST及びAMEDでは国の戦略的研究開発推進政策あるいは医療分野研究開発推進計画に基づいて募集課題が設定されることからトップダウン型研究支援であり、具体的研究成果を求める応用研究が幅広く採択されている。AMEDでの公募課題や採択状況を見ると、臨床医学研究領域が多く、医療系薬学領域は少ないことから、今後は、医療系薬学領域の研究課題の公募が増えることや、臨床医学研究の一部として取り上げられ共同研究としての採択に繋がることを期待したい。

その他に地方自治体は地域振興に向け、製薬会社や医療・分析機器関連会社が設立した民間財団による研究費支援があるが、医療系薬学領域に関係するものは、いまだ多くない状況である。また、民間からは製薬企業や健康食品企業による産学共同研究や寄附講座の開設が行われているが、臨床医学分野に比べ薬学分野は著しく少ない。医療系薬

学領域は医療に密接に関連する学問領域であることから、今後は民間企業との産学連携研究が進展するものと期待される。

以上のように、医療系薬学は比較的新しい学問領域であるが、科研費の申請件数から関連研究者人口の増加が示唆されており若手研究者を含めた裾野は広い。これらの研究者が一層活躍できるよう研究支援体制の充実が望まれる。

#### (4) 人材育成

高齢社会の我が国において医療系薬学研究者に求められていることは、チーム医療、医薬品の開発、医薬品適正使用、地域包括ケアシステムの推進などにおいて創造的、論理的に科学を通じて国民の福祉向上に貢献することである。医療系薬学研究は基礎から応用・臨床に至る研究領域に広く及んでおり、その活躍の場は大学や公的な研究機関にとどまらず、医療施設、薬局、医薬品産業などに拡がっている。こうした中、自立した高いスキルを有するグローバルに活躍できる医療系薬学研究者の育成について大学の果たす役割は大きい。高度人材育成の場である大学院においては、これまで人材育成について研究を深化させることに重点を置いていた傾向があるが、今後は医療全体を俯瞰できる幅広い大学院教育課程の編成、更に職業実践力を育成する教育プログラム、産学官で協働した教育プログラムの設定などにより、社会人学び直しや臨床マインドと研究マインドをバランスよく備えた pharmacist-scientists の育成に対応することが重要である。さらに、医療系薬学研究者にはグローバルに活躍する素地を養うこと、論理的思考力の涵養、実践力・リーダーシップ能力の獲得などが「知のプロフェッショナル」として社会から期待されている。研究者は、生涯にわたって多様な経験を通じての研鑽に努める必要がある。

※日本学術会議薬学委員会医療系薬学分科会による「社会に貢献する医療系薬学研究の推進」報告書（平成29年9月29日）  
p. 11 6医療系薬学領域の研究の発展のために

師は、前項に定める場合のほか、調剤した薬剤の適正な使用のため必要があると認める場合には、患者の当該薬剤の使用の状況を継続的かつ的確に把握するとともに、患者又は現にその看護に当たっている者に対し、必要な情報を提供し、及び必要な薬学的知見に基づく指導を行わなければならない」との一項が追加され、薬剤師が、調剤時に限らず、必要に応じて患者の薬剤の使用状況の把握や服薬指導を行う義務が法制化されることとなった。併せて、薬局薬剤師が、患者の薬剤の使用に関する情報を他の医療提供施設の医師等に提供する努力義務が薬機法で規定されることとなった。また、今回の薬機法等の一部を改正する法律により、患者が自身に適した薬局を選択できるよう特定の機能を有する薬局を都道府県が認定し、名称表示を可能とする制度が設けられた。本制度では、地域連携薬局は入退院時の医療機関等との情報連携や在宅医療等に地域の薬局と連携しながら一元的・継続的に対応できる薬局と定義され、専門医療機関連携薬局はがん等の専門的な薬学管理に関係機関と連携して対応できる薬局とされる。

これらの薬剤師に係わる法令の改正は、薬剤師の職能が医薬品を対象とする対物業務から、患者を対象とする対人業務へと変化していることを反映したものであるとともに、地域のニーズに応じた薬局の機能分化の必要性を示している。

#### ⑤ 薬剤師の将来需給予測

平成30年度に行われた今後25年間の薬剤師の需給予測によれば、薬剤師の総数としては、数年間は需要と供給が均衡している状況が続くことになるが、長期的に見ると、供給が需要を上回ることが予測されている[7]。この推計は、薬局や医療機関における薬剤師の業務が現在と変わらない前提で行われたものであり、今後変化する薬剤師に求められる業務への対応や調剤業務の効率化等の取組によって、薬剤師の需要は当然変わりうる。また、将来的な大学の入学者・卒業者数、国家試験の合格状況によって供給も変化する。薬剤師業務が単に調剤のみに特化し続ける状況であれば、対物業務の機械化等により地域における薬剤師のニーズはむしろ減少することが考えられる。一方、セルフメディケーションの推進に代表される病気の予防や健康寿命の延伸に向けた取組などの業務を充実させることで、薬剤師の需要が高まる要素も考えられる。また、(1) 後述する pharmacist-scientists に関しては、現状でも圧倒的に不足していること、(2) 医薬品・医療機器等の品質保証や製造の管理、食品・環境の衛生確保に関しては、薬剤師特有の職能を必須としているものの、十分に供給されていないこと、(3) 薬系大学および大学病院薬剤部などにおいて教育研究を担う次世代の指導者が不足していることも、今後の課題として認識しておく必要がある。

平成30年12月現在のわが国の薬剤師数は31万人とほぼ医師に匹敵する数に達し、その約8割が薬局や医療機関に勤務している。平成30年の出生数は92万人となり少子化傾向が続く中で、毎年1万人前後の薬剤師が新たに誕生しているが、人

材の有効活用という観点からも、薬学部・薬科大学の入学定員に代表される薬剤師の供給と薬剤師の職能や薬局業務のあり方を反映する薬剤師の需要のバランスについて、大局的な検討が望まれる。

## (2) 持続可能な医療を担う薬剤師・薬局のあり方

### ① プロフェッショナリズム

薬剤師法第1条において、「薬剤師は、調剤、医薬品の供給その他薬事衛生をつかさどることによって、公衆衛生の向上および増進に寄与し、もって国民の健康な生活を確保するものとする」と定められている。すなわち、薬剤師の職務の目的は、公衆衛生の向上および増進に寄与し、国民の健康な生活を確保することであり、まさに患者にフォーカスを当てた業務展開が求められている。したがって、薬剤師は名称独占の権限を与えられた国家資格を有する医療人としての矜持と責任をもって、患者のために職務を遂行しなければならない。

厚生労働省のチーム医療の推進に関する検討会報告書（平成22年3月）[8]によれば、「チーム医療とは、医療に従事する多種多様な医療スタッフが、各々の高い専門性を前提に、目的と情報を共有し、業務を分担しつつも互いに連携・補完し合い、患者の状況に的確に対応した医療を提供すること」と定義されている。チームを構成するそれぞれの職能を尊重することで、最善の医療を完遂することが可能となる。

薬学教育モデル・コアカリキュラム（平成25年度改訂版）[9]では、薬剤師として求められる基本的な資質の最初に薬剤師としての心構えを挙げ、医療の担い手として豊かな人間性と生命の尊厳についての深い認識をもち、薬剤師の義務及び法令を遵守するとともに、人の命と健康な生活を守る使命感、責任感及び倫理観を有することを求めている。また、日本薬剤師会では薬剤師行動規範（平成30年1月17日）[10]を制定し、薬剤師業務に係わる確固たる薬の倫理の確立を求めている。以上のように、薬剤師としての倫理観の涵養とプロフェッショナルとしての自律（オートノミー）の確立は薬剤師に求められる極めて重要な要件である。

### ② 医療機関と薬局の連携

地域包括ケアシステム<sup>3</sup>において、薬剤師・薬局はその役割の一翼を担い医療機関等や多職種と連携して適切な役割を果たすことが求められている。がん等の薬物療法に関しては、経口投与薬が増加し外来で処方されることが多くなるなど、専門性の高い薬学的管理が継続的に必要となる機会が増加しており、特殊な調剤への対応、退院時の支援や、より丁寧な薬学的管理を必要とする患者に対応する必要がある。このような状況に適切に対応するためには、専門性が高く実践的な経験を

<sup>3</sup> 地域包括ケアシステム：団塊の世代が全て75歳以上となる令和7(2025)年を目途に、重度の要介護状態となっても住み慣れた地域で自分らしい暮らしを人生の最後まで続けることができるように、地域の特性に応じて医療・介護・予防・住まい・生活支援を一体的に提供する体制。



### ③ 薬剤師レジデントのカリキュラムと指導体制

研修期間は、薬剤師レジデント制度研究会参加 26 施設中 5 施設は 1 年間、3 施設は 1 もしくは 2 年間、14 施設は 2 年間、3 施設は 3 年間、1 施設は 5 年間であり、2～3 年間に亘って段階的なプログラムを呈示している施設が大半を占めた。研修カリキュラムは、全ての施設において講義研修と実務研修から構成される。講義は薬剤師のみならず、医師、看護師や他の医療スタッフなど多職種によって実施されており、研修医対象の講義に薬剤師レジデントが参加するケースもある。実務研修は調剤、医薬品情報、製剤などに加えて薬剤管理指導等の実地研修が全ての施設で行われており、比較的早期から臨床薬剤業務に関する教育が集中的に行われている。指導体制については、がん、感染制御、精神科薬物療法、緩和薬物療法、栄養サポートチーム (NST)、糖尿病などの専門認定を受けた薬剤師が在籍している施設が多く、薬剤師レジデントの教育にその専門性が活用されている。

### ④ 薬剤師レジデント応募者の背景と研修修了後の進路

薬剤師レジデントの応募者は、6 年制薬学部卒業生が誕生する前の平成 23 年度以前は 4 年制薬学部卒業生、大学院修士課程修了者が大半を占め、平成 24 年度以降は 6 年制薬学部卒業生が中心である。それに加えて、他病院の非常勤や正規職員薬剤師、保険薬局に勤務する薬剤師、製薬企業の職員からの応募や基礎分野の博士課程で学位を取得した後に不足していた臨床研修を経験する目的で応募する薬剤師など、応募者の背景は多岐に亘っている。

一方、研修修了後の進路を薬剤師レジデント制度研究会参加 26 施設から回答のあった 412 人でみると、研修施設の正規職員に採用される場合が 218 人と半数以上を占めるが、自施設以外の大学病院 47 人、公的医療機関 58 人、私立病院 51 人、保険薬局 31 人、大学教員 7 人、公務員 2 人、その他 (海外留学、企業など) 25 人など、研修施設以外にも就職の可能性は広がっており、現状では全ての研修修了生が薬剤師レジデント制度で得た経験を活かした職に就く事が可能となっている。注目すべきは、保険薬局勤務に就く修了生が約 8 % 存在することであり、大学卒業後の多様な薬剤師のキャリアパスを考へても薬剤師としての最初の第一歩において薬剤師レジデントの果たす役割は重要である。

## (2) 新たな初期臨床研修制度の構築にむけて

このようにわが国の薬剤師レジデント制度は、益々充実する状況にある一方で、各施設が独自のカリキュラムと運営方針によって成り立っている現状も確認された。米国では職能団体や学会が母体となる組織によってプログラム認証と受入施設と応募者のマッチングが行われており [17]、わが国の制度を検討する際に参考となる。今後の薬剤師レジデント制度の進展には財源確保が必須と考えられる。現在は、個々の受入施設や提携薬系大学の自助努力で財源を確保しているが、薬剤師レジデント制度のさ

らなる充実のためには、一定の認証を受けたプログラムに対する公的助成が検討されることが望まれる。平成 31 年度厚生労働行政推進調査事業費補助金 医薬品・医療機器等レギュラトリーサイエンス政策研究事業「薬剤師の卒後研修カリキュラムの調査研究」では、レジデント制度の実態把握、卒後研修体制の整備・構築に向けた課題の明確化、薬学部生の進路選択等への活用、卒後研修の基本理念と標準カリキュラムの作成、若手薬剤師の臨床能力の向上と均質化等が検討されており、その成果が議論の礎となることが期待される。

わが国の医師臨床研修制度は実地修練医制度(いわゆるインターン制度)に始まり、60 年余の議論を経て現在の必修化となり、マッチングや第三者評価制度が構築された。今後、広く薬剤師としての資質を涵養し、患者を全人的にとらえることができる高い臨床能力を有した薬剤師を養成するには、薬剤師免許を取得後に行う新たな初期臨床研修制度の構築が不可欠と考える。まずは、学会や職能団体、行政をも含めた新たな議論の場を設けることが、喫緊の課題を解決する糸口になると考えられる。

社会が求める持続可能な医療を担う薬剤師は、薬剤師免許取得後の生涯研鑽によって培われる。図に示すように、卒後の初期研修としての薬剤師レジデント制度、その後の認定・専門薬剤師制度や大学院博士課程などの諸制度が個々の薬剤師の必要に応じて提供されることにより、薬剤師は生涯にわたって研鑽を続け、質の高い薬物治療の提供と国民の健康増進に寄与することが期待される。

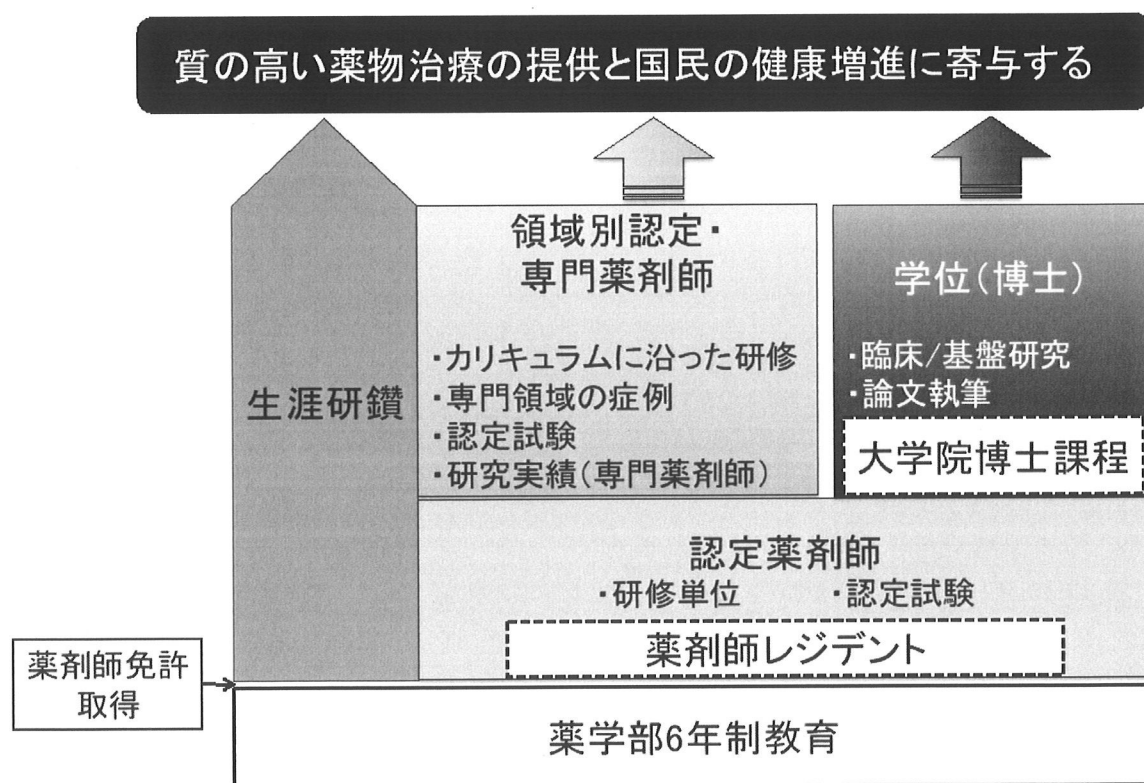


図 1 薬剤師職能と生涯研鑽

※日本学術会議薬学委員会薬剤師職能とキャリアパス分科会による「提言 持続可能な医療を担う薬剤師の職能と生涯研鑽」(令和 2 年 9 月 4 日) p. 5 2 薬剤師職能と社会貢献 (1) 医薬分業と薬剤師・薬局の現状 ⑤薬剤師の将来需給予測、4 卒後研修制度のあり方

## 一般社団法人薬学教育協議会の令和2年度就職動向調査集計結果

## 国公私立薬系大学院 博士課程修了者動向（6年制学科卒）と6年制学科卒業生就職状況の比較

進路	博士課程 修了者	%	6年生学科 卒業生	%
保険薬局	4	2.92%	4,814	46.45%
医薬品販売業	0	0.00%	169	1.63%
病院薬剤部（薬剤科）	22	16.06%	2,045	19.73%
病院・診療所 臨床・検査・その他	0	0.00%	11	0.11%
医薬品関連企業（営業・MR）	2	1.46%	299	2.89%
医薬品関連企業（研究・開発）	29	21.17%	461	4.45%
医薬品関連企業（その他）	6	4.38%	77	0.74%
化学系企業	9	6.57%	108	1.04%
行政	2	1.46%	253	2.44%
試験・研究機関	45	32.85%	31	0.30%
大学			2	0.02%
研究生	0	0.00%	99	0.96%
その他の職業	4	2.92%	219	2.11%
進学	0	0.00%	164	1.58%
非就職者	14	10.22%	258	2.49%
未定・未報告	0	0.00%	1,353	13.06%
合計	137	100.00%	10,363	100.00%

※一般社団法人薬学教育協議会「就職動向調査結果報告書（一部）令和2年3月調査結果」第2表及び第13表をもとに本学で作成

---

---

金城学院大学「看護学部 看護学科」(仮称)  
金城学院大学大学院  
「薬学研究科 医療薬学専攻(博士課程)」  
(仮称)  
設置に関するニーズ調査  
結果報告書  
【医療施設対象】

---

---

令和3年3月  
株式会社 進研アド  
—学生確保(資料)—96—

# 医療施設対象 調査概要

## 1. 調査目的

2022年4月開設予定の金城学院大学「看護学部 看護学科」、金城学院大学大学院「薬学研究科 医療薬学専攻(博士課程)」新設構想に関して、医療施設のニーズを把握する。

## 2. 調査概要

		医療施設対象調査
調査対象		医療施設の採用担当者
調査エリア		愛知県、岐阜県、三重県
調査方法		郵送調査
調査対象数	依頼数	950施設
	回収数(回収率)	172施設(18.1%)
調査時期		2021年1月6日(水)～2021年1月26日(火)
調査実施機関		株式会社 進研アド

## 3. 調査項目

医療施設対象調査
<ul style="list-style-type: none"><li>・人事採用への関与度</li><li>・本社所在地</li><li>・業種</li><li>・従業員数</li><li>・正規職員・社員の平均採用人数</li><li>・本年度の採用予定数</li><li>・看護師・保健師・薬剤師の勤務者数・採用希望人数</li><li>・金城学院大学の各学部・学科および研究科の特色に対する魅力度</li><li>・金城学院大学の各学部・学科および研究科の社会的必要性</li><li>・金城学院大学の各学部・学科卒業生および研究科修了生に対する採用意向</li><li>・金城学院大学の各学部・学科卒業生および研究科修了生の毎年の採用想定人数</li></ul>

## 医療施設対象 調査結果まとめ



# 医療施設対象 調査結果まとめ

## 回答施設(回答者)の属性

※本調査は、金城学院大学「看護学部 看護学科」、金城学院大学大学院「薬学研究科 医療薬学専攻(博士課程)」に対する人材需要を確認するための調査として設計。金城学院大学「看護学部 看護学科」、金城学院大学大学院「薬学研究科 医療薬学専攻(博士課程)」の卒業生就職先として想定される医療施設の人事関連業務に携わっている人を対象に調査を実施し、172施設から回答を得た。

- 回答者の人事採用への関与度を聞いたところ、「採用の決裁権があり、選考にかかわっている」人は54.1%、「採用の決裁権はないが、選考にかかわっている」人が30.2%と、採用や選考にかかわる人事担当者からの意見を聴取できていると考えられる。
- 回答施設の本社所在地は、金城学院大学の所在地である「愛知県」が80.8%を占め、最も多い。次いで「岐阜県」が10.5%、「三重県」が8.1%である。
- 回答施設の業種としては「病院」が52.9%と最も多く、次いで「診療所・クリニック」が44.8%、「その他」が2.3%である。
- 回答施設の従業員数は、「50名未満」が45.3%で最も多い。次いで「100名～500名未満」が32.6%、「50名～100名未満」「500名～1,000名未満」が同率で7.6%である。

## 回答施設の採用状況(過去3か年)／本年度の採用予定数

- 回答施設の平均的な正規職員・社員の採用人数は、「1名～5名未満」が36.6%で最も多い。次いで「10名～20名未満」が12.8%、「5名～10名未満」が12.2%である。毎年、正規職員・社員を採用している施設がほとんどである。
- 回答施設の本年度の採用予定数は、「昨年度並み」が46.5%で最も多い。次いで「未定」が30.8%、「増やす」が14.5%である。採用予定数が「未定」という施設も一定数みられるものの、回答施設の多くは昨年と同等かそれ以上の採用が予定されている様子である。

# 医療施設対象 調査結果まとめ

## 看護師・保健師・薬剤師の勤務者数・採用希望人数

- 看護師の現在の勤務者数は、「1名～5名未満」が32.6%で最も多い。次いで「100名以上」が23.8%、「50名～100名未満」が16.3%である。総数は18,892人で、平均は112.5人である。
- 看護師の今後5年間の採用希望人数は、「1名～5名未満」が27.3%で最も多い。次いで「0名」が15.7%、「10名～20名未満」が10.5%である。総数は6,255人で、平均は42.6人である。
- 保健師の現在の勤務者数は、「0名」が72.7%で最も多い。次いで「1名～5名未満」が10.5%、「5名～10名未満」が4.7%である。総数は189人で、平均は1.2人である。
- 保健師の今後5年間の採用希望人数は、「0名」が75.6%で最も多い。次いで「1名～5名未満」が7.6%、「10名～20名未満」が0.6%である。総数は29人で、平均は0.2人である。
- 薬剤師の現在の勤務者数は、「0名」が37.8%で最も多い。次いで「1名～5名未満」が27.9%、「5名～10名未満」が11.6%である。総数は1,132人で、平均は7.1人である。
- 薬剤師の今後5年間の採用希望人数は、「0名」が49.4%で最も多い。次いで「1名～5名未満」が22.1%、「5名～10名未満」が5.2%である。総数は373人で、平均は2.6人である。



# 医療施設対象 調査結果まとめ

## <看護学部 看護学科>

### 金城学院大学「看護学部 看護学科」の特色に対する魅力度

- 金城学院大学「看護学部 看護学科」の特色に対する魅力度(※)は、すべての項目で8割を超える。
- 金城学院大学「看護学部 看護学科」の特色の中で最も魅力度が高いのは、「A. **看護実践力が養われる環境** 充実したシミュレーション教育環境、看護実践教育センター(仮称)によるセルフトレーニングへの支援などによりアクティブラーニングを促進し、高い看護実践力を養うことができます。」(93.0%)であり、「とても魅力を感じる」と回答した人の割合も36.0%で最も高い。

次に魅力度が高いのは、「C. **きめ細かな教育サポート** 『基礎ゼミナール』や『卒業研究』など、ゼミスタイルの科目があるほか、病院などの臨地実習において臨地実習指導者と大学教員による実習指導体制を組むなど、少人数によるきめ細かな教育サポートを行います。また学生相談室やアドバイザー制度など、学生個々の生活全般もきめ細かく支援します。」(90.7%)、「B. **ICTを活用した教育** タブレットタイプのテキストを使用するほか、動画やクラウド型教育支援システムmanaba(マナバ)を導入して双方向型の授業を実現させるなど、ICT教育を充実させ、医療のICT化に対応できる能力を養います。」「D. **総合大学ならではの幅広い交流** 現在、ワンキャンパスに5学部13学科・コースを有する女子総合大学だからこそ、他分野を学ぶ学生との交流も自然に生まれ、多様な価値観にふれることができます。また同じ医療関連を学ぶ薬学部や生活環境学部、人間科学部と連携した授業・活動も計画しています。」(同率で81.4%)と続く。

※魅力度＝「とても魅力を感じる」「ある程度魅力を感じる」と回答した施設の合計値

# 医療施設対象 調査結果まとめ

## <看護学部 看護学科>

---

### 金城学院大学「看護学部 看護学科」の社会的必要性

- 金城学院大学「看護学部 看護学科」の社会的必要性については、92.4% (159施設)が「必要だと思う」と回答しており、多くの施設からこれからの社会にとって必要な学部・学科であると評価されていることがうかがえる。

### 金城学院大学「看護学部 看護学科(看護師資格所有者)」 卒業生に対する採用意向・毎年の採用想定人数

- 金城学院大学「看護学部 看護学科(看護師資格所有者)」卒業生を「採用したいと思う」(※看護師として採用)と答えた施設は、82.0%(**141施設**)である。
- 金城学院大学「看護学部 看護学科(看護師資格所有者)」の卒業生を「採用したいと思う」と答えた141施設へ金城学院大学「看護学部 看護学科(看護師資格所有者)」卒業生の採用(※看護師として採用)を毎年何名程度想定しているか聞いたところ、採用想定人数の合計は**299名**で、予定している入学定員数100名を2倍以上上回っている。このことから、安定した人材需要があることがうかがえる。

#### <属性別>

##### ◇本社所在地別

- 「愛知県」に所在地のある施設からの採用意向は、79.9%(139施設中、**111施設**)。採用想定人数の合計は**227人**で、予定している入学定員数を2倍以上上回っている。

##### ◇業種別

- 「病院」からの採用意向は、91.2%(91施設中、**83施設**)。採用想定人数の合計は**237人**で、予定している入学定員数を2倍以上上回っている。

# 医療施設対象 調査結果まとめ

## <看護学部 看護学科(看護師資格所有者)>

---

### ◇勤務者数別(看護師)

- 看護師の勤務者が「1名～5名未満」の施設からの採用意向は、73.2% (56施設中、**41施設**)。採用想定人数の合計は**42人**である。「5名～100名未満」の施設からの採用意向は、85.1% (67施設中、**57施設**)。採用想定人数の合計は**99人**である。「100名以上」の施設からの採用意向は、95.1% (41施設中、**39施設**)。採用想定人数の合計は**151人**で、予定している入学定員数を上回っている。看護師の勤務者が少ない施設からも多い施設からも、採用意向の割合は高いといえる。

### ◇採用希望数別(看護師)

- 看護師の採用希望数が「1名～5名未満」の施設からの採用意向は、85.1% (47施設中、**40施設**)。採用想定人数の合計は**47人**である。「5名～100名未満」の施設からの採用意向は、96.4% (56施設中、**54施設**)。採用想定人数の合計は**135人**で、予定している入学定員数を上回っている。「100名以上」の施設からの採用意向は、94.1% (17施設中、**16施設**)。採用想定人数の合計は**80人**である。このことから、採用希望数を1名以上と回答している施設において、金城学院大学「看護学部 看護学科」卒業生の人材需要があることがうかがえる。

### ◇社会的必要性別【必要だと思う】

- 金城学院大学「看護学部 看護学科」が社会的に必要だと思うと回答した施設からの採用意向は、85.5% (159施設中、**136施設**)。採用想定人数の合計は**293人**で、予定している入学定員数を2倍以上上回っている。

# 医療施設対象 調査結果まとめ

## <看護学部 看護学科(保健師資格所有者)>

### 金城学院大学「看護学部 看護学科(保健師資格所有者)」 卒業生に対する採用意向・毎年の採用想定人数

- 金城学院大学「看護学部 看護学科(保健師資格所有者)」卒業生を「採用したいと思う」(※保健師として採用)と答えた施設は、18.6% (**32施設**)である。
- 金城学院大学「看護学部 看護学科(保健師資格所有者)」の卒業生を「採用したいと思う」と答えた32施設へ金城学院大学「看護学部 看護学科(保健師資格所有者)」卒業生の採用(※保健師として採用)を毎年何名程度想定しているか聞いたところ、採用想定人数の合計は**33名**で、一定の人材需要があることがうかがえる。

#### <属性別>

##### ◇本社所在地別

- 「愛知県」に所在地のある施設からの採用意向は、14.4% (139施設中、**20施設**)。採用想定人数の合計は**15人**で、一定の採用意向がみられる。

##### ◇業種別

- 「病院」からの採用意向は、20.9% (91施設中、**19施設**)。採用想定人数の合計は**25人**で、一定の採用意向がみられる。

### ◇勤務者数別(保健師)

- 保健師の勤務者が「0名」の施設からの採用意向は、13.6% (125施設中、**17施設**)。採用想定人数の合計は**14人**である。「1名～5名未満」の施設からの採用意向は、38.9% (18施設中、**7施設**)。採用想定人数の合計は**5人**である。「5名以上」の施設からの採用意向は、41.7% (12施設中、**5施設**)。採用想定人数の合計は**6人**である。保健師の勤務者が少ない施設からも多い施設からも、一定の採用意向がみられる。

### ◇採用希望数別(保健師)

- 保健師の採用希望数が「1名以上」の施設からの採用意向は、71.4% (14施設中、**10施設**)。採用想定人数の合計は**11人**で、一定の採用意向がみられる。

### ◇社会的必要性別【必要だと思う】

- 金城学院大学「看護学部 看護学科」が社会的に必要だと思うと回答した施設からの採用意向は、18.9% (159施設中、**30施設**)。採用想定人数の合計は**32人**で、一定の採用意向がみられる。

# 医療施設対象 調査結果まとめ

## <薬学研究科 医療薬学専攻(博士課程)>

### 金城学院大学大学院「薬学研究科 医療薬学専攻(博士課程)」の特色に対する魅力度

- 金城学院大学大学院「薬学研究科 医療薬学専攻(博士課程)」の特色である「E. 体系的に区分した教育課程 『基盤科目(必須科目)』と『専門科目(選択科目)』から構成される『特論科目』、薬学分野における最先端の研究内容を模擬的・総合的に体験し、研究の方法論とプレゼンテーションスキルを修得することができる『特別演習科目』、博士論文を作成する能力を養うことができる『課題研究』など、体系的に区分した教育課程を提供し、1年次から順次性をもって学修を進めることができます。」の魅力度は83.1%である。

※魅力度＝「とても魅力を感じる」「ある程度魅力を感じる」と回答した施設の合計値

### 金城学院大学大学院「薬学研究科 医療薬学専攻(博士課程)」の社会的必要性

- 金城学院大学大学院「薬学研究科 医療薬学専攻(博士課程)」の社会的必要性については、81.4%(140施設)が「必要だと思う」と回答しており、多くの施設からこれからの社会にとって必要な研究科・専攻であると評価されていることがうかがえる。

### 金城学院大学大学院「薬学研究科 医療薬学専攻(博士課程)」修了生に対する採用意向・毎年の採用想定人数

- 金城学院大学大学院「薬学研究科 医療薬学専攻(博士課程)」修了生を「採用したいと思う」(※薬剤師として採用)と答えた施設は、43.0%(74施設)である。
- 金城学院大学大学院「薬学研究科 医療薬学専攻(博士課程)」の修了生を「採用したいと思う」と答えた74施設へ金城学院大学大学院「薬学研究科 医療薬学専攻(博士課程)」修了生の採用(※薬剤師として採用)を毎年何名程度想定しているか聞いたところ、採用想定人数の合計は74名で、予定している入学定員数2名を大きく上回っている。このことから、安定した人材需要があることがうかがえる。

# 医療施設対象 調査結果まとめ

## <薬学研究科 医療薬学専攻(博士課程)>

### <属性別>

#### ◇本社所在地別

- ・「岐阜県」に所在地のある施設からの採用意向は、77.8% (18施設中、**14施設**)。採用想定人数の合計は**13人**である。「愛知県」に所在地のある施設からの採用意向は、36.0% (139施設中、**50施設**)。採用想定人数の合計は**50人**である。「三重県」に所在地のある施設からの採用意向は、64.3% (14施設中、**9施設**)。採用想定人数の合計は**11人**と、いずれも予定している入学定員数を大きく上回っている。

#### ◇業種別

- ・「病院」からの採用意向は、68.1% (91施設中、**62施設**)。採用想定人数の合計は**67人**で、予定している入学定員数を大きく上回っている。また、「診療所・クリニック」からの採用意向は、11.7% (77施設中、**9施設**)。採用想定人数の合計は**6人**で、予定している入学定員数の3倍である。

#### ◇従業員数別

- ・従業員の規模にかかわらず、一定の採用意向があり、採用想定人数の合計も予定している入学定員数を上回っている。

#### ◇勤務者数別(薬剤師)

- ・薬剤師の勤務者が「1名～5名未満」の施設からの採用意向は、68.8% (48施設中、**33施設**)。採用想定人数の合計は**26人**で、予定している入学定員数を大きく上回っている。「5名以上」の施設からの採用意向は、69.6% (46施設中、**32施設**)。採用想定人数の合計は**42人**で、予定している入学定員数を大きく上回っている。薬剤師の勤務者が少ない施設からも多い施設からも、採用意向の割合は高いといえる。



# 医療施設対象 調査結果まとめ

## <薬学研究科 医療薬学専攻(博士課程)>

---

### ◇採用希望数別(薬剤師)

- 薬剤師の採用希望数が「1名～5名未満」の施設からの採用意向は、71.1%(38施設中、**27施設**)。採用想定人数の合計は**24人**、「5名以上」の施設からの採用意向は、90.5%(21施設中、**19施設**)。採用想定人数の合計は**30人**で、ともに予定している入学定員数を大きく上回っている。このことから、採用希望数を1名以上と回答している施設の中で金城学院大学大学院「薬学研究科 医療薬学専攻(博士課程)」修了生の人材需要があることがうかがえる。

### ◇社会的必要性別【必要だと思う】

- 金城学院大学大学院「薬学研究科 医療薬学専攻(博士課程)」が社会的に必要なと思うと回答した施設からの採用意向は、51.4%(140施設中、**72施設**)。採用想定人数の合計は**72人**で、予定している入学定員数を大きく上回っている。

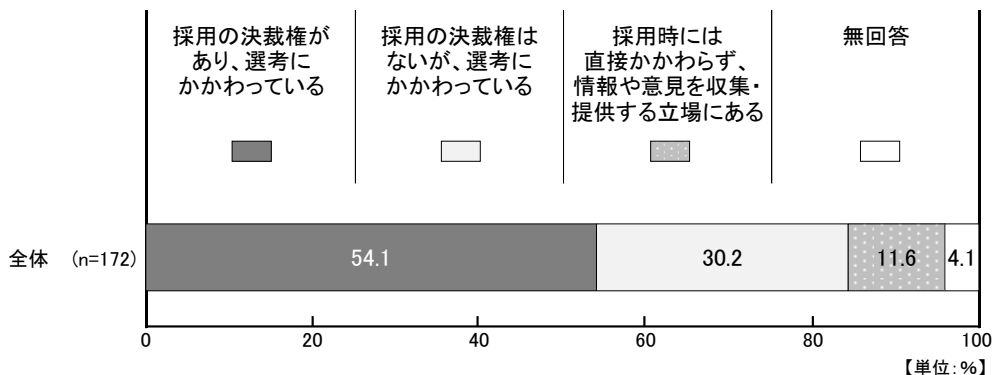
## 医療施設対象 調査結果



# 回答施設(回答者)の属性(人事採用への関与度/本社所在地)

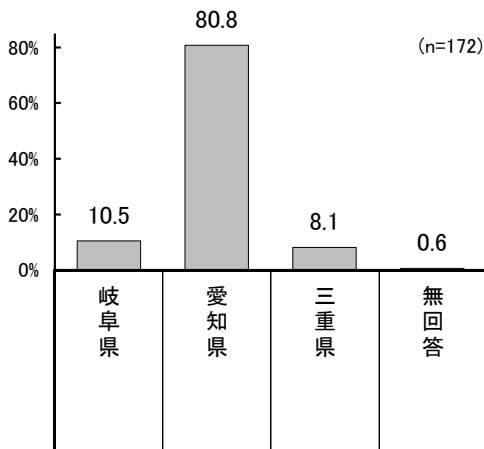
## ■人事採用への関与度

Q1. アンケートにお答えいただいている方の、人事採用への関与度をお教えてください。(あてはまる番号1つに○)



## ■本社所在地

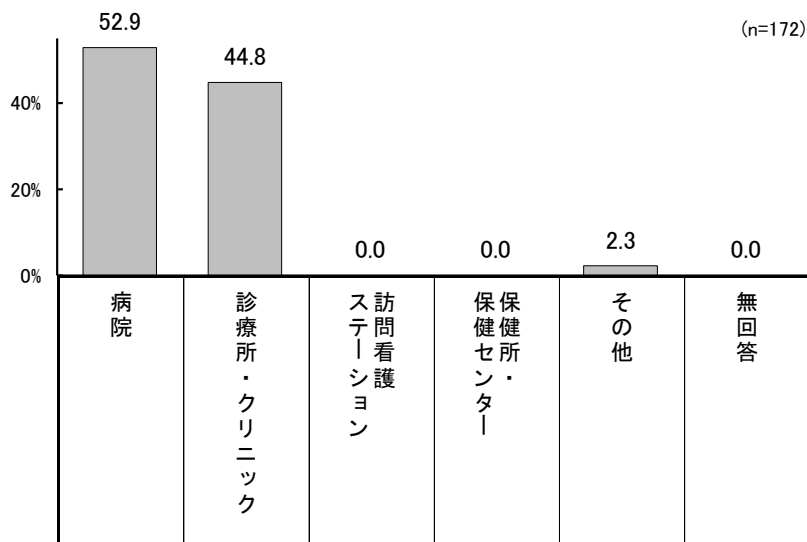
Q2. 貴院・貴団体の所在地について、都道府県名をお教えてください。



# 回答施設(回答者)の属性(業種/従業員数)

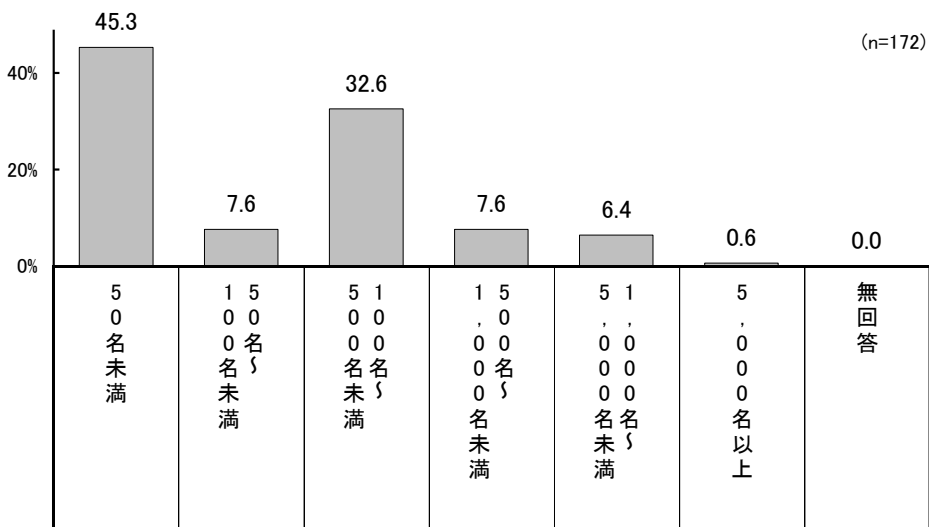
## ■業種

Q3. 貴院・貴団体の業種について、ご回答ください。(あてはまる番号1つに○)



## ■従業員数

Q4. 貴院・貴団体の従業員数(正規職員・社員)について、ご回答ください。(あてはまる番号1つに○)



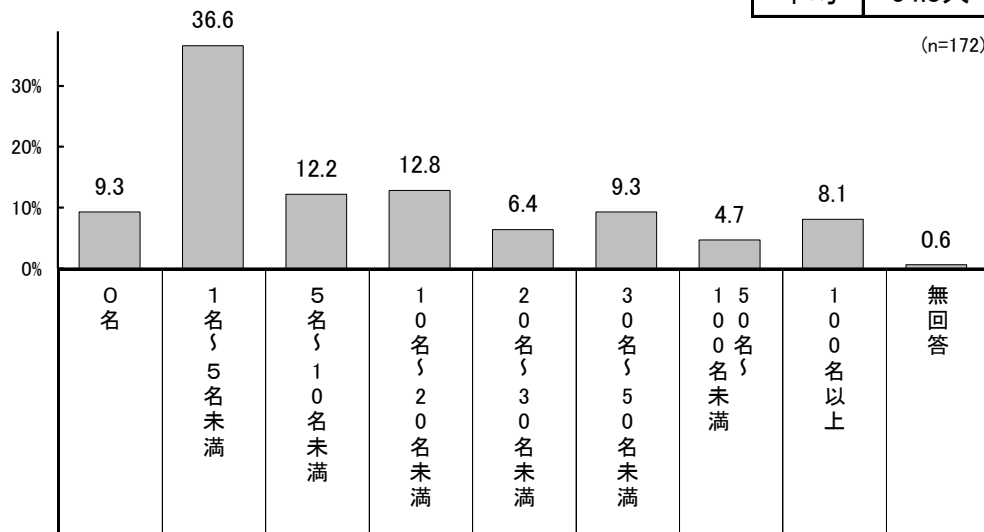
# 正規職員・社員の平均採用人数／本年度の採用予定数

## ■正規職員・社員の平均採用人数

Q5. 貴院・貴団体の過去3か年の平均的な正規職員・社員の採用数について、お教えてください。

総数	5,953人
平均	34.8人

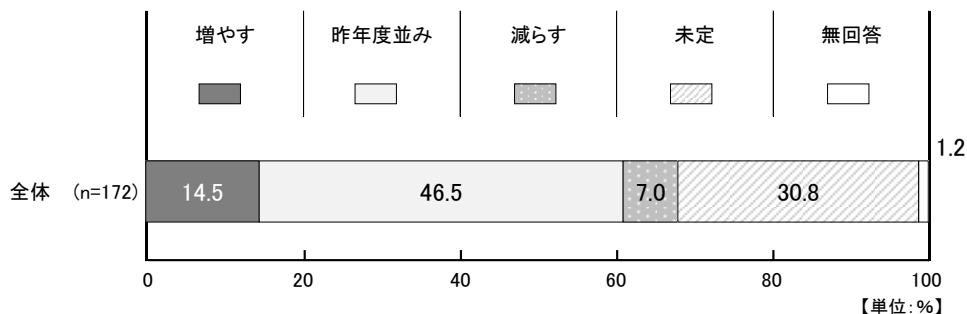
(n=172)



※総数は、平均的な正規職員・社員採用人数の合計値

## ■本年度の採用予定数

Q6. 貴院・貴団体の本年度の採用予定数は、昨年度と比較していかがですか。(あてはまる番号1つに○)

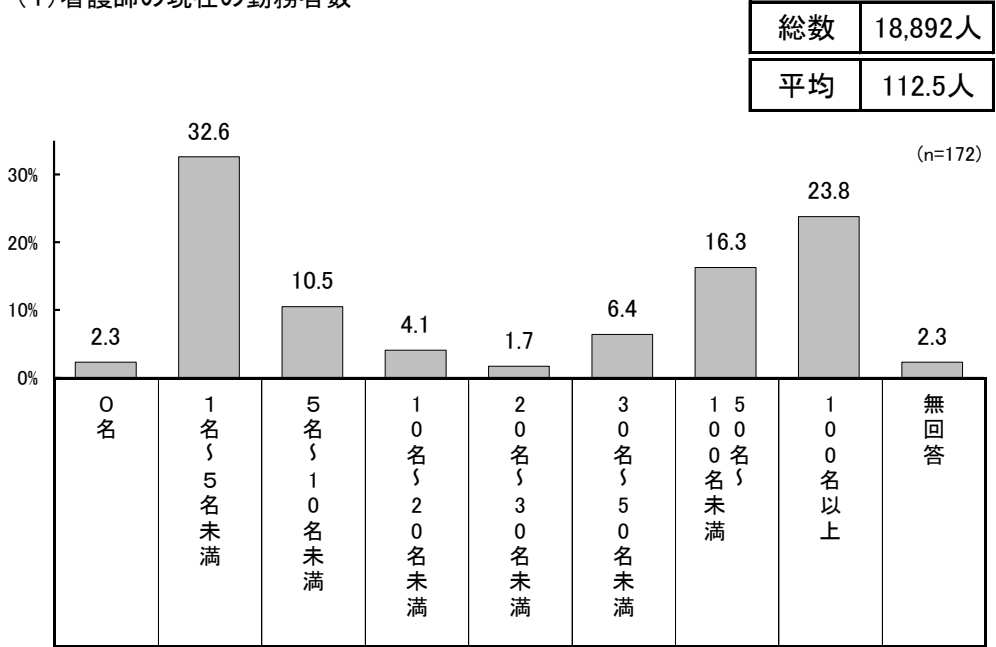


# 看護師・保健師・薬剤師の勤務者数・採用希望人数

## ■看護師・保健師・薬剤師の勤務者数・採用希望人数

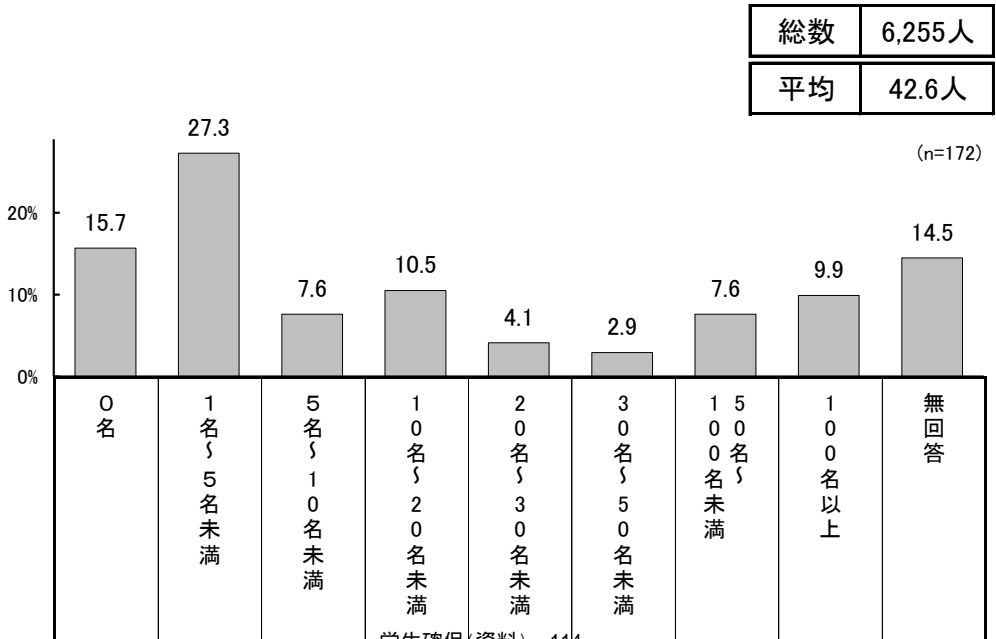
Q7. 貴院・貴団体に、(1)～(3)現在、看護師・保健師・薬剤師として勤務されている方の人数、  
 (4)～(6)今後5年間で看護師・保健師・薬剤師として新たに採用したいと思う人数を、それぞれ教えてください。  
 (それぞれ、[ ]内に人数を記入)

### (1)看護師の現在の勤務者数



※総数は、現在の勤務者数の合計値

### (4)看護師の今後5年間の採用希望人数



※総数は、今後5年間の採用希望人数の合計値

# 看護師・保健師・薬剤師の勤務者数・採用希望人数

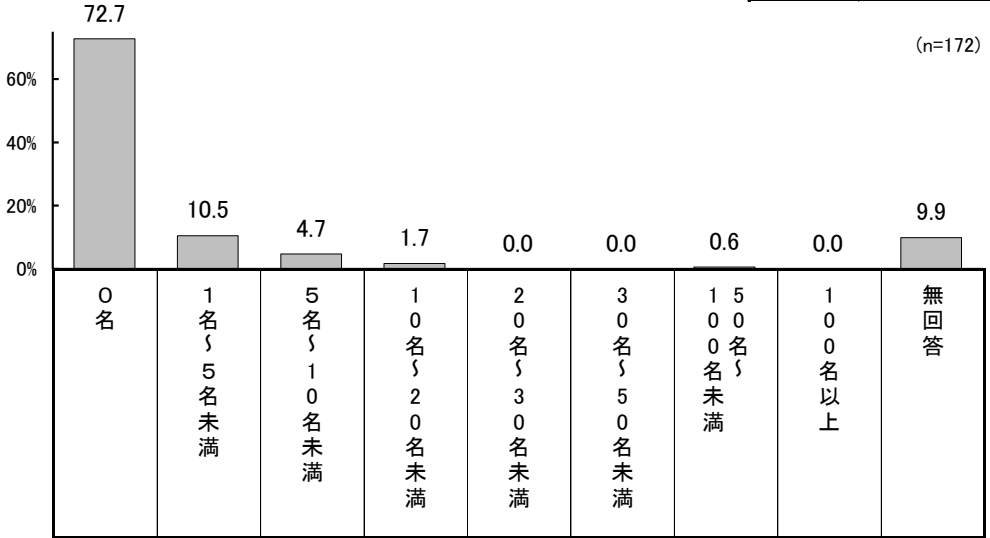
## ■看護師・保健師・薬剤師の勤務者数・採用希望人数

Q7. 貴院・貴団体に、(1)～(3)現在、看護師・保健師・薬剤師として勤務されている方の人数、  
 (4)～(6)今後5年間で看護師・保健師・薬剤師として新たに採用したいと思う人数を、それぞれ教えてください。  
 (それぞれ、[ ]内に人数を記入)

### (2) 保健師の現在の勤務者数

総数	189人
平均	1.2人

(n=172)

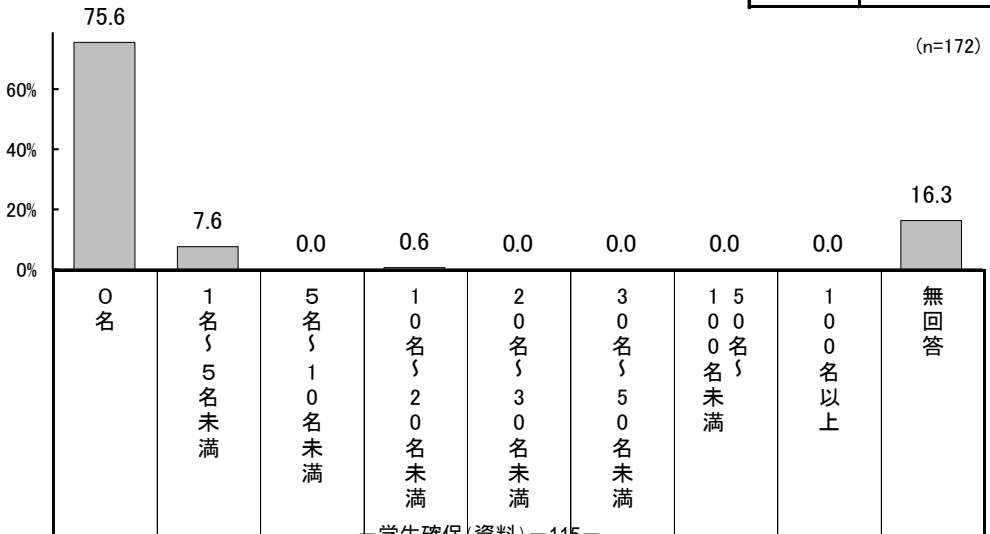


※総数は、現在の勤務者数の合計値

### (5) 保健師の今後5年間の採用希望人数

総数	29人
平均	0.2人

(n=172)



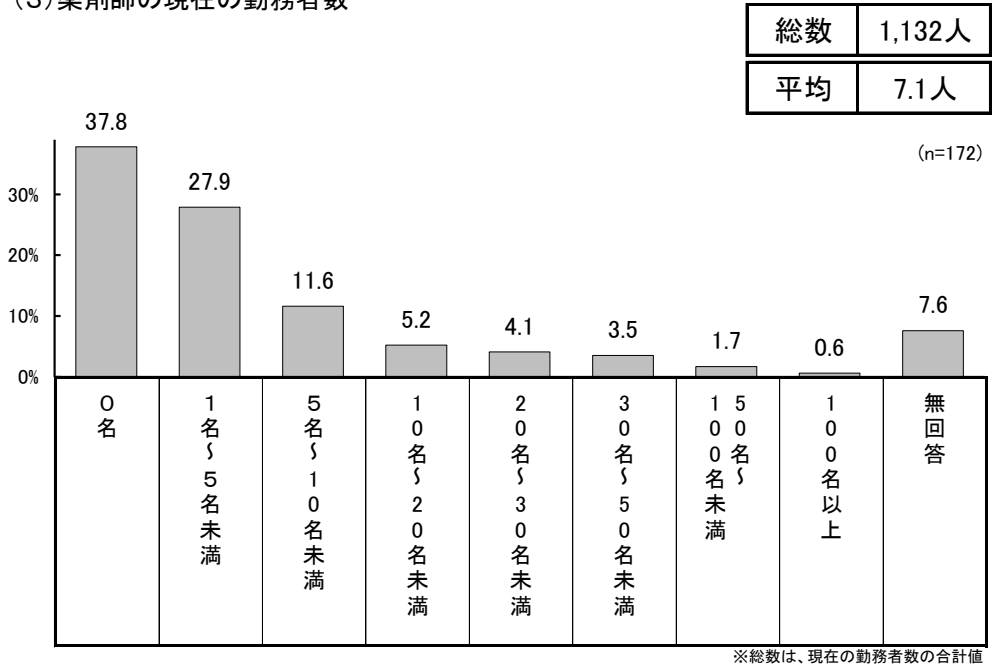
※総数は、今後5年間の採用希望人数の合計値

# 看護師・保健師・薬剤師の勤務者数・採用希望人数

## ■看護師・保健師・薬剤師の勤務者数・採用希望人数

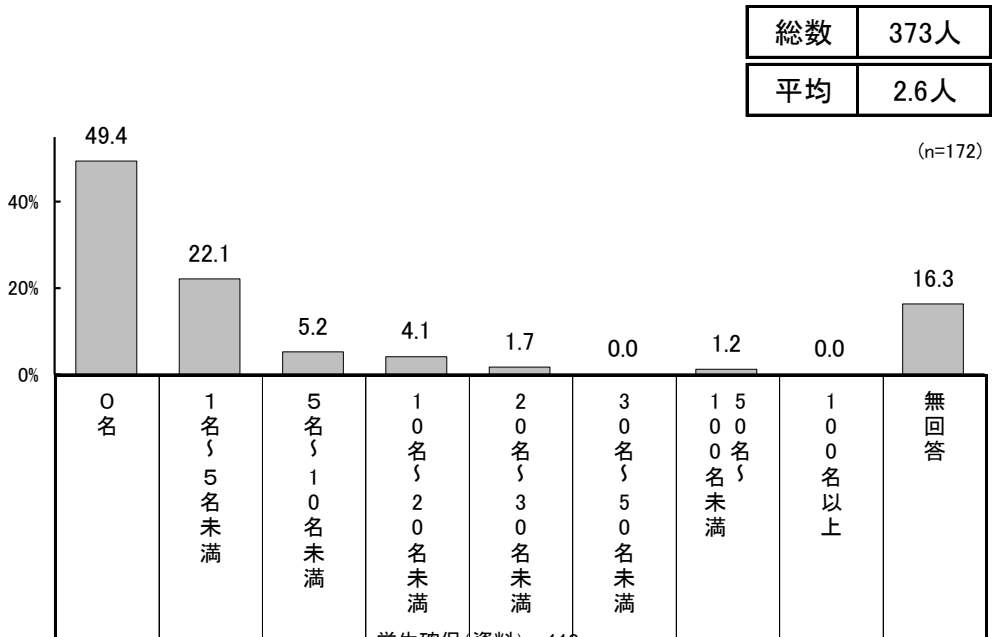
Q7. 貴院・貴団体に、(1)～(3)現在、看護師・保健師・薬剤師として勤務されている方の人数、  
 (4)～(6)今後5年間で看護師・保健師・薬剤師として新たに採用したいと思う人数を、それぞれ教えてください。  
 (それぞれ、[ ]内に人数を記入)

### (3) 薬剤師の現在の勤務者数



※総数は、現在の勤務者数の合計値

### (6) 薬剤師の今後5年間の採用希望人数



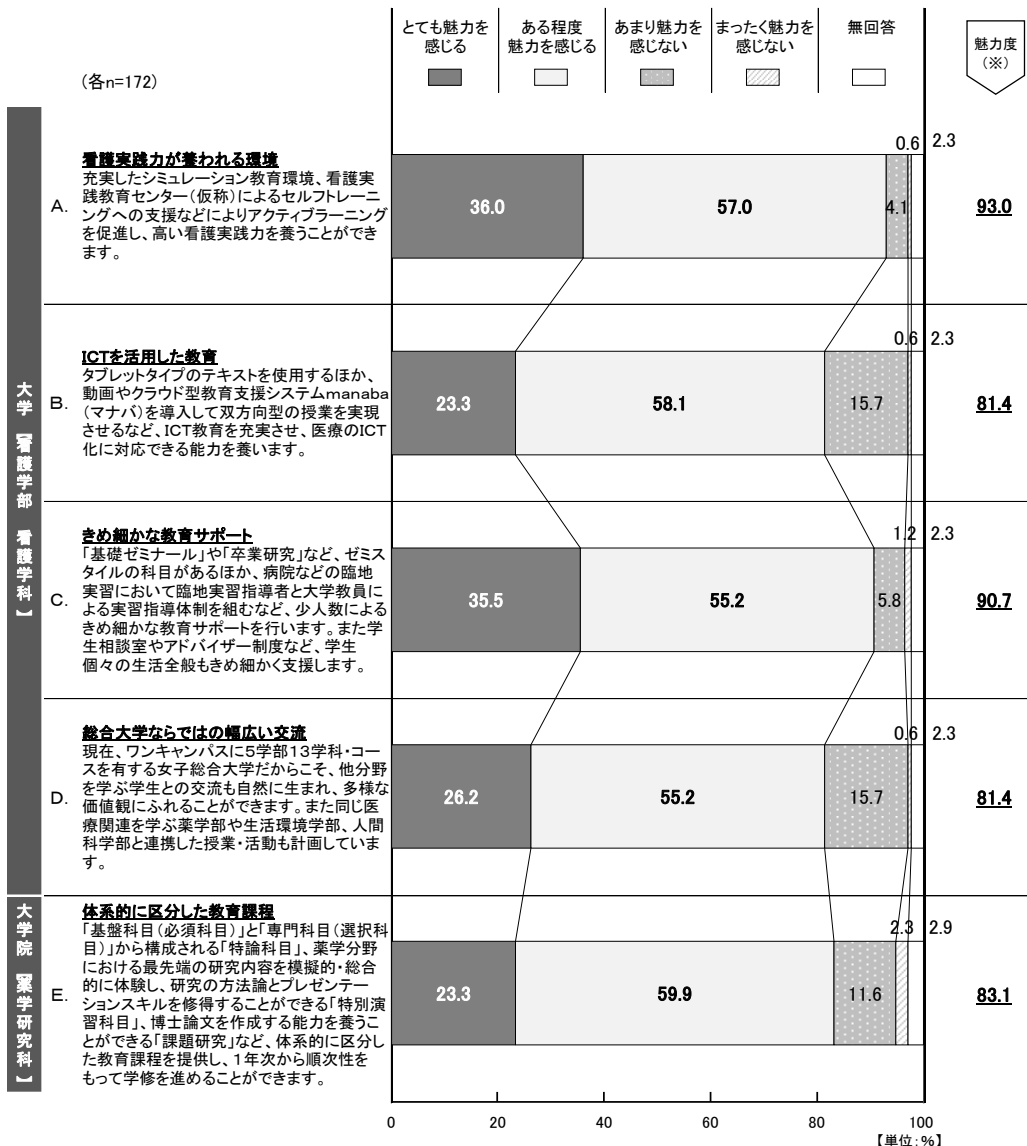
※総数は、今後5年間の採用希望人数の合計値



# 金城学院大学の各学部・学科および研究科の特色に対する魅力度

## ■金城学院大学の各学部・学科および研究科の特色に対する魅力度

Q8. 金城学院大学の「看護学部 看護学科」(仮称、設置構想中)、金城学院大学大学院の「薬学研究科 医療薬学専攻(博士課程)」(仮称、設置構想中)には以下の特色があります。貴院・貴団体(ご回答者)にとって、これらの特色はそれぞれの程度魅力に感じますか。(それぞれ、あてはまる番号1つに○)



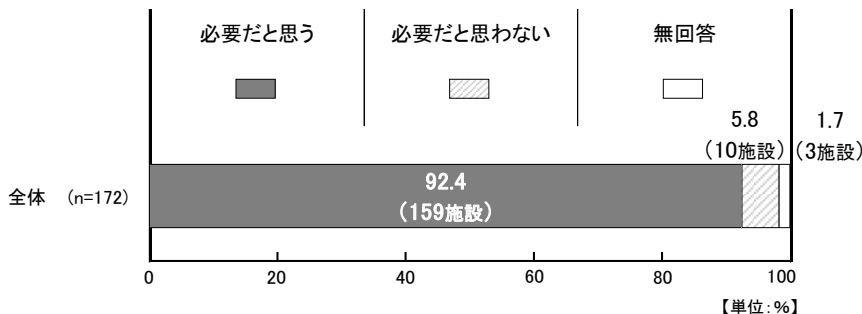
※魅力度=「とても魅力を感じる」「ある程度魅力を感じる」と回答した人の合計値

※魅力度は、人数をもとに%を算出し、小数点第二位を四捨五入しているため、「とても魅力を感じる」と「ある程度魅力を感じる」の合計値と必ずしも一致しない

# 金城学院大学「看護学部 看護学科(看護師資格所有者)」の社会的必要性／卒業生に対する採用意向／卒業生の毎年の採用想定人数

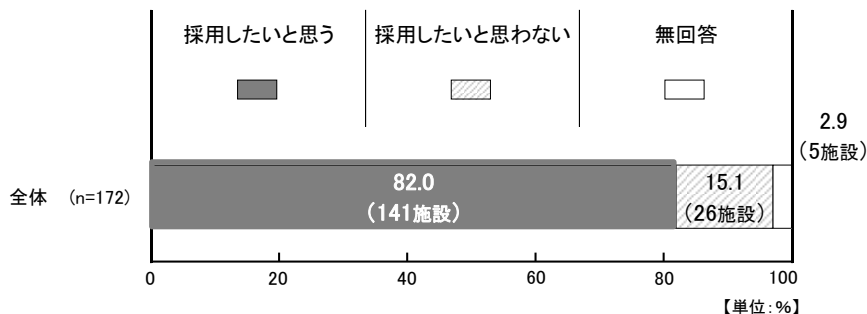
## ■金城学院大学「看護学部 看護学科」の社会的必要性

Q9. 貴院・貴団体(ご回答者)は、金城学院大学の下記の学部・学科および研究科は、これからの社会にとって必要だと思いますか。(あてはまる番号1つに○)



## ■金城学院大学「看護学部 看護学科(看護師資格所有者)」卒業生に対する採用意向

Q10. 貴院・貴団体(ご回答者)では、金城学院大学の下記の学部・学科および研究科を卒業・修了した学生について、採用したいと思われませんか。(あてはまる番号1つに○)※看護師として採用



「採用したいと思う」と答えた141施設のみ抽出

## ■金城学院大学「看護学部 看護学科(看護師資格所有者)」卒業生の毎年の採用想定人数

Q11. Q10でいずれかの学部・学科、研究科の卒業生を「1. 採用したいと思う」と回答された方におたずねします。「1. 採用したいと思う」と回答された学部・学科および研究科を卒業・修了した学生について、採用を考える場合、毎年何名程度の採用を想定されますか。(あてはまる番号1つに○)※看護師として採用

標本数	単位	1名	2名	3名	4名	5名 ～ 9名	10名 以上	計 (※ よしの びたの 採用 施設 採用 想定 人数 ・ 計 人数 を )
		全体	141	% 47.5%	13.5%	15.6%	1.4%	
		施設数 67	19	22	2	12	6	
		名 67	38	66	8	60	60	

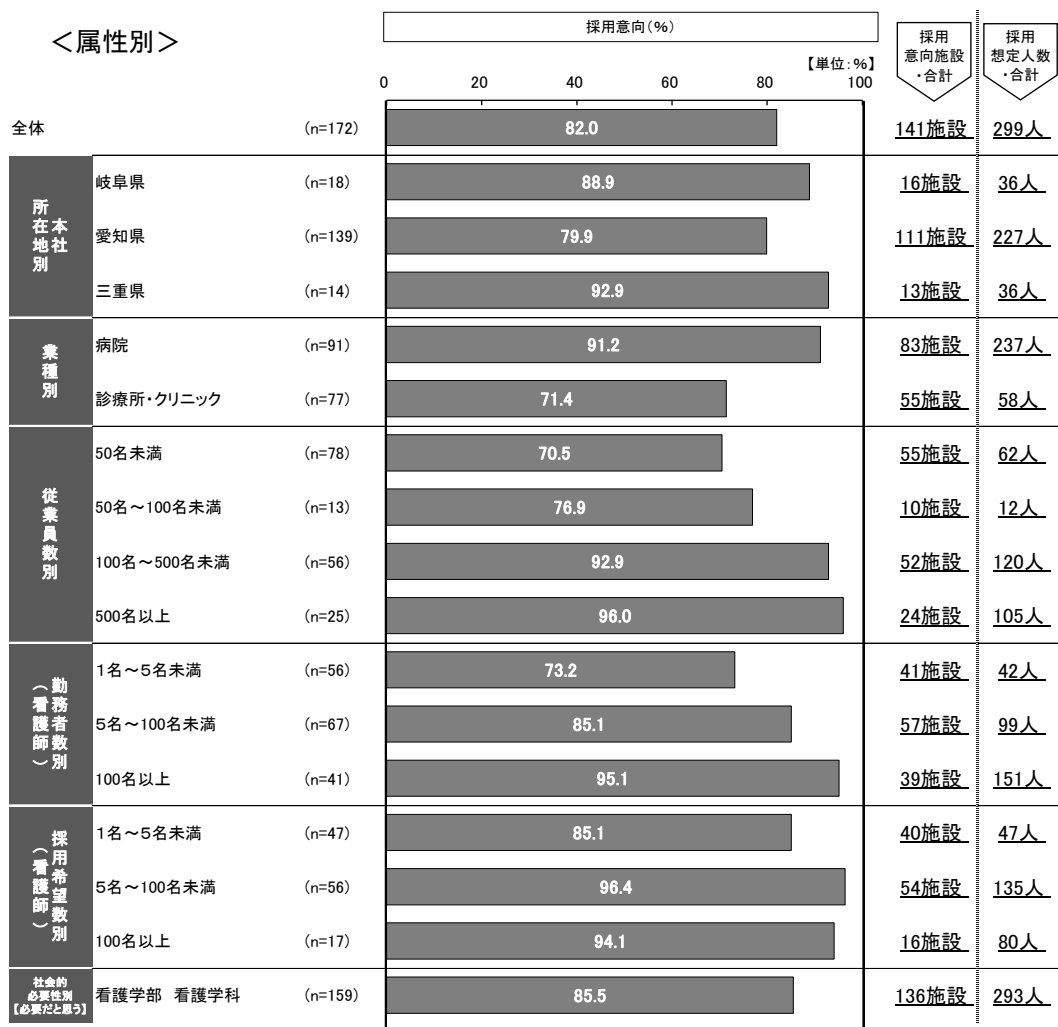
＝学生確保(資料)＝118＝

※ 毎年の採用想定人数・計 「5名～9名」=5名、「10名以上」=10名 を代入し合計値を算出

# 金城学院大学「看護学部 看護学科(看護師資格所有者)」 卒業生に対する採用意向／採用想定人数<属性別>

## ■金城学院大学「看護学部 看護学科(看護師資格所有者)」卒業生に対する 採用意向／採用想定人数<属性別>

※金城学院大学「看護学部 看護学科(看護師資格所有者)」に対して、  
Q10で「採用したいと思う」(※看護師として採用)と回答した施設を【採用意向施設】と定義し、さらに【採用意向施設】のうち、Q11で具体的な人数を回答した施設の採用想定人数の合計を【採用想定人数】と定義する。

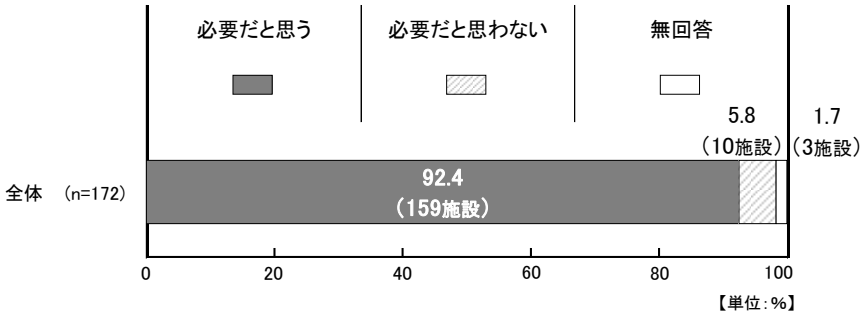


※ 採用想定人数・合計 「5名～9名」=5名、「10名以上」=10名 を代入し合計値を算出

# 金城学院大学「看護学部 看護学科(保健師資格所有者)」の社会的必要性／卒業生に対する採用意向／卒業生の毎年の採用想定人数

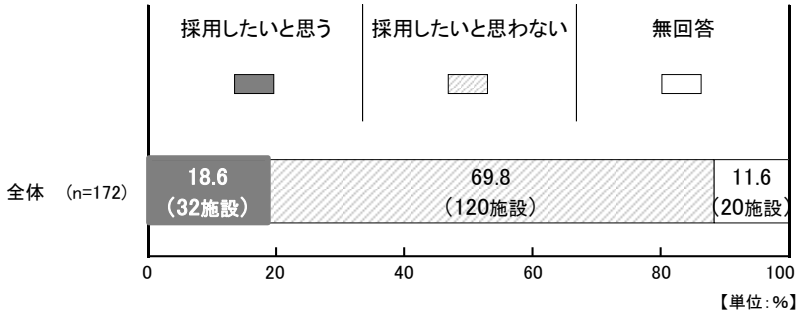
## ■金城学院大学「看護学部 看護学科」の社会的必要性

Q9. 貴院・貴団体(ご回答者)は、金城学院大学の下記の学部・学科および研究科は、これからの社会にとって必要だと思われませんか。(あてはまる番号1つに○)



## ■金城学院大学「看護学部 看護学科(保健師資格所有者)」卒業生に対する採用意向

Q10. 貴院・貴団体(ご回答者)では、金城学院大学の下記の学部・学科および研究科を卒業・修了した学生について、採用したいと思われませんか。(あてはまる番号1つに○)※保健師として採用



「採用したいと思う」と答えた32施設のみ抽出

## ■金城学院大学「看護学部 看護学科(保健師資格所有者)」卒業生の毎年の採用想定人数

Q11. Q10でいずれかの学部・学科、研究科の卒業生を「1. 採用したいと思う」と回答された方におたずねします。

「1. 採用したいと思う」と回答された学部・学科および研究科を卒業・修了した学生について、採用を考える場合、毎年何名程度の採用を想定されますか。(あてはまる番号1つに○)※保健師として採用

標本数	単位	1名	2名	3名	4名	5名 ～ 9名	10名 以上	計 (※お示 よしの びたの 採 用 設 想 数 ・ 採 用 設 想 定 人 数 を 計 算 す )
		%	%	%	%	%	%	
全体		62.5%	3.1%	6.3%	0.0%	3.1%	0.0%	⇒ 24 33
	施設数	20	1	2	0	1	0	
	名	20	2	6	0	5	0	

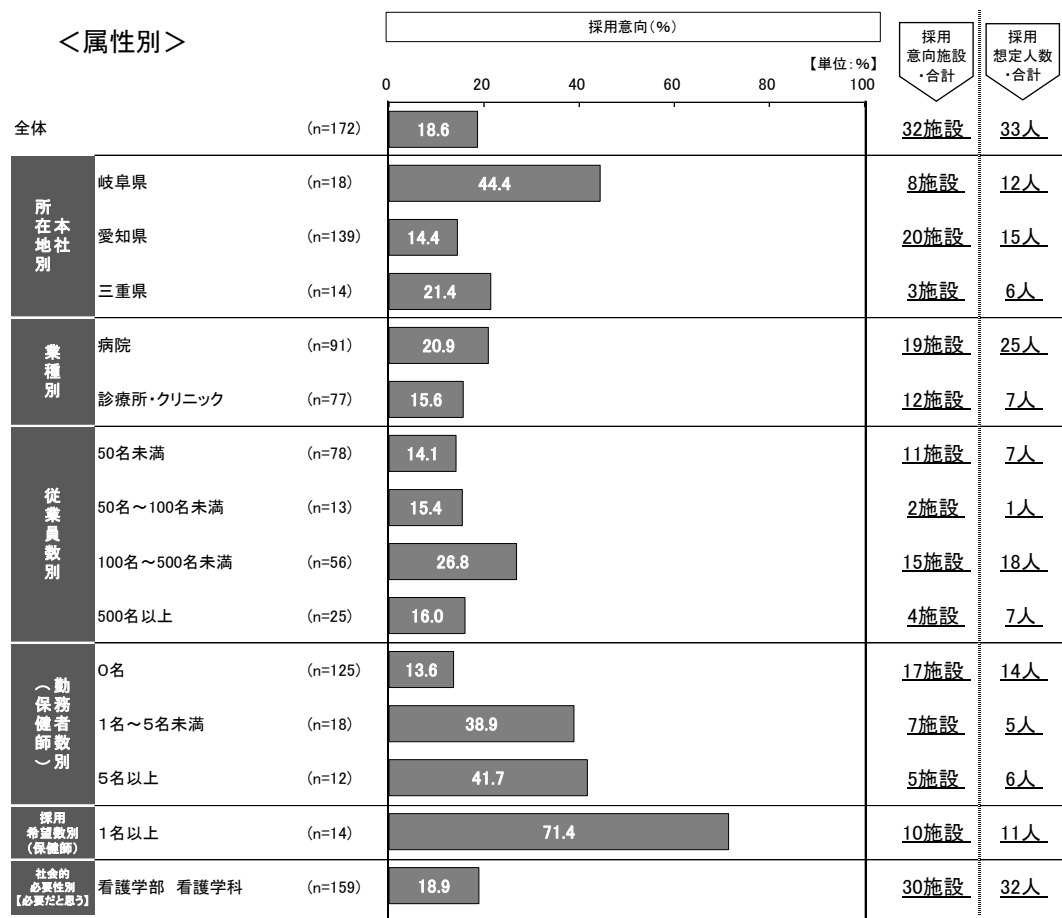
— 学生確保(資料) — 120 —

※ 毎年の採用想定人数・計 「5名～9名」=5名、「10名以上」=10名 を代入し合計値を算出

# 金城学院大学「看護学部 看護学科(保健師資格所有者)」 卒業生に対する採用意向／採用想定人数<属性別>

## ■金城学院大学「看護学部 看護学科(保健師資格所有者)」卒業生に対する 採用意向／採用想定人数<属性別>

※金城学院大学「看護学部 看護学科(保健師資格所有者)」に対して、  
Q10で「採用したいと思う」(※保健師として採用)と回答した施設を【採用意向施設】と定義し、さらに【採用意向施設】のうち、Q11で具体的な人数を回答した施設の採用想定人数の合計を【採用想定人数】と定義する。

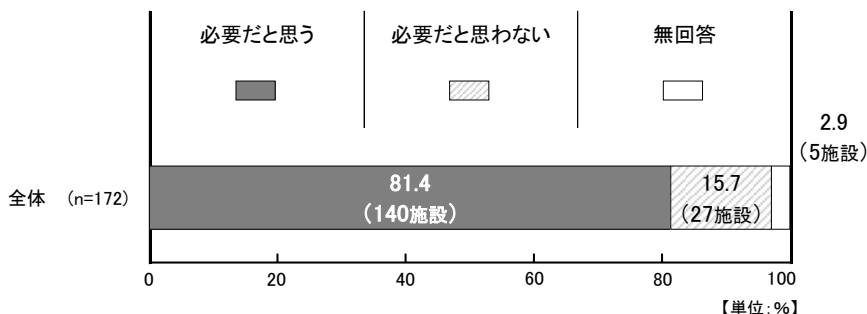


※ 採用想定人数・合計 「5名～9名」=5名、「10名以上」=10名 を代入し合計値を算出

# 金城学院大学大学院「薬学研究科 医療薬学専攻(博士課程)」の社会的必要性／修了生に対する採用意向／修了生の毎年の採用想定人数

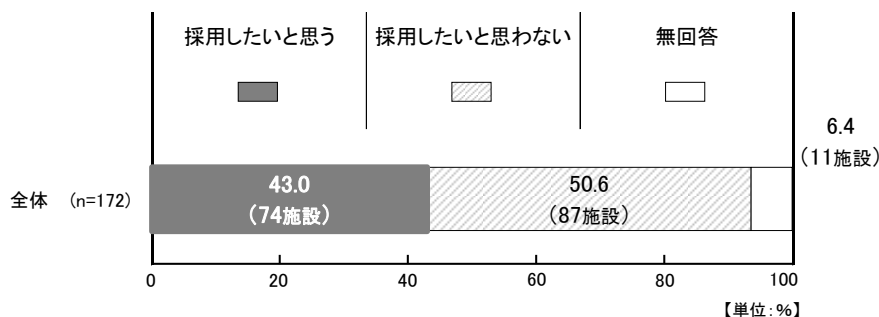
## ■金城学院大学大学院「薬学研究科 医療薬学専攻(博士課程)」の社会的必要性

Q9. 貴院・貴団体(ご回答者)は、金城学院大学の下記の学部・学科および研究科は、これからの社会にとって必要だと思いますか。(あてはまる番号1つに○)



## ■金城学院大学大学院「薬学研究科 医療薬学専攻(博士課程)」修了生に対する採用意向

Q10. 貴院・貴団体(ご回答者)では、金城学院大学の下記の学部・学科および研究科を卒業・修了した学生について、採用したいと思えますか。(あてはまる番号1つに○)※薬剤師として採用



「採用したいと思う」と答えた74施設のみ抽出

## ■金城学院大学大学院「薬学研究科 医療薬学専攻(博士課程)」修了生の毎年の採用想定人数

Q11. Q10でいずれかの学部・学科、研究科の卒業生を「1. 採用したいと思う」と回答された方におたずねします。

「1. 採用したいと思う」と回答された学部・学科および研究科を卒業・修了した学生について、採用を考える場合、毎年何名程度の採用を想定されますか。(あてはまる番号1つに○)※薬剤師として採用

標本数	単位	1名	2名	3名	4名	5名 ～ 9名	10名 以上	計 お示 よし (※ びた の採 用設 想定 人数 ・ を	
		%	%	%	%	%	%		
全体	74	%	66.2%	8.1%	4.1%	1.4%	0.0%	⇒	
		施設数	49	6	3	1	0		59
		名	49	12	9	4	0		74

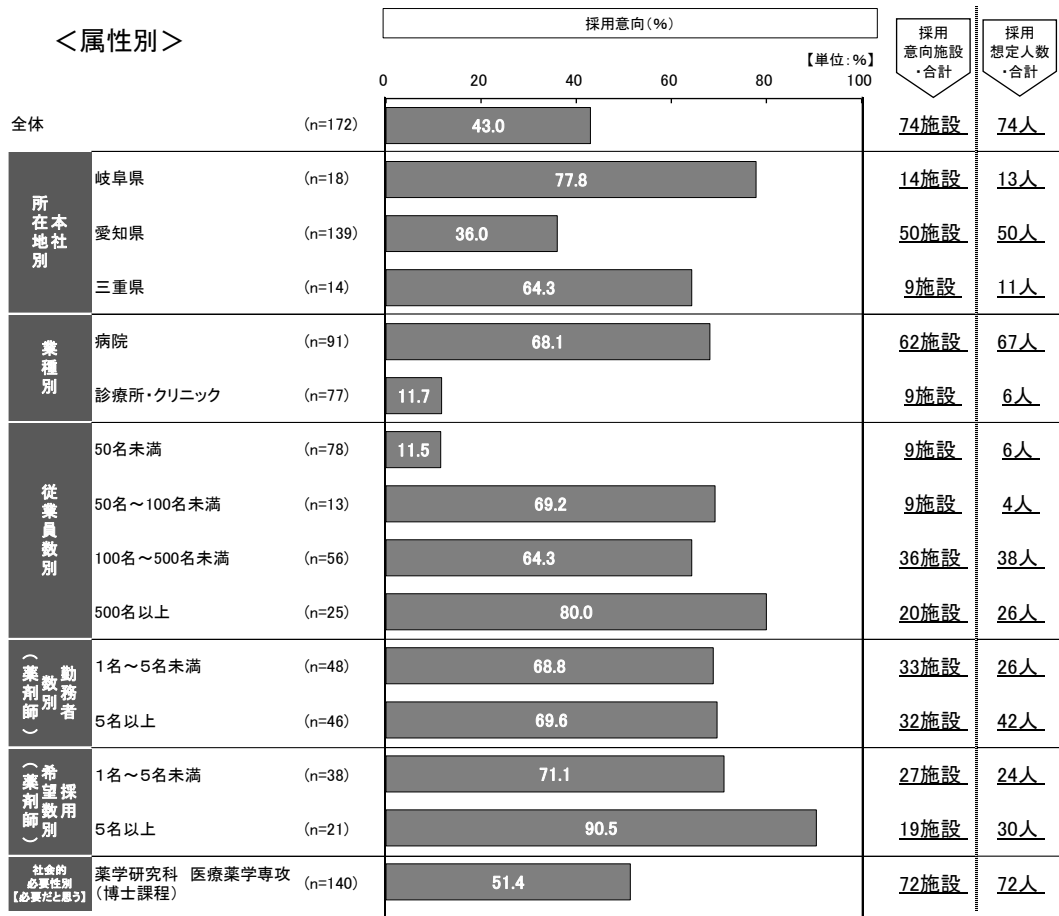
一学生確保(資料) - 122 -

※ 毎年の採用想定人数・計 「5名～9名」=5名、「10名以上」=10名 を代入し合計値を算出

# 金城学院大学大学院「薬学研究科 医療薬学専攻(博士課程)」 修了生に対する採用意向／採用想定人数<属性別>

## ■金城学院大学大学院「薬学研究科 医療薬学専攻(博士課程)」修了生に対する採用意向／採用想定人数<属性別>

※金城学院大学大学院「薬学研究科 医療薬学専攻(博士課程)」に対して、Q10で「採用したいと思う」(※薬剤師として採用)と回答した施設を【採用意向施設】と定義し、さらに【採用意向施設】のうち、Q11で具体的な人数を回答した施設の採用想定人数の合計を【採用想定人数】と定義する。



※ 採用想定人数・合計 「5名～9名」=5名、「10名以上」=10名 を代入し合計値を算出

## 卷末資料 調查票





# 調査票

看護師・薬剤師の採用ご担当者様

## 金城学院大学「看護学部 看護学科」(仮称、設置構想中) 金城学院大学大学院「薬学研究科 医療薬学専攻(博士課程)」 (仮称、設置構想中)に関するアンケート

2022年(令和4年)4月より、金城学院大学では「看護学部 看護学科」(仮称)を、金城学院大学大学院では「薬学研究科 医療薬学専攻(博士課程)」(仮称)を新設することを構想しています。  
このアンケートは採用ご担当者の皆様からご意見をお伺いし、より充実した大学や学部学科・研究科にするための参考資料とさせていただきます。このアンケートで得られた情報や回答内容は、上記の目的のための統計資料としてのみ活用し、個人を特定することは一切ありません。  
つきましては、ぜひアンケートへのご協力をお願いいたします。  
※このアンケートや同封した資料に記載されている内容に関する事項はすべて予定であり内容が変更になる可能性があります。

はじめに、貴院・貴団体についてお伺いいたします。

Q1. アンケートにお答えいただいている方の、人事採用への関与度をお教えてください。

(あてはまる番号1つに○)

1. 採用の決裁権があり、選考にかかわっている
2. 採用の決裁権はないが、選考にかかわっている
3. 採用時には直接かかわらず、情報や意見を収集・提供する立場にある

Q2. 貴院・貴団体の所在地について、都道府県名をお教えてください。

所在地

都・道・府・県 ←1つに○

Q3. 貴院・貴団体の業種について、ご回答ください。(あてはまる番号1つに○)

- |              |               |        |
|--------------|---------------|--------|
| 1. 病院        | 3. 訪問看護ステーション | 5. その他 |
| 2. 診療所・クリニック | 4. 保健所・保健センター |        |

Q4. 貴院・貴団体の従業員数(正規職員・社員)について、ご回答ください。(あてはまる番号1つに○)

- |               |                  |                    |
|---------------|------------------|--------------------|
| 1. 50名未満      | 3. 100名～500名未満   | 5. 1,000名～5,000名未満 |
| 2. 50名～100名未満 | 4. 500名～1,000名未満 | 6. 5,000名以上        |

Q5. 貴院・貴団体の過去3か年の平均的な正規職員・社員の採用数について、お教えてください。

過去3か年 平均

名程度

Q6. 貴院・貴団体の本年度の採用予定数は、昨年度と比較していかがですか。(あてはまる番号1つに○)

- |          |        |
|----------|--------|
| 1. 増やす   | 3. 減らす |
| 2. 昨年度並み | 4. 未定  |

→次ページに続く

# 調査票

- Q7. 貴院・貴団体で、(1)～(3)現在、**看護師・保健師・薬剤師**として勤務されている方の人数、  
 (4)～(6)今後5年間で**看護師・保健師・薬剤師**として新たに採用したいと思う人数を、それぞれ教えてください。  
 (それぞれ、[ ]内に人数を記入)

(1) <b>看護師</b> の現在の勤務者数	[ ]人	(4) <b>看護師</b> の今後5年間の採用希望人数	[ ]人
(2) <b>保健師</b> の現在の勤務者数	[ ]人	(5) <b>保健師</b> の今後5年間の採用希望人数	[ ]人
(3) <b>薬剤師</b> の現在の勤務者数	[ ]人	(6) <b>薬剤師</b> の今後5年間の採用希望人数	[ ]人

ここからは、金城学院大学「看護学部 看護学科」(仮称、設置構想中)、  
 金城学院大学大学院「薬学研究科 医療薬学専攻(博士課程)」(仮称、設置構想中)  
 についてお聞きます。

※ ここからは、アンケートに同封している資料をご覧いただいた上でお答えください ※

- Q8. 金城学院大学の「看護学部 看護学科」(仮称、設置構想中)、  
 金城学院大学大学院の「薬学研究科 医療薬学専攻(博士課程)」(仮称、設置構想中)  
 には以下の特色があります。貴院・貴団体(ご回答者)にとって、これらの特色は  
 それぞれどの程度魅力に感じますか。(それぞれ、あてはまる番号1つに○)

			とても魅力を感じる	ある程度魅力を感じる	あまり魅力を感じない	まったく魅力を感じない	
		→	1	②	3	4	
大学	看護学部 看護学科	A. <b>看護実践力が養われる環境</b> 充実したシミュレーション教育環境、看護実践教育センター(仮称)によるセルフトレーニングへの支援などによりアクティブラーニングを促進し、高い看護実践力を養うことができます。	→	1	2	3	4
		B. <b>ICTを活用した教育</b> タブレットタイプのテキストを使用するほか、動画やクラウド型教育支援システムmanaba(マナバ)を導入して双方向型の授業を実現させるなど、ICT教育を充実させ、医療のICT化に対応できる能力を養います。	→	1	2	3	4
		C. <b>きめ細かな教育サポート</b> 「基礎ゼミナール」や「卒業研究」など、ゼミスタイルの科目があるほか、病院などの臨地実習において臨地実習指導者と大学教員による実習指導体制を組むなど、少人数によるきめ細かな教育サポートを行います。また学生相談室やアドバイザー制度など、学生個々の生活全般もきめ細かく支援します。	→	1	2	3	4
		D. <b>総合大学ならではの幅広い交流</b> 現在、ワンキャンパスに5学部13学科・コースを有する女子総合大学だからこそ、他分野を学ぶ学生との交流も自然に生まれ、多様な価値観にふれることができます。また同じ医療関連を学ぶ薬学部や生活環境学部、人間科学部と連携した授業・活動も計画しています。	→	1	2	3	4
大学院	薬学研究科	E. <b>体系的に区分した教育課程</b> 「基礎科目(必須科目)」と「専門科目(選択科目)」から構成される「特論科目」、薬学分野における最先端の研究内容を模範的・総合的に体験し、研究の方法論とプレゼンテーションスキルを修得することができる「特別演習科目」、博士論文を作成する能力を養うことができる「課題研究」など、体系的に区分した教育課程を提供し、1年次から順次性をもって学修を進めることができます。	→	1	2	3	4

# 調査票

Q9. 貴院・貴団体(ご回答者)は、金城学院大学の下記の学部・学科および研究科は、これからの社会にとって必要だと思われますか。(あてはまる番号1つに○)

			必要だと思う	必要だと思わない
大学	看護学部 看護学科	→	1	2
大学院	薬学研究科 医療薬学専攻(博士課程)	→	1	2

Q10. 貴院・貴団体(ご回答者)では、金城学院大学の下記の学部・学科および研究科を卒業・修了した学生について、採用したいと思われますか。(あてはまる番号1つに○)

			採用したいと思う	採用したいと思わない
大学	看護学部 看護学科(看護師資格所有者) ※看護師として採用	→	1	2
	看護学部 看護学科(保健師資格所有者) ※保健師として採用	→	1	2
大学院	薬学研究科 医療薬学専攻(博士課程) ※薬剤師として採用	→	1	2

Q11. Q10でいずれかの学部・学科、研究科の卒業生を「1. 採用したいと思う」と回答された方におたずねします。「1. 採用したいと思う」と回答された学部・学科および研究科を卒業・修了した学生について、採用を考える場合、毎年何名程度の採用を想定されますか。(あてはまる番号1つに○)

			1名	2名	3名	4名	5名 ～9名	10名 以上
大学	看護学部 看護学科(看護師資格所有者) ※看護師として採用	→	1	2	3	4	5	6
	看護学部 看護学科(保健師資格所有者) ※保健師として採用	→	1	2	3	4	5	6
大学院	薬学研究科 医療薬学専攻(博士課程) ※薬剤師として採用	→	1	2	3	4	5	6

～質問は以上です。ご協力ありがとうございました。～

---

---

金城学院大学大学院  
「薬学研究科 薬学専攻(博士課程)」  
(仮称)  
設置に関するニーズ調査  
結果報告書  
【医療施設対象調査】

---

---

令和3年6月  
株式会社 進研アド  
—学生確保(資料)—128—

# 医療施設対象 調査概要

## 1. 調査目的

2022年4月開設予定の金城学院大学大学院「薬学研究科 薬学専攻(博士課程)」新設構想に関して、医療施設のニーズを把握する。

## 2. 調査概要

		医療施設対象調査
調査対象		医療施設の採用担当者
調査エリア		愛知県、三重県
調査方法		郵送調査
調査対象数	依頼数	154施設
	回収数(回収率)	10施設(6.5%)
調査時期		2021年6月7日(月)～2021年6月13日(日)
調査実施機関		株式会社 進研アド

## 3. 調査項目

医療施設対象調査
<ul style="list-style-type: none"><li>・人事採用への関与度</li><li>・所在地</li><li>・従業員数</li><li>・正規職員・社員の平均採用人数</li><li>・本年度の採用予定数</li><li>・薬剤師の勤務者数・採用希望人数</li><li>・金城学院大学大学院「薬学研究科 薬学専攻(博士課程)」の特色に対する魅力度</li><li>・金城学院大学大学院「薬学研究科 薬学専攻(博士課程)」の社会的必要性</li><li>・金城学院大学大学院「薬学研究科 薬学専攻(博士課程)」修了生に対する採用意向</li><li>・金城学院大学大学院「薬学研究科 薬学専攻(博士課程)」修了生の毎年の採用想定人数</li></ul>

## 医療施設対象 調査結果まとめ



# 医療施設対象 調査結果まとめ

## 回答施設(回答者)の属性

※本調査は、金城学院大学大学院「薬学研究科 薬学専攻(博士課程)」に対する人材需要を確認するための調査として設計。金城学院大学大学院「薬学研究科 薬学専攻(博士課程)」の修了生就職先として想定される医療施設の人事関連業務に携わっている人を対象に調査を実施し、10施設から回答を得た。

- 回答者の人事採用への関与度を聞いたところ、「採用の決裁権があり、選考にかかわっている」「採用の決裁権はないが、選考にかかわっている」人が同率で40.0%と、採用や選考にかかわる人事担当者からの意見を聴取できていると考えられる。
- 回答施設の所在地は、金城学院大学大学院の所在地である「愛知県」が70.0%を占める。次いで「三重県」が30.0%である。
- 回答施設の従業員数は、「100名～500名未満」が40.0%で最も多い。次いで「1,000名～5,000名未満」が30.0%、「500名～1,000名未満」が20.0%である。
- 回答施設の平均的な正規職員・社員の採用人数は、「10名～20名未満」が30.0%で最も多い。次いで「1名～5名未満」「50名～100名未満」が同率で20.0%である。
- 回答施設の本年度の採用予定数は、「昨年度並み」が60.0%で最も多い。「増やす」「減らす」は同率で10.0%である。採用予定数が「未定」という施設も一定数みられるものの、回答施設の多くは昨年と同等程度の採用が予定されている様子である。

# 医療施設対象 調査結果まとめ

## 薬剤師の勤務者数・採用希望人数

- 薬剤師の現在の勤務者数は、「1名～5名未満」が30.0%で最も多い。次いで「10名～20名未満」「30名～50名未満」が同率で20.0%である。総数は201人で、平均は20.1人である。
- 薬剤師の今後5年間の採用希望人数は、「1名～5名未満」が40.0%で最も多い。次いで「10名～20名未満」が20.0%、「0名」「20名～30名未満」が同率で10.0%である。総数は49人で、平均は6.1人である。

## 金城学院大学大学院「薬学研究科 薬学専攻(博士課程)」の特色に対する魅力度

- 金城学院大学大学院「薬学研究科 薬学専攻(博士課程)」の特色である、「A. **体系的に区分した教育課程** 『必修科目』と目的に応じて専門性の高度化を図ることのできる『選択必修科目』から構成される【特論科目】、薬学分野における最先端の研究内容を模擬的・総合的に体験し、研究の方法論とプレゼンテーションスキルを修得することができる【演習科目】、博士論文を作成する能力を養うことができる【課題研究】など、体系的に区分した教育課程を提供し、1年次から順次性をもって学修を進めることができます。」の魅力度は80.0%である。

※魅力度＝「とても魅力を感じる」「ある程度魅力を感じる」と回答した施設の合計値



# 医療施設対象 調査結果まとめ

## 金城学院大学大学院「薬学研究科 薬学専攻(博士課程)」の社会的必要性

- 金城学院大学大学院「薬学研究科 薬学専攻(博士課程)」の社会的必要性については、70.0% (**7施設**) が「必要だと思う」と回答しており、多くの施設からこれからの社会にとって必要な研究科・専攻であると評価されていることがうかがえる。

## 金城学院大学大学院「薬学研究科 薬学専攻(博士課程)」修了生に対する採用意向・毎年の採用想定人数

- 金城学院大学大学院「薬学研究科 薬学専攻(博士課程)」修了生を「採用したいと思う」(※薬剤師として採用)と答えた施設は、70.0% (**7施設**) である。
- 金城学院大学大学院「薬学研究科 薬学専攻(博士課程)」の修了生を「採用したいと思う」と答えた7施設へ金城学院大学大学院「薬学研究科 薬学専攻(博士課程)」修了生の採用(※薬剤師として採用)を毎年何名程度想定しているか聞いたところ、採用想定人数の合計は**7名**で、予定している入学定員数2名を3倍以上上回っている。このことから、安定した人材需要があることがうかがえる。

## 医療施設対象 調査結果



# 回答施設(回答者)の属性

## (人事採用への関与度/所在地/従業員数)

### ■回答施設の属性

Q1. はじめに、貴院・貴団体についてお教えてください。

#### ◆人事採用への関与度

	標本数	単位	採用にかかわっている 採用の決定権がある、選	採用にかかわっていないが、 採用の決定権は持っている	意見収集・提供 立場がある	採用時には直接 かわらず、情報や 意見を収集する	無回答
全体	10	%	40.0	40.0	20.0	0.0	
		施設	4	4	2	0	

#### ◆所在地

	標本数	単位	愛知県	三重県	無回答
全体	10	%	70.0	30.0	0.0
		施設	7	3	0

#### ◆従業員数

	標本数	単位	50名未満	50名～100名未満	100名～500名未満	500名～1,000名未満	1,000名～5,000名未満	5,000名以上	無回答
全体	10	%	0.0	10.0	40.0	20.0	30.0	0.0	0.0
		施設	0	1	4	2	3	0	0

# 回答施設(回答者)の属性

(正規職員・社員の平均採用人数／本年度の採用予定数)

## ■回答施設の属性

Q1. はじめに、貴院・貴団体についてお教えてください。

### ◆正規職員・社員の平均採用人数

	標本数	単位	0名	1名～5名未満	5名～10名未満	10名～20名未満	20名～30名未満	30名～50名未満	50名～100名未満	100名以上	無回答	平均〔名〕	合計〔名〕
全体	10	%	0.0	20.0	0.0	30.0	10.0	0.0	20.0	10.0	10.0	39.6	356
		施設	0	2	0	3	1	0	2	1	1		

### ◆本年度の採用予定数

	標本数	単位	増やす	昨年度並み	減らす	未定	無回答
全体	10	%	10.0	60.0	10.0	20.0	0.0
		施設	1	6	1	2	0

# 薬剤師の勤務者数・採用希望人数

## ■薬剤師の勤務者数・採用希望人数

Q2. 貴院・貴団体で、(1)現在、**薬剤師として勤務されている方**の人数、(2)今後5年間で**薬剤師として新たに採用したいと思う人数**を、それぞれお教えてください。(それぞれ、[ ]内に人数を記入)

### ◆現在の勤務者数

	標本数	単位	0名	1名～5名未満	5名～10名未満	10名～20名未満	20名～30名未満	30名～50名未満	50名～100名未満	100名以上	無回答	平均〔名〕	合計〔名〕
全体	10	%	0.0	30.0	10.0	20.0	10.0	20.0	10.0	0.0	0.0	20.1	201
		施設	0	3	1	2	1	2	1	0	0		

### ◆今後5年間の採用希望人数

	標本数	単位	0名	1名～5名未満	5名～10名未満	10名～20名未満	20名～30名未満	30名～50名未満	50名～100名未満	100名以上	無回答	平均〔名〕	合計〔名〕
全体	10	%	10.0	40.0	0.0	20.0	10.0	0.0	0.0	0.0	20.0	6.1	49
		施設	1	4	0	2	1	0	0	0	2		

# 金城学院大学大学院「薬学研究科 薬学専攻 (博士課程)」の特色に対する魅力度

## ■金城学院大学大学院「薬学研究科 薬学専攻(博士課程)」の特色に対する魅力度

Q3. 金城学院大学大学院「薬学研究科 薬学専攻(博士課程)」(仮称、設置認可申請中)には、以下のような特色があります。貴院・貴団体(ご回答者)にとって、この特色はどの程度魅力に感じますか。(あてはまる番号1つに○)

### A. 体系的に区分した教育課程

「必修科目」と目的に応じて専門性の高度化を図ることのできる「選択必修科目」から構成される【特論科目】、薬学分野における最先端の研究内容を模擬的・総合的に体験し、研究の方法論とプレゼンテーションスキルを修得することができる【演習科目】、博士論文を作成する能力を養うことができる【課題研究】など、体系的に区分した教育課程を提供し、1年次から順次性をもって学修を進めることができます。

	標本数	単位	とても魅力を感じる	ある程度魅力を感じる	あまり魅力を感じない	まったく魅力を感じない	無回答	魅力度
全体	10	%	10.0	70.0	20.0	0.0	0.0	80.0
		施設	1	7	2	0	0	8

※魅力度＝「とても魅力を感じる」「ある程度魅力を感じる」と回答した施設の合計値

※魅力度は、人数をもとに%を算出し、小数点第二位を四捨五入しているため、「とても魅力を感じる」と「ある程度魅力を感じる」の合計値と必ずしも一致しない

# 金城学院大学大学院「薬学研究科 薬学専攻(博士課程)」の社会的必要性／修了生に対する採用意向／修了生の毎年の採用想定人数

## ■金城学院大学大学院「薬学研究科 薬学専攻(博士課程)」の社会的必要性

Q4. 貴院・貴団体(ご回答者)は、金城学院大学大学院「薬学研究科 薬学専攻(博士課程)」(仮称、設置認可申請中)は、これからの社会にとって必要だと思われませんか。(あてはまる番号1つに○)

	標本数	単位	必要だと思う	必要だと思わない	無回答
全体	10	%	70.0	20.0	10.0
		施設	7	2	1

## ■金城学院大学大学院「薬学研究科 薬学専攻(博士課程)」修了生に対する採用意向

Q5. 貴院・貴団体(ご回答者)では、金城学院大学大学院「薬学研究科 薬学専攻(博士課程)」(仮称、設置認可申請中)を修了した学生について、薬剤師として採用したいと思われませんか。(あてはまる番号1つに○)

	標本数	単位	採用したいと思う	採用したいと思わない	無回答
全体	10	%	70.0	20.0	10.0
		施設	7	2	1



「採用したいと思う」と答えた7施設のみ抽出

## ■金城学院大学大学院「薬学研究科 薬学専攻(博士課程)」修了生の毎年の採用想定人数

Q6. Q5で「1. 採用したいと思う」と回答された方におたずねします。

採用を考える場合、金城学院大学大学院「薬学研究科 薬学専攻(博士課程)」(仮称、設置認可申請中)を、修了した学生について、薬剤師として毎年何名程度の採用を想定されますか。(あてはまる番号1つに○)

	標本数	単位	1名	2名	3名	4名	5名 ～ 9名	10名 以上	無回答	平均 [名]	合計 [名]
全体	7	%	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.0	7
		施設	7	0	0	0	0	0	0		

—学生確保(資料)—130—

※ 平均・合計「5名～9名」=5名、「10名以上」=10名を代入し値を算出

## 卷末資料 調查票





# 調査票

薬剤師の採用ご担当者様

金城学院大学大学院  
「薬学研究科 薬学専攻(博士課程)」(仮称、設置認可申請中)  
に関するアンケート調査

令和3年6月 金城学院大学

2022年(令和4年)4月より、金城学院大学大学院では「薬学研究科 薬学専攻(博士課程)」(仮称)を新設することを構想しています。  
このアンケートは採用ご担当者の皆様からご意見をお伺いし、構想中の「薬学研究科 薬学専攻(博士課程)」(仮称)の内容をより充実したものにするための参考とさせていただきたいと考えております。このアンケートで得られた情報や回答内容は、上記の目的のための統計資料としてのみ活用し、個人を特定することは一切ありません。  
つきましては、ぜひアンケートへのご協力をお願いいたします。

この調査についてご不明な点、ご質問などありましたらお手数ですが  
金城学院大学 総務部 置田・磯部(TEL052-798-0180)までご連絡ください。

※このアンケートや別紙に記載されている内容は予定であり、変更になる可能性があります。

このアンケート用紙の裏面に直接回答をご記入のうえ、  
【2021年6月13日(日)までにFAXでご返信ください】

ご返信先:FAX【052-798-4462】

※FAXにてご返信頂く際には裏面の回答ページのみをご送信頂きますよう、  
よろしくお願い申し上げます。

金城学院大学では、2022年(令和4年)4月に、  
新しく大学院「薬学研究科 薬学専攻(博士課程)」(仮称)  
を設置することを構想しています。

※別紙「金城学院大学大学院「薬学研究科 薬学専攻(博士課程)」  
設置計画の概要」をご覧ください。裏面の質問にお答えください。※

(裏面)回答ページへ



## 卷末資料 設置構想概要資料



# 設置構想概要資料

金城学院大学大学院「薬学研究科薬学専攻（博士課程）」（仮称）の設置計画の概要

1. 名称 薬学研究科薬学専攻（博士課程） 【仮称、設置認可申請中】

2. 開設予定時期 2022（令和4）年4月

3. 設置の理念、養成する人材像

現代医療において、高度な専門性や研究遂行能力を駆使して問題を解決する力が一層強く求められるようになってきています。このために、薬学領域に関する高度な専門知識を主体的に蓄積し理解を深め、専門知識と医療との関わりについて考察し、論点を整理して課題を設定するとともに、設定した課題に最先端かつ高度な薬学的知識を駆使して取り組み、解決し、その成果を発信する力を養成することが求められています。このような背景のもと、薬学研究科は薬学専攻の単一専攻科とし、高い倫理観、及び薬学領域に関する高度な専門知識と研究能力を通じて課題を設定し問題を解決する能力を有し、薬学研究に貢献できる研究者・医療従事者を養成することを目的とします。

4. 修了後に想定される主な進路

- ① 学術界における薬学研究者（薬学の専門家・教育者として後進を指導し社会に貢献）
- ② 産業界における薬学研究者（創薬、食品、化粧品研究等を通して社会に貢献）
- ③ 公務員（国立研究機関、公設試験研究機関での研究等を通して社会に貢献）
- ④ 医療機関における薬学研究者（臨床試験や調査研究などの臨床研究等を通して医療の発展に貢献）
- ⑤ 医療機関で高度な専門性を発揮できる医療従事者（医薬品情報担当者、専門医療機関連携薬局担当者等として医療に貢献）

5. 開設予定の教育課程

教育課程を、「特論科目」、「演習科目」、「課題研究」に体系的に区分し、1年次から順次性をもって学修を進めることができるように編成します。また、社会人学生に柔軟に対応した授業を実施します。

① 特論科目

特論科目では、すべての大学院生が履修する必修科目と目的に応じて専門性の高度化を図ることのできる選択必修科目を履修します。

【必修科目】「基礎薬学特論」「医療薬学特論」「研究実践法特論」「研究・医療倫理特論」

【選択必修科目】「天然医薬品資源学特論」、「創薬化学特論」、「生体機能解析学特論」、「薬剤学特論」、「病態薬効解析学特論」、「免疫・アレルギー学特論」、「生化学特論」、「オミクス特論」、「薬物治療研究学特論」

② 演習科目

演習科目では、薬学分野の最先端の研究内容を模擬的・総合的に体験し、研究の方法論とプレゼンテーションのスキルを修得します。

【必修科目】「薬学総合特別演習Ⅰ」、「薬学総合特別演習Ⅱ」

【選択必修科目】「分子モデリング・シミュレーション特別演習」、「化学系高度分析機器特別演習」、「生物系高度分析機器特別演習」、「医療情報解析学特別演習」、「実践医療薬学特別演習」

③ 課題研究

課題研究では、研究能力の向上を目指し、研究室を中心にして研究指導を受けます。博士論文の作成につながるものです。医薬品化学分野、物理・薬剤学分野、応用生物学分野、薬物学分野、実践医療薬学分野などの研究領域から約20件の課題研究で構成されます。

例：「薬剤耐性に関与する抗菌薬抵抗分子の構造・機能解析に関する研究」「生体におけるマスト細胞の生理的意義とその役割に関する研究」「がん化学療法に関わる臨床研究」「医薬品副作用の予測・予防に役立つ情報の構築」

# 設置構想概要資料

---

6. 学位の名称 博士（薬学）
7. 設置場所 金城学院大学 〒463-8521 名古屋市守山区大森二丁目 1723 番地  
Tel: 052-798-0180(代表)
8. 入学定員 2人（収容定員8人）
9. 学生納付金 入学金 200,000円 授業料（年額） 900,000円
10. 競合する大学・研究科・専攻等の名称  
名城大学 大学院薬学研究科薬学専攻（博士課程）  
愛知学院大学 大学院薬学研究科医療薬学専攻（博士課程）  
鈴鹿医療科学大学 大学院薬学研究科医療薬学専攻（博士課程）

（注）上記の概要は現在計画中の予定であり、変更される場合があります。